

# 上野古屋敷遺跡 3

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

平成 21 年 3 月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社  
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第324集

うえ の ふる や しき  
**上野古屋敷遺跡 3**

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

平成 21 年 3 月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社  
財団法人茨城県教育財団

## 序

茨城県では、つくば市を日本における科学技術の研究開発の中核として、さらに国際交流の拠点としてふさわしい街にすべく整備を進めております。

この新しい街づくりの一環として、つくば市と独立行政法人都市再生機構茨城地域支社は、市と首都圏を直結する「つくばエクスプレス」の整備とその沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。

しかしながら、この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である上野古屋敷遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から開発区域内における埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成12年度から平成13年度に上野古屋敷遺跡1区、平成18年度に2区から4区の発掘調査を実施しました。その成果は既に『文化財調査報告』第285・307集として刊行したところです。

本書は、平成18・19年度に調査を実施した上野古屋敷遺跡2・4・5区の成果を収録したものです。本書が、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から多大なご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、ご協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人茨城県教育財団  
理事長 稲葉節生

## 例 言

1 本書は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成18年9月1日から平成19年3月31日、平成19年9月1日から12月31日まで発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字上野字西久保449番地ほかに所在する上野古屋敷遺跡の発掘調査報告書である。

2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査 平成18年9月1日～平成19年3月31日

平成19年9月1日～12月31日

整 理 平成19年4月1日～10月31日

平成21年1月1日～2月28日

3 当遺跡の発掘調査は、平成18年度が調査課長川井正一のもと、平成19年度が調査課長瓦吹堅のもと以下の者が担当した。

平成18年度

首席調査員兼班長 櫻村 宣行

主任 調 査 員 田中 幸夫

主任 調 査 員 花見 勝博

平成19年度

首席調査員兼班長 三谷 正 平成19年9月1日～12月31日

主任 調 査 員 寺内 久永 平成19年9月1日～11月30日

主任 調 査 員 柴山 正広 平成19年10月1日～12月31日

主任 調 査 員 花見 勝博 平成19年12月1日～12月31日

副主任 調 査 員 櫻井 完介 平成19年9月1日～9月30日

調 査 員 菊池 直哉 平成19年9月1日～9月30日

調 査 員 中村 博子 平成19年10月1日～12月31日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。

平成19年度 副 主 査 川井 正一

平成20年度 主任調査員 齋藤 和浩

5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

川井 正一 第1章～第3章第2節の一部 第3章第3節

齋藤 和浩 概要 第1章～第3章第2節の一部 第3章第4節 第5節

## 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、 $X = +12880\text{m}$ 、 $Y = +26,080\text{m}$ の交点を基準点(A1a1)とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0とし、名称は大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 抄録の北緯及び東経の欄には、世界測地系に基づく緯度・経度を( )を付して併記した。

- 3 遺構・遺物・土層の実測図、一覧表、遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S I - 竪穴住居跡 S B - 掘立柱建物跡 S D - 溝跡 S K - 土坑 P G - ビット群  
S E - 井戸跡 S F - 道路跡 S P - 方形竪穴遺構 U P - 地下式坑  
S X - 不明遺構

遺物 P - 土器・陶器・磁器 T P - 拓本記録土器 D P - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品  
T - 瓦

土層 K - 攪乱

- 4 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

- 6 遺構・遺物実測図の縮尺は、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は200分の1、遺構実測図は原則として60分の1で掲載した。  
(2) 遺物実測図は原則として3分の1で掲載した。種類や大きさにより異なる場合があり、それらについては個々に縮尺を表示した。  
(3) 遺構及び遺物の実測図中の表示は次のとおりである。



施軸



火床面・繊維土器断面



竈部材・粘土・黒色処理



煤・油煙

●土器・陶器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ———— 硬化面

- 7 遺物観察表及び遺構一覧表の作成方法は、次のとおりである。

- (1) 遺物番号は通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。  
(2) 計測値の単位はcm及びgで示した。  
(3) 遺物観察表及び遺構一覧表とも( )は現存値、[ ]は推定値であることを示している。  
(4) 備考欄には、土器の現存率及び写真図版番号を記した。

- 8 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例  $N-10^{\circ}-E$ )。

- 9 遺構番号については、各遺構毎に既調査時の最終番号の次から付した。

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
上野古屋敷遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 2区の遺構と遺物	15
1 平安時代の遺構と遺物	15
(1) 竪穴住居跡	15
(2) 井戸跡	20
2 中世・近世の遺構と遺物	22
(1) 掘立柱建物跡	22
(2) 方形竪穴遺構	25
(3) 地下式坑	30
(4) 井戸跡	34
(5) 土坑	37
(6) 堀跡	47
(7) 溝跡	50
(8) 不明遺構	59
3 その他の遺構と遺物	60
(1) 土坑	61
(2) 溝跡	78
(3) ビット群	81
(4) 遺構外出土遺物	85
第4節 4・5区の遺構と遺物	89
1 平安時代の遺構と遺物	89
竪穴住居跡	89
2 その他の遺構と遺物	94
(1) 道路跡	94
(2) 土坑	95
(3) 遺構外出土遺物	99
第5節 まとめ	100
写真図版	PL1～PL15
抄 録	

うえのふるやしきいせきがいよう  
上野古屋敷遺跡の概要



【はじめに】

上野古屋敷遺跡は、つくば市と土浦市の境を流れる桜川右岸の台地上に位置し、平成12・13年度に続いて平成18・19年度にも発掘調査を行いました。調査の結果、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが明らかになっており、縄文時代から中世まで、断続的に集落が営まれていたことがわかりました。この地域は、「上野古屋敷」という遺跡名が示すように、室町時代後半（約550～400年前）に武士たちの屋敷があったと伝えられている場所です。

〈平成18年度の調査区〉



北側から見た2区の完掘状況

〈平成19年度の調査区〉



南側から見た5区の完掘状況



東側から見た3区の完掘状況



南側から見た6区の完掘状況

【調査のあらまし】

今回の調査は、「つくばエクスプレス」沿線開発関連の土地区画整理事業予定地内に当遺跡があることから、遺跡の内容を記録して保存するため、茨城県教育財団が行いました。



## 【調査の内容】



平安時代の井戸の跡です。深さが約2mあり、生活用水を得る場として使用されていました。この井戸跡からは土師器や須恵器の甕の破片が見つっています。



中世の堀の跡です。幅が約2～4m、深さが47～78cmで、土地を区画するためのものと考えられます。この堀の底面から土師器片・須恵器片・陶器片が多量に見つっています。



平安時代の住居の跡です。当時生活していた人々が使用していたと考えられる土師器の坏（現在のお茶碗）や須恵器の甕などが見つかりました。



平安時代の住居の竈跡（現在のコンロ）です。竈を丈夫にするために粘土を使って周りを補強しています。火を焚いた場所が赤く焼けていることがわかります。

## 【調査でわかったこと】

今回の調査で上野古屋敷遺跡の平安時代・中世の集落の様子がわかりました。平安時代には、2～3軒の住居からなる単位集団が、ある程度の間隔をもって存在する散在型の集落に変わっていったと考えられます。今回の調査区から15・16世紀の遺構・遺物が明確に確認されなかったことから、今回の調査区は中世においては集落の外周部にあたっていたと考えられます。



# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

つくば市は、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが、2005年8月に開業した「つくばエクスプレス」に伴う沿線の開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として、土地区画整理事業を進めている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長から茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は平成7年度に現地踏査を実施した。さらに、平成11年8月10～12日、9月30日、11月26・29・30日、12月1・15日、平成12年1月14・17～19日に試掘調査をそれぞれ実施し、遺跡の所在を確認した。平成12年2月15日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、事業地内に上野古屋敷遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成12年3月21日、都市基盤整備公団茨城地域支社長から茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3の第1項の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘についての通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、計画変更による現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成12年3月23日、都市基盤整備公団茨城地域支社長から、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成12年3月24日、茨城県教育委員会教育長は、都市基盤整備公団茨城地域支社長あてに上野古屋敷遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。財団法人茨城県教育財団は、都市基盤整備公団茨城地域支社長から上野古屋敷遺跡埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成12年7月1日から10月31日まで第1次調査、平成13年4月1日から平成14年3月31日まで第2次調査を実施した。

平成16年6月28日、茨城県教育委員会は上野古屋敷遺跡の試掘調査を再度実施した。平成16年7月5日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに事業地内に上野古屋敷遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成18年2月24日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から、茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成18年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに上野古屋敷遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から埋蔵文化財発掘調査事業につい

て委託を受け、平成18年9月1日から平成19年3月31日まで第3次調査、平成19年9月1日から12月31日まで第4次調査を実施した。

## 第2節 調査経過

上野古屋敷遺跡の調査は、第3次調査が7か月、第4次調査が4か月、延べ11か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	平成18年				平成19年			
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
調査準備 表土除去 遺構確認	■							
遺構調査		■						
遺物洗浄 注記作業 写真整理		■						
補足調査								■
撤 収								

工程	平成19年			
	9月	10月	11月	12月
調査準備 表土除去 遺構確認	■			
遺構調査	■			
遺物洗浄 注記作業 写真整理	■			
補足調査				■
撤 収				

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

上野古屋敷遺跡は茨城県つくば市大字上野字西久保449番地ほかに所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、東方約5kmには霞ヶ浦、北端には筑波山がある。つくば市域の地勢は、筑波山の南西麓を南下する桜川の低地と、市の西側を南下する小貝川の低地及びそれらに挟まれた標高25~26mのほぼ平坦な筑波・稲敷台地からなっている。この台地には、花室川、遅沼川、東谷田川、西谷田川など中小河川が南流して、台地縁部を樹枝状に開析している。そのため、谷津や低地が南北に細長く発達し（第1図）、北から南に細長く延びる舌状台地が形成されている。桜川によって大きく開析された流域には、標高約5mの沖積低地が形成され、台地との標高差は約20mである。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には、新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上部に板橋層または常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上部は腐植土層となっている<sup>1)</sup>。関東ローム層は、新期ロームに属し、武蔵野ローム、立川ロームに比定され、軽石層の分布をみると、富士・箱根火山群の活動に由来するものと考えられる。

当遺跡は、つくば市の東部（旧新治部桜村）、桜川右岸の標高25~28mの舌状台地上に立地している。台地は長さ500m、幅250mで、北西側と東側に幅の狭い支谷が入り込み、その低位面との比高は約10mである。支谷を挟んだ約100m北西の台地上には上野陣場遺跡、約1km南西の台地上には柴崎遺跡が所在する。

当遺跡とその周辺の土地利用の現状は、台地縁辺部の一部が雑木林・杉林のほか、台地上は主に畑地として利用されている。また、遺跡の位置する舌状台地を挟むように入り込む支谷は水田または休耕田であり、桜川流域の低地は水田として利用されている。

### 第2節 歴史的環境

上野古屋敷遺跡は縄文時代前期、古墳時代前・中期及び中世・近世を中心とした旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。ここでは、桜川と花室川流域の同時代の遺跡を中心に分布の概要について述べる。

旧石器時代の遺跡数は他の時代と比べて極めて少ない。10か所の石器集中地点が確認され、3か所の石器集中地点からナイフ形石器、搔器、楔形石器、尖頭器、石核、石刃などが多数出土した花室川左岸の東岡中原遺跡<sup>2)</sup> (54)のほか、花室川左岸の柴崎遺跡<sup>3)</sup> (7)、遅沼川左岸の近間神田遺跡<sup>4)</sup> などからナイフ形石器や尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は、多数確認されている。桜川右岸では柴崎遺跡（早期～前期、後期）、上野天神遺跡（中期）(5)、花室遺跡（中期～晩期）(46)、金田西坪B遺跡（中期～晩期）(56)、上境旭台貝塚（後期～晩期）(73)、中根中谷津遺跡<sup>5)</sup>（後期～晩期）(71) などがあり、下流域には国指定史跡の土浦市上高津貝塚がある<sup>6)</sup>。

弥生時代の遺跡は他の時代と比べて少なく、隣接する上野陣場遺跡<sup>7)</sup> (2) や、北西1.5kmに位置している玉取向山遺跡<sup>8)</sup> で集落跡が確認されているほか数か所である。

古墳時代の遺跡は、当流域では61遺跡が確認されている。桜川右岸では、当遺跡と谷津を挟んで北西に位置

している上野陣場遺跡で、前期の小集落と後期の大集落が確認されている。また、後期の集落が確認されている柴崎遺跡、中期の集落跡が確認されている東岡中原遺跡のほか、栗原中台遺跡〈14〉、栗原大山遺跡〈10〉、上境作ノ内遺跡〈76〉などの包蔵地が存在している。古墳は、当遺跡の北西に当地域最大の全長80mの前方後円墳である上野天神塚古墳〈4〉や上野定使古墳群〈3〉が存在している。その他、栗原愛宕塚古墳〈11〉、栗原十日塚古墳〈9〉をはじめ、桜川右岸台地縁辺部に玉取古墳群、円筒埴輪・人物埴輪・動物埴輪が出土した上境ノ台古墳群〈74〉、埴輪片・石槨破片が出土した横町古墳群〈63〉、前方後円墳2基・円墳1基から構成される松塚古墳群〈27〉などが確認されている。<sup>9)</sup> これらの古墳のうち上野天神塚古墳が前期古墳である以外は、いずれも後期古墳である。

奈良・平安時代の当該地は、河内郡菅田郷に属し、北は筑波郡に接している。12世紀には田中の庄に属していた。菅田郷の郷域は、『新編常陸国誌』によれば、現在のつくば市松塚を東端とし、横町、中根、金田、上野、上境、柴崎、東岡、妻木、さらに花室川を越えて学園都市の中央部である吾妻、天久保を経て、刈間、大橋、新井、柳橋と蓮沼川に沿って南西へ広がり、大白碓、小白碓を西限とした地域に比定している<sup>10)</sup>。この地域における奈良・平安時代の遺跡は41か所確認されているが、蓮沼川流域は希薄で、桜川と花室川に挟まれた中根、金田を中心とする台地上に集中している。すなわち、当遺跡の南約2kmに位置し、国指定史跡である金田官街遺跡〈金田西遺跡〉〈59〉・金田西坪A遺跡〈57〉・金田西坪B遺跡、九重東岡庵寺〈58〉を中心として、約4km四方に密集している。金田西坪A遺跡は従来から河内郡家の正倉跡と推定されていたが、平成14年に金田西・金田西坪B遺跡及び九重東岡庵寺の確認調査を実施したところ、多数の掘立柱建物跡等が確認され、河内郡家の郡庁院、正倉院及び関連建物群であることが明らかになった<sup>11)</sup>。九重東岡庵寺は、礎石、瓦塔、瓦、蔵骨器などが出土しており、確認調査で基壇の一部と溝、堂宇と想定される掘立柱建物跡が検出されているが、寺域や伽藍配置等については不明である<sup>12)</sup>。河内郡家の周辺には、西側に隣接し、金田官街遺跡とはほぼ同時に展開し密接に関係する集落跡と考えられている東岡中原遺跡、北西約2kmにあり160軒以上の堅穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された柴崎遺跡などが存在している。これらの集落は、当遺跡の集落を含めて河内郡家を支えた集落と考えられている。

中世・近世以降の遺跡は、近年の分布調査で数多く確認され、中世は54遺跡、近世は50遺跡に及んでいる<sup>13)</sup>。当遺跡の南西約1kmに位置している柴崎遺跡では、中世の方形堅穴遺構が95基確認され、12～13世紀の集落跡と想定されている。また、栗原古塚遺跡〈17〉、栗原沼向遺跡〈19〉、栗原白旗遺跡、栄土器屋遺跡〈29〉などの包蔵地も確認されている。これ以外に城館跡も多く、桜川右岸には方徳故城跡、柴崎片岡上館跡〈69〉、金田城跡〈60〉、花室城跡〈45〉、上ノ室城跡があり、桜川左岸には小田氏の居城であった国指定史跡小田城跡、田上館跡などが位置している。仏教関連遺跡としては、筑波山の南、三村山麓一帯に中世寺院群が存在しており、つくば市三村山清冷院極楽寺跡には、13世紀半ば、大和の高僧忍性が来往して、布教に努めたと伝えられている<sup>14)</sup>。当地域は鎌倉時代から室町時代にかけては小田氏、戦国時代においては小田氏と佐竹氏の支配下となり、中世末まで上野地区は上境・中根・土器屋・松塚・横町・柴崎地区で一郷を構成し、筑波郡と境を接することから境郷とも呼ばれていた。江戸時代は上野・栗原地区は堀氏王取藩の知行地であったが、旧桜村の多くは土浦藩に属することになり、明治4年(1871年)の廃藩置県に至っている。

当該地は当遺跡の名称「上野古屋敷」が示すように、現在のつくば市大字上野地区の集落が中世後半に所在したと言われている故地であり、遺跡内に小字で「古屋敷」の地名が残るところである。この上野地区の南東に隣接する上境地区にも、桜川沿いの微高地に小字で「古屋敷」の地名が残る区域があり、上境古屋敷遺跡〈79〉として『茨城県遺跡地図』<sup>15)</sup>に登録されている。

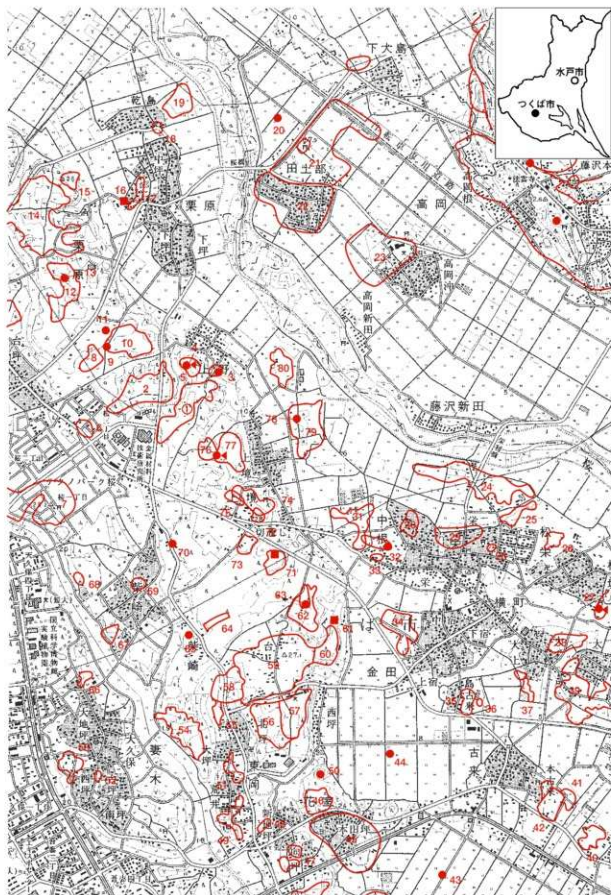
※ 文中の( )内の番号は、第1図及び表1中の該当遺跡番号と同じである。

註

- 1) 大森昌衛・韓領紀夫「茨城の地質をめぐって」『日曜の地学』8 築地書館 1979年9月
- 2) a 成島一也「中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 中原道跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第155集 2000年3月  
b 成島一也・宮田和男「中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 中原道跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集 2000年3月  
c 白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原道跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月  
d 駒澤悦郎「東岡中原道跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第252集 2004年3月
- 3) a 土生朗治「研究学園都市計画桜葉崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 桜崎道跡Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月  
b 森野谷悟「研究学園都市計画桜葉崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 桜崎道跡Ⅱ区・Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年9月
- 4) a 成島一也「(仮称) 葛城地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 神田道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第121集 1997年3月  
b 長岡正雄「(仮称) 葛城地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 神田道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集 1998年3月
- 5) 川村満博「(仮称) 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中根中谷津道跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第139集 1998年9月
- 6) 佐藤孝雄・大内千年編「国指定史跡上高津貝塚A地点-史跡整備に伴う発掘調査報告書-」土浦市教育委員会 1994年3月
- 7) 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭「上野陣場道跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- 8) a 石橋光・関口友紀「玉取道跡-火葬場建設に伴う発掘調査報告-」つくば市教育委員会 2000年3月  
b 奥沢哲也「玉取向山道跡 県立つくば養護学校(仮称) 整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第263集 2006年3月
- 9) 桜村史編さん委員会「桜村史 上巻・下巻」桜村教育委員会 1982年3月
- 10) 中山信名著 栗田寛補訂「新編常陸国誌」宮崎報恩会版 崑書房 1978年12月
- 11) 白田正子「金田西道跡 金田西坪B道跡 九重東岡楽寺 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月
- 12) a 九重庵寺道跡調査団「九重庵寺道跡調査報告-」桜村教育委員会 1984年3月  
b 白田正子「九重東岡楽寺確認調査報告書1」茨城県教育財団 2001年3月
- 13) a つくば市教育委員会「つくば市道跡分布調査報告書-谷田部地区・桜地区-」2001年3月  
b つくば市教育委員会「つくば市道跡地図」2001年7月
- 14) 筑波町史編纂専門委員会「筑波町史 上巻」つくば市 1991年3月
- 15) 茨城県教育庁文化課「茨城県道跡地図」2001年3月

参考文献

- 三谷正・桑村裕「上野古屋敷道跡1 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月  
川井正一「上野古屋敷道跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅺ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第307集 2008年3月



第1図 上野古屋敷遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1「上郷」[常陸藤沢])

表1 上野古屋敷遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	時 代					番 号	遺 跡 名	時 代						
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平			中 近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平	中 近 世
①	上野古屋敷遺跡	○	○	○	○	○	○	41	古 桑 道 跡					○	○
2	上野陣場遺跡		○	○	○	○	○	42	古 桑 館 跡					○	○
3	上野定使古墳群				○			43	上ノ室 桑 里					○	
4	上野天神塚古墳				○			44	金田本 田 遺 跡					○	○
5	上野天神遺跡		○		○			45	花 室 城 跡	○	○	○	○	○	○
6	上野中塚遺跡		○		○	○		46	花 室 遺 跡	○				○	
7	柴 崎 遺 跡				○	○	○	47	花 室 寺 山 前 遺 跡	○				○	○
8	栗原大山西遺跡					○		48	花 室 溝 向 道 跡					○	
9	栗原十日塚古墳				○			49	東 岡 天 神 前 遺 跡					○	○
10	栗原大山西遺跡				○	○		50	花 室 大 日 塚 古 墳				○		
11	栗原愛宕塚古墳				○			51	東 岡 南 遺 跡					○	○
12	栗原五竜遺跡		○		○	○	○	52	妻 木 宮 前 遺 跡					○	○
13	栗原五龍塚古墳				○			53	妻 木 坪 内 遺 跡					○	○
14	栗原中台遺跡		○	○	○	○	○	54	東 岡 中 原 遺 跡	○	○		○	○	○
15	栗原登戸遺跡					○	○	55	東 岡 中 畑 遺 跡					○	
16	栗原古塚古墳				○			56	金 田 西 坪 B 遺 跡	○			○	○	
17	栗原古塚遺跡					○		57	金 田 西 坪 A 遺 跡					○	
18	栗 原 遺 跡					○	○	58	九 重 東 岡 廃 寺					○	○
19	栗原沼向遺跡				○	○	○	59	金 田 西 遺 跡	○			○	○	
20	稲 荷 塚 古 墳				○			60	金 田 城 跡						○
21	広 畑 遺 跡				○	○	○	61	金 田 古 墳					○	
22	田 土 部 館 跡						○	62	横 町 庚 申 塚 遺 跡	○			○	○	
23	五 斗 内 遺 跡				○	○		63	横 町 古 墳 群				○		
24	中 根 遺 跡				○	○	○	64	柴 崎 大 堀 遺 跡						○
25	松 塚 鷲 打 遺 跡					○	○	65	柴 崎 稲 荷 前 古 墳					○	
26	松 塚 高 畑 遺 跡				○	○	○	66	妻 木 淵ノ 渠 遺 跡					○	○
27	松 塚 古 墳 群				○			67	柴 崎 南 遺 跡	○			○	○	○
28	栗 屋 敷 付 道 跡					○	○	68	柴 崎 ボ ッ ケ 遺 跡					○	
29	栗 土 器 屋 遺 跡					○	○	69	柴 崎 片 岡 上 館 跡					○	○
30	中 根 屋 敷 附 館 跡					○	○	70	柴 崎 大 日 古 墳					○	○
31	中 根 不 業 抜 遺 跡		○			○	○	71	中 根 中 谷 津 遺 跡	○	○			○	
32	中 根 と り お い 塚 古 墳				○			72	中 根 中 谷 津 古 墳					○	
33	中 根 宮 ノ 前 遺 跡					○	○	73	上 境 魁 台 貝 塚	○			○		
34	金 田 竜 宮 橋 遺 跡					○	○	74	上 境 滝 ノ 台 古 墳 群					○	
35	古 桑 北 ノ 崎 遺 跡				○	○		75	上 境 滝 ノ 臺 遺 跡	○	○				
36	古 桑 島 ノ 前 塚					○		76	上 境 作 ノ 内 遺 跡	○	○	○			
37	大 南 遺 跡					○	○	77	上 境 作 ノ 内 古 墳 群					○	
38	大 白 畑 遺 跡				○	○	○	78	上 境 どん どん 塚 古 墳					○	
39	大 寺 前 遺 跡				○	○	○	79	上 境 古 屋 敷 遺 跡					○	○
40	吉 瀬 黄 金 遺 跡				○	○	○	80	上 境 北 ノ 内 遺 跡					○	



第2図 上野古屋敷遺跡グリッド設定図（独立行政法人都市再生機構茨城地域支社 中根・金田台地区現況調整士地図2500分の1）



## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

上古屋敷遺跡はつくば市の東部に位置し、桜川右岸の標高25～28mの舌状台地上に立地している。遺跡の範囲は東西150m、南北450mと広大なものであるが、平成18年度は9,922㎡（2・3・4区）、平成19年度は2,229㎡（5・6区）の調査を行った。

今回報告するのは、平成18年度に調査した遺跡南西部の2区6,368㎡と北部の4区127㎡、平成19年度に調査した5区367㎡についてである。当遺跡は平成12・13年度の調査で、旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡であることが判明している。平成18年度の調査では、平安時代の竪穴住居跡2軒、井戸跡1基、中世・近世の掘立柱建物跡3棟、方形竪穴遺構7基、地下式坑3基、井戸跡4基、堀跡1条、溝跡9条、土坑19基、不明遺構1か所、時期不明の溝跡6条、土坑100基、ピット群6か所を確認した。平成19年度の調査では、平安時代の竪穴住居跡2軒、中世・近世の堀跡1条、時期不明の道路跡2条、土坑20基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に10箱出土している。主な出土遺物として、平安時代のものは土師器（坏、甕）、須忠器（坏、高台付坏、蓋、鉢、鉢、甌、瓶）、土製品（紡錘車）、中世のものは土師質土器（小皿、碗、内耳鍋、播鉢）、黒色土器（鉢）、陶器（小皿、甕）、磁器（碗、皿、瓶）、石器（砥石）、金属製品（短刀、釘、環状品、火打金、古銭）、瓦などである。

### 第2節 基本層序

2区の北部（L2e9区）にテストピットを設定して、基本土層の観察を行った（第3図）。

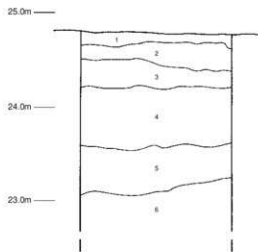
第1層は、暗褐色を呈する現耕作土で、粘性・締まりとも普通で、層厚は8～15cmである。

第2層は、黒色スコリアを少量含む、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は15～30cmである。第2黒色帯（BBⅡ）に対比される。

第3層は、黒色スコリアを少量含む、明褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は14～30cmである。この層も第2黒色帯（BBⅡ）に対比される。

第4層は、灰白色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は50～65cmである。

第5層は、粘土粒子を中量、砂粒を少量、鉄分を微量含む、にぶい黄褐色を呈する砂質粘土層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は36～50cmである。



第3図 基本土層図

第6層は、鉄分を多量、粘土粒子・細礫・砂粒を中量含む、黄褐色を呈する砂層である。粘性は弱く、締まりが強く、層厚は下層が未掘のため不明である。

住居跡等の遺構は、第2層の上面で確認できた。



### 第3節 2区の遺構と遺物

#### 1 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡2軒、井戸跡1基が確認されている。これらの遺構のうち、住居跡は調査区南部の標高26m前後の台地平坦部に、井戸跡は調査区西部に位置している。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

##### (1) 竪穴住居跡

##### 第157号住居跡（第5～7図）

**位置** 調査区南部のN28g区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 南壁中央部を第1778号土坑に、西部をP110に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸3.96m、短軸3.88mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は32～40cmで、ほぼ直立している。

**床** はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁下には壁溝が巡っている。

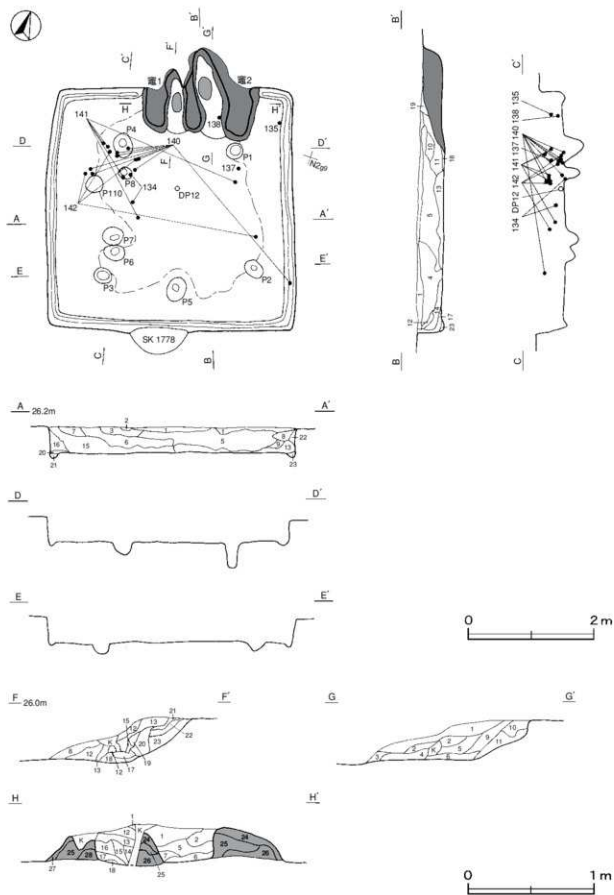
**竈** 2か所。竈1は北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで106cm、燃焼部幅33cmである。西袖部は床面と同じ高さの地山の上に、砂粒・粘土粒子混じりの灰褐色土を積み上げて構築されているが、東袖部は竈2の西袖部が構築されているため遺存していない。火床部は床面をわずかに掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き37cm、幅45cm掘り込んで構築されている。竈2は竈1の東側に付設され、西袖部は竈1の東袖部を改変して構築されている。焚口部から煙道部まで150cm、燃焼部幅50cmである。袖部は竈1と同様に、床面と同じ高さの地山の上に砂粒・粘土粒子混じりの灰褐色土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き65cm、幅80cm掘り込んで構築されている。竈は、構築状況から竈1から竈2へ作り替えられている。

##### 竈土層解説

1 灰 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	15 明 赤 褐色	焼土粒子中量、粘土粒子微量
2 灰 褐色	砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量	16 灰 褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量
3 にぶい褐色	砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量	17 赤 褐色	焼土ブロック・焼土粒子微量
4 灰 褐色	粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量	18 灰 褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック微量
5 灰 褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土粒子微量	19 灰 褐色	粘土粒子少量
6 明 赤 褐色	焼土ブロック少量	20 灰 褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・細礫微量
7 灰 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック微量	21 灰 褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量
8 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	22 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック微量
9 にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	23 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量
10 灰 褐色	粘土粒子中量、焼土ブロック少量	24 灰 褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
11 にぶい赤褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量	25 灰 褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
12 灰 褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	26 灰 褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
13 黒 褐色	炭化粒子・粘土粒子微量	27 灰 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
14 灰 褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量	28 褐色	粘土粒子多量、細礫微量

**ピット** 8か所。各コーナー部寄りに位置しているP1～P4は、深さ16～37cmで、規模と位置から主柱穴である。南壁下の中央部に位置しているP5は深さ22cmで、竈と向かい合う位置にあることから出入り口施設にともなうピットとみられる。P3とP4の間に位置しているP6～P8は、深さ16～25cmで補助柱穴の可能性もあるが、詳細は不明である。

**覆土** 23層に分層できる。6・12～17層はロームブロックを含み、不自然な堆積状況を示している人為堆積であり、他の層は自然堆積である。



第5图 第157号住居跡实测图

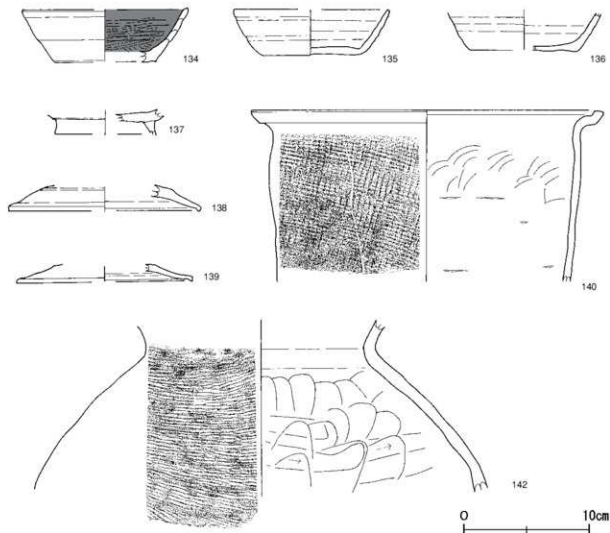
土層解説

- 1 黒 褐色 romeブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 2 黒 褐色 炭化物・rome粒子・焼土粒子微量  
 3 黒 褐色 炭化粒子少量、rome粒子微量  
 4 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、rome粒子微量  
 5 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、rome粒子微量  
 6 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、romeブロック微量  
 7 灰 褐色 rome粒子・炭化粒子微量  
 8 黒 褐色 rome粒子少量、炭化粒子微量  
 9 暗 褐色 rome粒子少量、炭化粒子微量  
 10 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、rome粒子・粘土粒子微量  
 11 黒 褐色 rome粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量  
 12 褐 色 romeブロック・炭化粒子微量

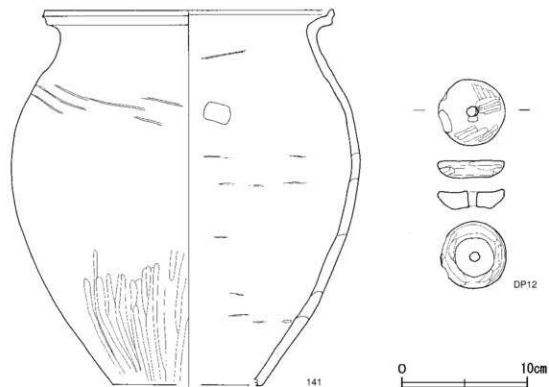
- 13 灰 褐色 romeブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
 14 暗 褐色 romeブロック少量、炭化物・焼土粒子微量  
 15 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、romeブロック微量  
 16 褐色 romeブロック少量、炭化粒子微量  
 17 褐色 romeブロック少量、炭化粒子微量  
 18 にぶい褐色 粘土ブロック・炭化物少量、焼土粒子少量、rome粒子微量  
 19 暗 褐色 炭化粒子・粘土粒子少量、rome粒子・焼土粒子微量  
 20 暗 褐色 炭化物・rome粒子微量  
 21 褐色 rome粒子少量  
 22 褐色 rome粒子少量、炭化粒子微量  
 23 褐色 romeブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器2点(坏・甕)、須恵器7点(坏2・蓋2・高台付坏1・甕1・鉢1)、土製品1点(紡錘車)のほか、土師器片60点(坏2・甕58)、須恵器片37点(坏20・蓋3・甕14)が出土している。134はP8南側、135・137は北東コーナー寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。138は甕2の焚口部から出土している。140・142は、P4付近の覆土上層から床面にかけて出土した破片が接合している。DP12は、覆土下層から出土している。138を除いては、廃絶後に投棄されたか、流れ込んだものとみられる。

所見 甕を作り替えている住居である。時期は、出土土器から9世紀中葉に比定できる。



第6図 第157号住居跡出土遺物実測図(1)



第7図 第157号住居跡出土遺物実測図2)

第157号住居跡出土遺物観察表 (第6・7図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
134	土師器	坏	[132]	4.2	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい腔	普通	外面ロクロナデ 底部不定方向のヘラナデ	覆土中層	50% PL.9
135	須恵器	坏	[124]	3.7	8.0	長石・石英・雲母	灰黄靨	普通	体部ロクロナデ 底部一方のヘラ削り	覆土中層	50% PL.9
136	須恵器	坏	-	(3.3)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰黄靨	普通	体部ロクロナデ 底部一方のヘラ削り	覆土中	20%
137	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	[8.0]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体・底部ロクロナデ	覆土中層	5%
138	須恵器	蓋	[152]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄靨	普通	天井部回転ヘラ削り	覆2焚口部	5%
139	須恵器	蓋	[138]	(1.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄靨	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	5%
140	須恵器	鉢	28.0	(13.6)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部辘子目叩き 内面無文の当て具痕	覆土上層-床面	50% PL.9
141	土師器	甕	23.0	29.8	[11.8]	長石・石英・雲母	にぶい靨	普通	体部下半縦位のヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	覆土中層	60% PL.9
142	須恵器	甕	-	(13.7)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部横位の平行叩き 内面無文の当て具痕	覆土上層-床面	破片

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	紡錘車	5.3	1.5	0.8	(41.2)	土(細砂・雲母)	上面ヘラ磨き 側・下面ヘラ削り	覆土下層	PL.10

### 第158号住居跡 (第8・9図)

位置 調査区南部のN 2c8区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西部が第1号堀に掘り込まれて失われている。また、南壁をP107に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が第1号堀によって失われているほか、北東壁部が擾乱によって失われており、南北軸は3.04mで、東西軸は2.42mが確認されただけであるが、平面形は方形と推測でき、主軸方向はN-41°-Wである。壁高は2~8cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。確認できた部分には、壁溝が巡っている。

**竈** 北西壁の北東寄りに付設されている。焚口部から煙出部まで96cm、燃焼部幅58cmである。袖部は東袖部が失われているが、床面と同じ高さの地山の上に粘土粒子を含む灰褐色土を積み上げて構築されている。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き40cm、幅80cm掘り込んで構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

**竈土層解説**

- |          |                              |          |                    |
|----------|------------------------------|----------|--------------------|
| 1 灰 褐色   | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量      | 5 黒 暗 褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗 赤 褐色 | 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量          | 6 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量        |
| 3 灰 褐色   | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量        | 7 灰 褐色   | 粘土粒子中量、焼土粒子微量      |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 灰 褐色   | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量    |
|          |                              | 9 灰 褐色   | 粘土粒子中量、焼土ブロック微量    |

**ピット** 3か所。東コーナー寄りのP1は深さ13cm、西コーナー寄りのP3は深さ20cmで、位置から支柱穴の可能性があるが、詳細は不明である。P2も深さ20cmであるが、性格は不明である。

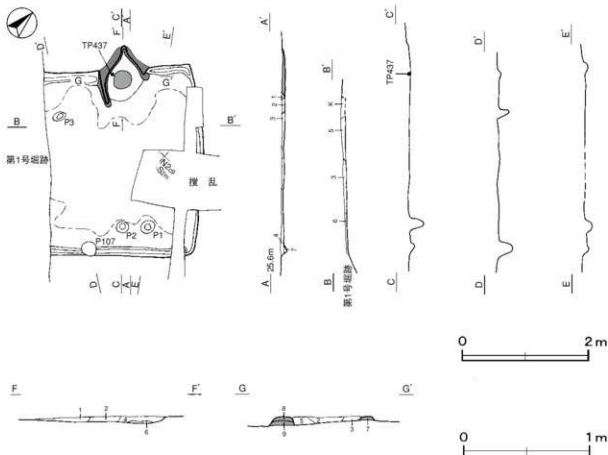
**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックを含んでいる層もあるが、層厚が薄く、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- |        |                               |        |                         |
|--------|-------------------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗 褐色 | 砂粒少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 灰 褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量   |
| 2 灰 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒微量        | 6 黒 褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量        | 7 明 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量          |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・砂粒少量、焼土粒子微量    |        |                         |

**遺物出土状況** 土師器瓷片・須恵器瓷片各1点が、出土しているだけである。TP437は、竈の火床面から出土している。

**所見** 出土遺物が少なく、時期の判定は困難であるが、出土土器から9世紀中葉頃に想定できる。



第8図 第158号住居跡実測図





第9図 第158号住居跡出土遺物実測図

第158号住居跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
TP437	須恵器	甕	-	(35)	-	長石・石英・雲母	に濃い黄褐色	普通	体部斜位の平行明き	内面無文の当て具痕	竈大床面	破片

表2 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	併高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 新旧関係 (古→新)	
								柱穴	北入口	ピット					
157	N 2g8	方形	N-17°-W	3.06×3.88	32-40	平坦	全周	4	1	3	2	人・白土師器・須恵器・精華帯	9世紀中葉	688-683178, P10	
158	N 2c8	[方形]	N-41°-W	3.04×(2.42)	2-8	平坦	一部	-	-	3	1	不明	土師器・須恵器	9世紀中葉	688-711 平野, P97

(2) 井戸跡

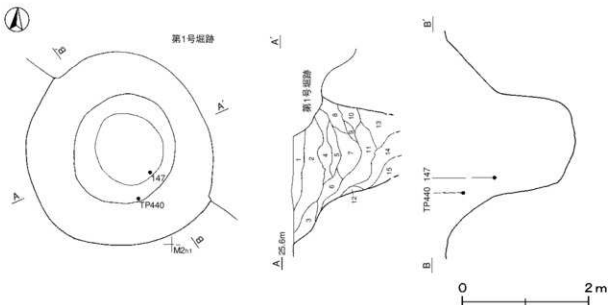
第48号井戸跡 (SK1788) (第10・11図)

位置 調査区西部のM1g0区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 北東部の上面を第1号堀に掘り込まれている。

規模と構造 推定径3.18mの円形で、確認面から80cmまでは漏斗状に、それより下部は径1.5mの円筒状に掘り込まれている。深さは2.06mで、底面は常総粘土層まで掘り込まれ、鍋底状を呈している。

覆土 15層に分層できる。中層の4・6層、下層の10・11・13・14層は、ロームブロックや粘土ブロックを含み、不自然な堆積状況の埋め戻された層で、その他の層は自然堆積である。



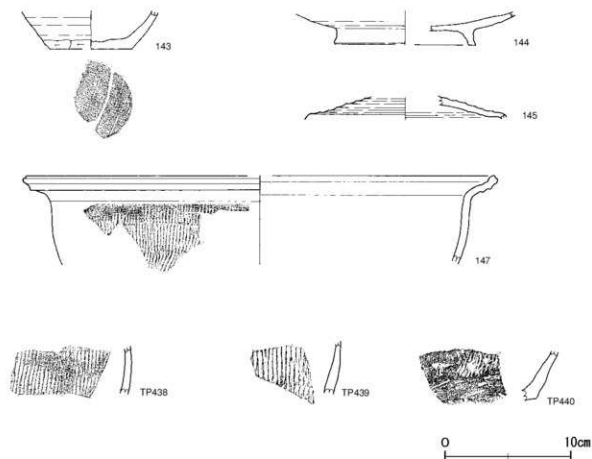
第10図 第48号井戸跡実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2	極暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	9	褐色	粘土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10	灰褐色	粘土ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	11	褐色	粘土粒子少量、ロームブロック微量
5	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック微量
6	褐色	ロームブロック微量	13	灰褐色	粘土ブロック少量
7	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	14	褐色	ロームブロック少量
			15	褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器甕片19点、須恵器片38点（坏12・蓋2・盤1・甕17・鉢6）が、覆土中から出土している。いずれも、土砂の流入や埋め戻された際に混入したものとみられる。147は覆土中層、TP440は覆土上層から出土している。

所見 形状から茶掘りの井戸とみられる。時期は、古代末から中世にかけての溝に掘り込まれていること出土土器から、9世紀前葉に比定できる。



第11図 第48号井戸跡出土遺物実測図

第48号井戸跡出土遺物観察表（第11図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
143	須恵器	坏	-	(30)	[6.4]	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	底部下縁手持ちヘラ盛り 底部一方角のヘラ盛り	覆土中	20%
144	須恵器	盤	-	(27)	[11.2]	長石・石英	灰	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
145	須恵器	蓋	-	(18)	-	長石・石英・雲母	黒黒	普通	外・内面ともにロクロナデ	覆土中	5%
147	須恵器	鉢	[37.0]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にがい青黒	普通	体部縦位の平行叩き 内面ナデ	覆土中層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	須恵器	壺	-	(38)	-	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	外面履位の平行明き 内面機位のヘラナデ	覆土中	破片
TP43	須恵器	壺	-	(41)	-	長石・石英・雲母	黒陶	普通	外面履位の平行明き 内面無文の当て具痕	覆土中	破片
TP40	須恵器	壺	-	(39)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面履位の平行明きの他、機位のヘラ刮り	覆土上層	破片

## 2 中世・近世の遺構と遺物

中世・近世の遺構は、掘立柱建物跡3棟、方形竪穴遺構7基、地下式坑3基、井戸跡4基、堀跡1条、溝跡9条、土坑19基、不明遺構1か所が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

### (1) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、台地平坦部の調査区北西部から2棟、南部から1棟確認されている。桁行方向は、3棟とも同じである。

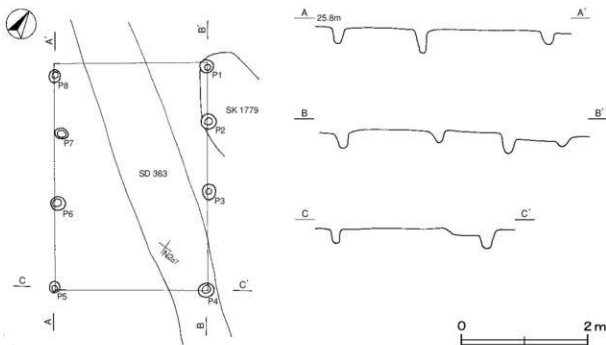
#### 第76号掘立柱建物跡（第12・13図）

**位置** 調査区南部のN2c6区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1779号土坑、第363号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向はN-35°-Wである。規模は桁行3.63m（12尺）、梁行2.42m（8尺）で、面積は8.78㎡である。柱間寸法は、桁行の北妻側から0.90m（3尺）、1.21m（4尺）、1.51m（5尺）である。西側桁行の柱筋は、若干ずれている。

**柱穴** 8か所。長径20～25cmの円形あるいは楕円形で、深さは18～38cmと、やや不均一である。



第12図 第76号掘立柱建物跡実測図

**遺物出土状況** P5の覆土から土師質土器小皿片1点が出土している。

**所見** 形態と規模から倉庫として機能していたものと想定できる。時期は、出土土器と形状から中世と考えられる。



第13図 第76号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第76号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
148	土師質土器	小皿	[12.4]	[3.0]	-	長石・雲母・スコリア	明赤釉	普通	外・内面ロクロナデ	P5覆土中	5%

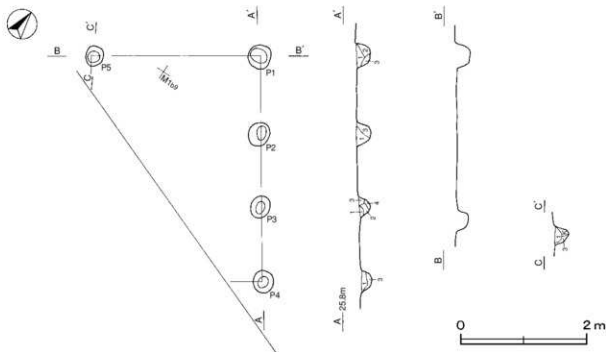
### 第77号掘立柱建物跡 (第14図)

**位置** 調査区北西部のM1 b9区で、標高26mの台地平坦部に位置している。北東側27mに第78号掘立柱建物跡が並列している。

**規模と構造** 南西部が調査区域外に延びていることから、東側桁行と北妻しか確認できなかった。桁行3間、梁行1間の掘立柱建物跡と想定でき、桁行方向はN-34°-Wである。規模は桁行3.60m (12尺)、梁行2.70m (9尺)で、確認された範囲の面積は6.57㎡である。桁行の柱間寸法は、1.21m (4尺)等間である。

**柱穴** 5か所。径28~39cmの円形で、深さは17~24cmである。底面のレベルは、ほぼ一定している。

**覆土** 4層に分層できる。各層とも柱抜き取り後に流れ込んだものである。



第14図 第77号掘立柱建物跡実測図

土層解説

- |       |              |      |           |
|-------|--------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量    | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 P2の覆土から土師器破片2点が出土している。細片で図示できない。

所見 形態と規模から倉庫として機能していたものと想定できる。時期は、伴う遺物がないが、形状が第76号掘立柱建物跡と類似していることから中世と考えられる。

第78号掘立柱建物跡 (第15図)

位置 調査区北西部のM1b0区で、標高26mの台地平坦部に位置している。南西側27mに、第77号掘立柱建物跡が並列している。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向はN-34°-Wである。規模は桁行4.09m (13.5尺)、梁行2.57m (8.5尺)で、面積は10.51㎡である。桁行の柱間寸法は、1.36m (4.5尺)等間である。

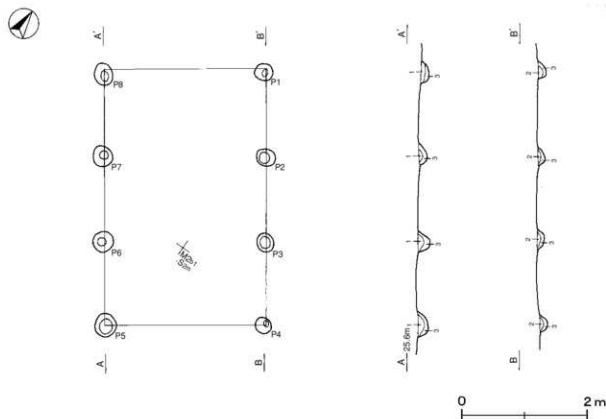
柱穴 8か所。長径27~38cmの円形あるいは楕円形で、深さは12~20cmである。

覆土 3層に分層できる。各層とも柱抜き取り後に流れ込んだものである。

土層解説

- |       |         |      |         |
|-------|---------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量 |      |         |

所見 形態と規模から倉庫として機能していたものと想定できる。時期は、出土遺物がないが、形状が第76・77号掘立柱建物跡と類似し、第77号掘立柱建物跡と並列していることから中世と考えられる。



第15図 第78号掘立柱建物跡実測図

表3 中世掘立柱建物跡一覧表

遺構番号	位置	構造	桁行方向	柱間数		規模 (m)		面積		柱間寸法 (m)		柱穴 (cm)		主な出土遺物	発掘調査関係 (古→新)
				桁行×梁間	桁行×梁間 (m)	桁行	梁間	柱穴数	平面形	深さ					
76	N 2c6	側柱	N-35'-W	3×1	3.63×2.42	8.78	9.0-1.0	2.42	8	円・楕円形	18-38	土師質土器	SK1779, SD063		
77	M 1b9	側柱	N-34'-W	3×1	3.60×2.70	6.57	1.21	2.70	5	円形	17-24	土師器			
78	M 1b0	側柱	N-34'-W	3×1	4.09×2.57	10.51	1.36	2.57	8	円・楕円形	12-20				

(2) 方形竪穴遺構

方形竪穴遺構は、調査区南東部から4基、北西部から3基確認されている。規模は、北西部の3基が南東部のものより小形であるが、主軸方向は両者ともほぼ同じである。

第13号方形竪穴遺構 (SK1738) (第16図)

**位置** 調査区南部のN 3b3k区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 南半部の上位が攪乱されているが、長軸2.42m、短軸1.98mの隅丸長方形で、南東壁の中央部に、長さ1.5m、幅0.69mの壁外へ張り出した出入り口部が付設されている。主軸方向はN-27'-Wである。底面は平坦である。壁高は43-45cmで、外傾して立ち上がっている。

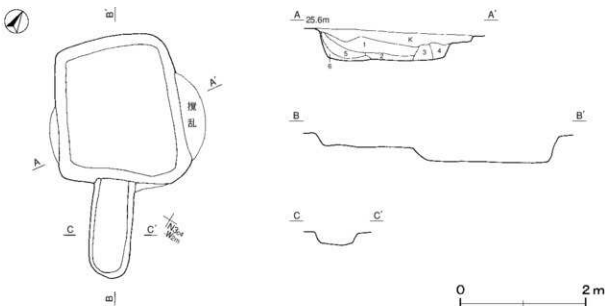
**覆土** 6層に分層できる。各層ともロームブロックを含み、不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2	黒暗褐色	ロームブロック少量	5	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3	黒暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒暗褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器残片・土師質土器小皿片・陶器鉢片各1点が覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。遺物は細片で図示できない。

**所見** 性格は不明であるが、時期は出土土器から中世と考えられる。



第16図 第13号方形竪穴遺構実測図

#### 第14号方形竪穴遺構 (SK1774) (第17図)

**位置** 調査区東部のM3j7区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 東壁部を第1771号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸277m、短軸270mの方形で、南東壁の中央部に、長さ0.27m、幅0.48mの壁外へ張り出した出入り口部が付設されている。主軸方向はN-35°-Wである。底面は平坦である。壁高は7~14cmで、外傾して立ち上がっている。

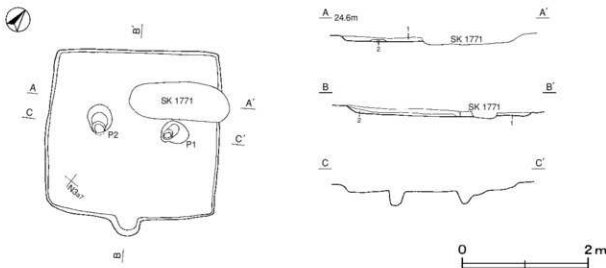
**ピット** 2か所。P1は深さ22cm、P2は深さ25cmで、主軸方向と直交して、0.9mの間隔で中央部に位置していることから柱穴と考えられる。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックと粘土ブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- |                                     |                                    |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 黒 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------------------------------------|------------------------------------|

**所見** 時期は、出土遺物が皆無であることから不明であるが、他の方形竪穴遺構と同様に中世と考えられる。



第17図 第14号方形竪穴遺構実測図

#### 第15号方形竪穴遺構 (SK1775) (第18図)

**位置** 調査区東部のM3i5区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸273m、短軸258mの方形で、南東壁の中央部に、長さ0.89m、幅1.06mの壁外へ張り出した出入り口部が付設されている。主軸方向はN-31°-Wである。底面は平坦で、出入り口部とは10cmの段差を有している。壁高は8~17cmで、緩やかに立ち上がっている。

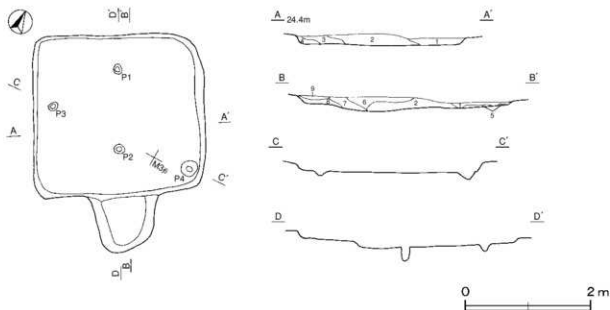
**ピット** 4か所。P1は深さ13cm、P2は深さ23cmで、主軸方向と同じ方向で、1.13mの間隔で中央部に位置していることから柱穴と考えられる。P3は深さ10cmで南西壁寄りに、P4は深さ15cmで東コーナー部にそれぞれ位置しており、性格は不明である。

**覆土** 9層に分層できる。大半の層にロームブロックや粘土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                              |       |                          |
|-------|------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒色  | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 5 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量           |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒色  | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 黒色  | 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量      |
| 4 黒色  | 焼土粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量   | 8 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量             |
|       |                              | 9 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量             |

**所見** 時期は、出土遺物が皆無であることから不明であるが、他の方形竪穴遺構と同様に中世とみられる。



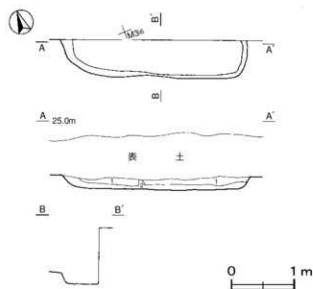
第18図 第15号方形竪穴遺構実測図

**第16号方形竪穴遺構 (SK1780) (第19図)**

**位置** 調査区東部のM316区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 北半部が調査区域外に延びており、東西軸は2.96mで、南北軸は0.60mを確認しただけである。東西軸の方向はN-67°-Wで、隅丸方形あるいは隅丸長方形と想定される。底面は、確認できた部分では平坦である。壁高は19cmで、わずかに外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから、埋め戻されている。



第19図 第16号方形竪穴遺構実測図



**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

2 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量

**所見** 主軸方向が他の方形竪穴遺構と異なっているが, 形状から方形竪穴遺構に含めた。時期は, 出土遺物が皆無であることから不明であるが, 他の方形竪穴遺構と同様に中世と考えられる。

**第17号方形竪穴遺構 (SK1813) (第20図)**

**位置** 調査区北部のM2c3区で, 標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1814号土坑を掘り込んでいる。第1850号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

**規模と形状** 南西部が調査区域外に伸びているが, 長軸2.28m, 短軸1.73mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-19°-Wである。底面は平坦である。壁高は40cmで, やや外傾して立ち上がっている。

**ピット** P1は深さ44cmで北壁寄りに位置していることから, 柱穴の可能性が高い。

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから, 埋め戻されている。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物微量

6 暗褐色 粘土ブロック微量

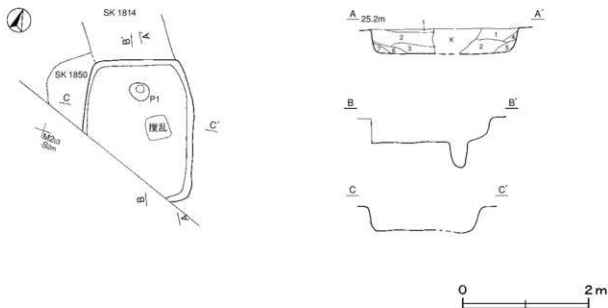
3 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

7 褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量

4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器甕片3点, 須恵器片6点(坏2・高台付坏3・甕1)が覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 時期は, 伴う遺物が出土していないことから不明であるが, 他の方形竪穴遺構と同様に中世と考えられる。



第20図 第17号方形竪穴遺構実測図

### 第18号方形竪穴遺構 (SK1815) (第21図)

**位置** 調査区北部のM2a4区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.66m、短軸1.51mの方形で、長軸方向はN-68°-Eである。底面は平坦で、壁下には壁溝が巡っている。壁高は28cmで、直立している。

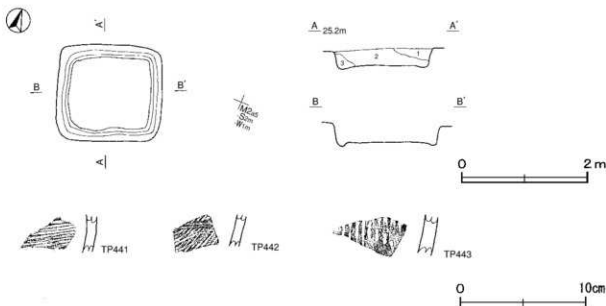
**覆土** 3層に分層できる。いずれの層もロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |   |      |                  |   |     |           |
|---|------|------------------|---|-----|-----------|
| 1 | 暗褐色  | ロームブロック中量        | 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |   |     |           |

**遺物出土状況** 土師器甕片5点、須恵器片5点(坏1・高台付坏1・甕3)が覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 時期は、伴う遺物が出土していないことから不明であるが、他の方形竪穴遺構と同様に中世と考えられる。



第21図 第18号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

### 第18号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第21図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP441	須恵器	甕	-	(3.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	外面斜位の平行叩き	覆土中	破片
TP442	須恵器	甕	-	(2.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄粉	普通	外面斜位の平行叩き	覆土中	破片
TP443	須恵器	甕	-	(3.2)	-	長石・石英・チャート	灰黄粉	普通	外面斜位の平行叩き	覆土中	破片

### 第19号方形竪穴遺構 (SK1816) (第22図)

**位置** 調査区北部のL2j3区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.64m、短軸1.56mの方形で、長軸方向はN-66°-Eである。底面は平坦である。壁高は25cmで、やや外傾して立ち上がっている。

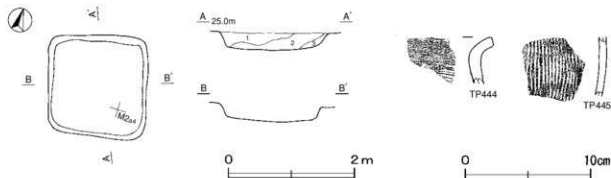
覆土 3層に分層できる。いずれの層もロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器甕片7点、須恵器片3点(坏・鉢・甕)が覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないことから不明であるが、他の方形竪穴遺構と同様に中世と考えられる。



第22図 第19号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第19号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP444	須恵器	鉢	-	(39)	-	長石・石英	灰	普通	体部横位の平行引き 内面ナデ	覆土中	破片
TP445	須恵器	甕	-	(48)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	外面縦位の平行引き 内面ナデ	覆土中	破片

表4 中世方形竪穴遺構一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	壁面	底面	内部施設			覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
								柱穴	ピット	土間			
13	N 3d3	N-27°-W	隅丸長方形	2.42×1.98	43~45	外傾	平坦	-	-	有	人為	土師器・土師質土器・須恵器	
14	M 3j7	N-35°-W	方形	2.77×2.70	7~14	外傾	平坦	2	-	有	人為		本跡→SK1771
15	M 3i5	N-31°-W	方形	2.73×2.58	8~17	底傾	平坦	2	2	有	人為		
16	M 3i6	N-62°-W	[隅丸長方形]	2.96×0.600	19	外傾	平坦	-	-	無	人為		
17	M 2c3	N-19°-W	隅丸長方形	2.28×1.73	40	外傾	平坦	1	-	無	人為	土師器・須恵器	SK1814→4跡, SK1850
18	M 2a4	N-68°-E	方形	1.66×1.51	28	直立	平坦	-	-	無	人為	土師器・須恵器	
19	L 2j3	N-66°-E	方形	1.64×1.56	25	外傾	平坦	-	-	無	人為	土師器・須恵器	

(3) 地下式坑

地下式坑は、北西部から2基、南西部から1基確認されている。規模・形状は異なっているが、主軸方向はいずれもほぼ同じである。

### 第16号地下式坑 (SK1719) (第23図)

**位置** 調査区西部のM2e1区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第363号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**竪坑** 主室東壁から0.56m離れた東側に位置し、上面は径10mほどの円形である。深さは125cmで、主室方向へわずかに傾斜している。主室との間には天井部が遺存し、幅0.68m、高さ0.57mのトンネル状を呈している。

**主室** 長軸1.65m、短軸1.62mの方形で、主軸方向はN-71°-Eである。天井部は崩落している。底面は竪坑へ向かって傾斜している。確認面から底面までの深さは108cmで、四周の壁は南側以外はわずかに内傾して立ち上がっている。

**覆土** 竪坑部は9層、主室部は25層に分層できる。竪坑部は、堆積状況から一度に埋め戻されている。主室部は、18層以下が天井部の崩落層で、上層の1-9層は、堆積状況から埋め戻された層である。

#### 土層解説 (A-A')

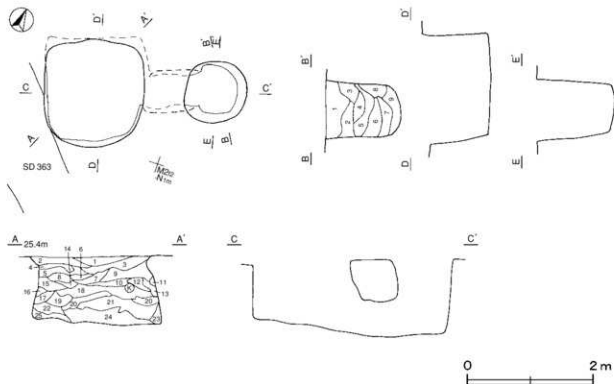
- |    |     |                     |
|----|-----|---------------------|
| 1  | 暗褐色 | ロームブロック微量           |
| 2  | 暗褐色 | ロームブロック中量           |
| 3  | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・砂粒微量 |
| 4  | 暗褐色 | ロームブロック中量           |
| 5  | 暗褐色 | ローム粒子微量             |
| 6  | 暗褐色 | ロームブロック少量 (締まり弱い)   |
| 7  | 暗褐色 | ロームブロック少量、砂粒微量      |
| 8  | 暗褐色 | ロームブロック少量 (締まり強い)   |
| 9  | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 | 暗褐色 | ロームブロック少量 (締まり弱い)   |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子微量 (締まり強い)     |
| 12 | 暗褐色 | ロームブロック中量           |
| 13 | 暗褐色 | ロームブロック微量 (締まり弱い)   |

- |    |     |                       |
|----|-----|-----------------------|
| 14 | 暗褐色 | ローム粒子微量               |
| 15 | 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 16 | 暗褐色 | ローム粒子少量               |
| 17 | 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 18 | 暗褐色 | ロームブロック少量、砂粒微量        |
| 19 | 暗褐色 | ロームブロック少量 (締まり弱い)     |
| 20 | 暗褐色 | ロームブロック微量 (締まり弱い)     |
| 21 | 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量      |
| 22 | 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土粒子・焼土粒子微量 |
| 23 | 暗褐色 | ローム粒子微量               |
| 24 | 暗褐色 | ロームブロック微量             |
| 25 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量        |

#### 土層解説 (B-B')

- |   |     |                       |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | 砂粒少量、ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂粒微量   |
| 3 | 暗褐色 | 焼土粒子・砂粒微量             |
| 4 | 暗褐色 | 砂粒少量、粘土粒子微量           |
| 5 | 暗褐色 | 砂粒少量、ローム粒子微量          |

- |   |     |                         |
|---|-----|-------------------------|
| 6 | 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒微量       |
| 7 | 暗褐色 | 粘土粒子少量、ロームブロック微量        |
| 8 | 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 9 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量        |



第23図 第16号地下式坑実測図

**遺物出土状況** 土師器甕片3点、須恵器片19点（坏16・高台付坏1・甕2）、土師質土器片10点（皿3・鉢7）が覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。

### 第17号地下式坑（SK1783）（第24・25図）

**位置** 調査区西部のM2d1区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**竪坑** 主室の北東側に位置し、上面は長径1.06m、短径0.83mの楕円形状である。深さは70cmで、壁はほぼ直立している。底面は主室に向かって傾斜し、主室の底面とは50cmの段差をなしている。

**主室** 主軸方向である長径2.27m、短径2.08mの不整円形で、主軸方向はN-60°-Eである。底面は平坦である。確認面から底面までの深さは140cmで、竪坑側を除く三方の壁は内傾して立ち上がっている。想定できる天井部までの高さは1.10mほどである。

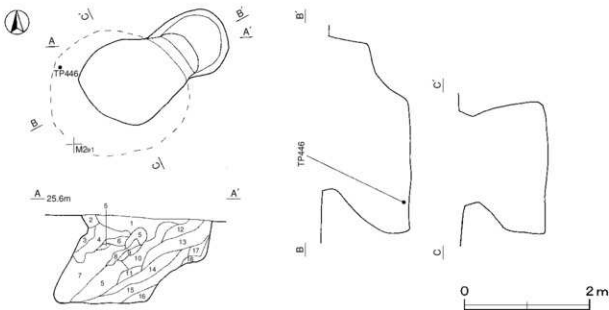
**覆土** 18層に分層できる。12～18層は粘土ブロック・粒子を含んでおり、竪坑から埋め戻された層である。4・5・7層は、その後天井部が崩落した層である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量
2	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック微量（締まり弱い）
3	暗褐色	ロームブロック少量	12	灰褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量
4	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	13	暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量	14	暗褐色	粘土ブロック微量
6	褐色	ローム粒子微量	15	灰褐色	粘土ブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック多量	16	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
8	暗褐色	ロームブロック少量	17	灰褐色	粘土ブロック少量、炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック少量（締まり弱い）	18	褐色	粘土ブロック少量

**遺物出土状況** 土師器甕片6点、須恵器片14点（坏7・釜1・甕6）、土師質土器小皿片1点が覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第24図 第17号地下式坑実測図



第25図 第17号地下式坑出土遺物実測図

第17号地下式坑出土遺物観察表 (第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP446	須臾器	甕	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面刷位の平行明き 内面無文の当て具痕	覆土中	破片

第18号地下式坑 (SK1802) (第26図)

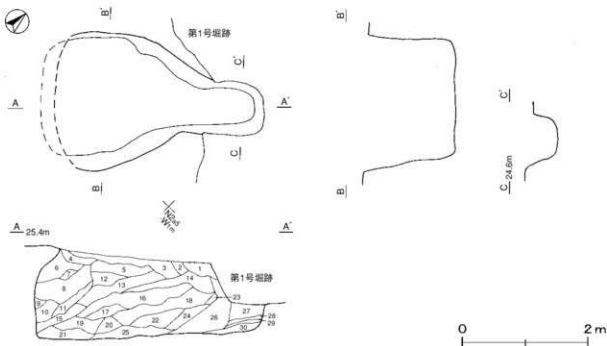
**位置** 調査区西部のM2J4区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 竪坑の上部を第1号堀に掘り込まれている。

**竪坑** 主室の北東側に位置し、上面は長さ1.30m、幅0.88mの長方形である。深さは115cmで、壁はやや外傾して立ち上がっている。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

**主室** 長軸2.25m、短軸1.85mの不整長方形で、竪坑部へ向けてすばまっており、竪坑部を含めた全体の形状は羽子板状を呈している。主軸方向はN-50°-Eで、底面は平坦で、竪坑部へ向けて若干せり上がっている。確認面からの深さは154cmで、両側の壁はほぼ直立し、奥壁部は上位で内傾している。想定できる天井部までの高さは、1.10mほどである。

**覆土** 30層に分層できる。竪坑部の26~30層は埋め戻された層で、17~25層は、その後主室部の天井部が崩落した層である。6~16層も天井部などの崩落層で、上層の1~5層は埋め戻された層である。



第26図 第18号地下式坑実測図

土層解説

1	褐	色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	16	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
2	黒	褐色	粘土粒子微量	17	褐	色	ロームブロック多量、焼土粒子微量
3	黒	褐色	ロームブロック少量	18	暗	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	黒	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	19	暗	褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
5	暗	褐色	粘土ブロック・ローム粒子微量	20	黒	褐色	ロームブロック少量
6	黒	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	21	黒	褐色	粘土粒子微量
7	黒	褐色	焼土粒子微量	22	黒	褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
8	黒	褐色	ロームブロック多量	23	暗	褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
9	黒	褐色	ロームブロック微量	24	黒	褐色	粘土ブロック微量
10	黒	褐色	ロームブロック少量	25	暗	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
11	黒	褐色	ロームブロック微量	26	暗	褐色	粘土ブロック少量、炭化粒子微量
12	暗	褐色	粘土粒子微量	27	暗	褐色	粘土ブロック・焼土粒子微量
13	暗	褐色	粘土ブロック微量	28	暗	褐色	粘土ブロック少量
14	暗	褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量	29	灰	褐色	粘土ブロック中量
15	暗	褐色	ロームブロック多量	30	灰	褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器壺片1点、須恵器片2点（坏・高台付坏）が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。須恵器高台付坏片は、第372号溝跡から出土した破片と接合している。

所見 時期は、伴う遺物が出土していないことから不明であるが、中世後半と考えられる。

表5 中世地下式坑一覧表

遺構番号	位置	主軸方向	規 模 (m)						覆土	主な出土遺物	備 考 新旧関係(古一新)		
			壺 坑			主 室							
			長軸向・短軸向	壁高(cm)	平面形	底面	長軸向・短軸向	壁高(cm)				平面形	底面
16	M2 e1	N-71°-E	1.05×1.00	125	円形	皿状	1.65×1.62	108	方形	平壇	人為	土師器・須恵器・土師瓦土	SD363
17	M2 d1	N-60°-E	1.06×0.83	70	楕円形	傾斜	2.27×2.08	140	不整形円形	平壇	人為	土師器・須恵器・土師瓦土	
18	M2 j4	N-50°-E	1.30×0.88	115	長方形	平壇	2.25×1.85	154	不整形方形	平壇	人為	土師器・須恵器	本路一第1号線跡

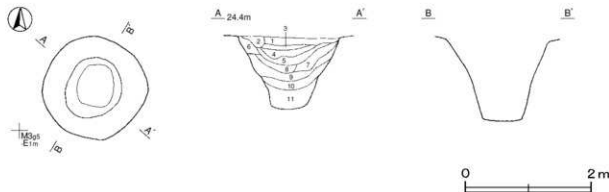
(4) 井戸跡

井戸跡は4基確認され、1基は調査区北部に位置しているが、他の3基は調査区東部の標高25m付近の台地緩斜面部に東西に並んでいる。

第49号井戸跡 (SK1810) (第27図)

位置 調査区東部のM3 f5f区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

規模と構造 径1.65mの円形で、漏斗状に掘り込まれている。深さは1.25mで、底面は常総粘土層まで掘り込まれ、平坦である。



第27図 第49号井戸跡実測図

**覆土** 11層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

**土層解説**

1 黒 褐 色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 褐 灰 色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐 灰 色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 黒 褐 色	焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒 褐 色	砂粒少量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8 黒 色	ローム粒子・砂粒微量
4 黒 褐 色	粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒 色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
5 黒 褐 色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒 褐 色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
		11 黒 褐 色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量

**所見** 形状から素掘りの井戸とみられる。時期は、出土遺物が皆無であることから不明であるが、形状から古代から中世の可能性が高い。

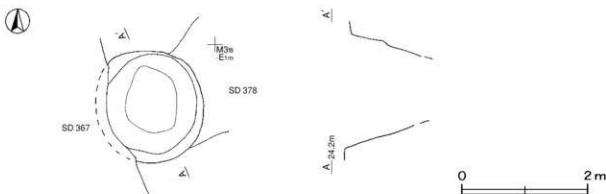
**第50号井戸跡 (SK1828) (第28図)**

**位置** 調査区東部のM3 f8区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第367・378号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と構造** 長径1.84m、推定短径1.70mの円形で、漏斗状に掘り込まれている。常総粘土層まで掘り込まれており、1.22mまで調査したが、湧水のため下部の調査を断念した。

**所見** 形状から素掘りの井戸とみられる。時期は、出土遺物が皆無であることから不明であるが、形状から中世の可能性が高い。



**第28図** 第50号井戸跡実測図

**第51号井戸跡 (SK1834) (第29図)**

**位置** 調査区北部のM3 a11区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 長径1.72m、短径1.52mの楕円形で、長径方向はN-31°-Eである。確認面付近は、若干漏斗状に、それより下部は径1.20mの円筒状に掘り込まれている。深さは1.30mで、底面は常総粘土層まで掘り込まれ、底面は平坦である。

**覆土** 18層に分層できる。全体的にレンズ状に堆積しているが、ロームブロックや粘土ブロックを含んでいる層が多いことから、廃絶後に少しずつ埋め戻されたものとみられる。

**土層解説**

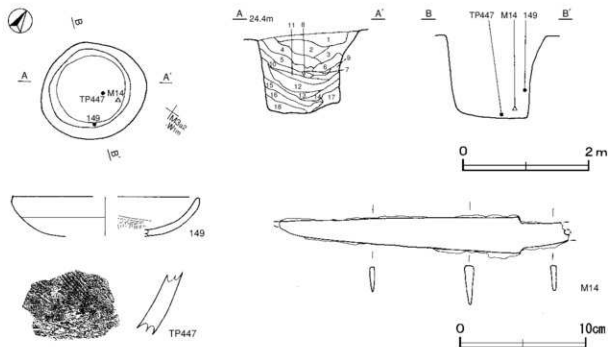
1 黒 褐 色	粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	3 雑 暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 雑 暗 褐 色	粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量		



- |         |                       |         |                       |
|---------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 4 黒褐色   | ロームブロック・粘土ブロック微量      | 12 黒暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色   | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量    | 13 暗褐色  | 粘土粒子少量                |
| 6 黒暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量 | 14 灰褐色  | ロームブロック中量             |
| 7 暗褐色   | ローム粒子少量、粘土粒子微量        | 15 黒暗褐色 | 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量   |
| 8 黒暗褐色  | ローム粒子・粘土粒子微量          | 16 暗褐色  | 粘土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量  |
| 9 灰褐色   | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量      | 17 褐色   | ロームブロック中量、粘土粒子少量      |
| 10 黒暗褐色 | 粘土ブロック少量              | 18 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 11 暗褐色  | ローム粒子・粘土粒子少量          |         |                       |

**遺物出土状況** 須恵器残片・土師質土器皿片・短刀各1点が出土している。149は覆土中層、M14は覆土下層、TP447は底面から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 形状から素掘りの井戸とみられる。時期は、出土土器から13世紀後半に比定できる。



第29図 第51号井戸跡・出土遺物実測図

第51号井戸跡出土遺物観察表 (第29図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
149	土師質土	皿	[14.8]	(3.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部ロクロナデ 内底面ハケナデ	覆土中層	20%	
TP447	須恵器	盤	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面刷位の平行明り 下縁横位のヘラ削り	床面	破片	
番号	器種	全長	刀身長	身幅	身厚さ	茎長	茎幅	茎厚さ	重量	特 徴	出土位置	備考
M14	短刀	(23.0)	(19.2)	3.0	0.85	(3.8)	1.9	0.55	(121.5)	両側 目釘穴有り	覆土下層	PL10

### 第52号井戸跡 (SK1847) (第30図)

**位置** 調査区東部のM3 f7区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 東半部の上面を第367号溝に掘り込まれている。

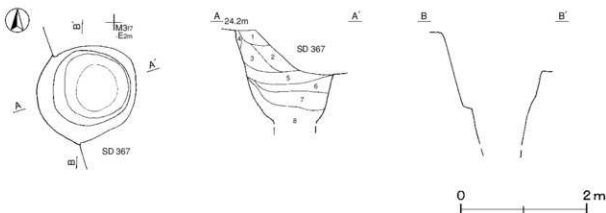
**規模と構造** 推定径1.80mの円形で、確認面から1.20mまでは漏斗状に、それより下部は径0.70mほどの円筒状に掘り込まれている。常総粘土層まで掘り込まれており、1.72mまで調査したが、湧水のため下部の調査を断念した。

**覆土** 8層に分層できる。全体的にレンズ状に堆積しているが、粘土ブロックを含んでいる層が多いことから、廃絶後に埋め戻されたものとみられる。

**土層解説**

1	黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量、粘土ブロック・焼土粒子微量	5	黒 褐色	粘土ブロック中量、炭化物・砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒 褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子・砂粒微量	6	灰 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
3	黒 色	焼土ブロック・粘土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・砂粒微量	7	褐色 灰色	砂粒中量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	褐色 灰色	砂粒中量、粘土ブロック・ローム粒子微量

**所見** 形状から素掘りの井戸とみられる。時期は、出土遺物が皆無であるが、中世の第367号溝に掘り込まれていることから、中世あるいはそれ以前と考えられる。



第30図 第52号井戸跡実測図

表6 中世井戸跡一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 新旧関係 (内→新)
				長径(軸) × 短径(軸)	面積						
49	M315	-	円形	1.65 × 1.65	125	掘斗	平坦	自然			
50	M318	-	[円形]	1.84 × 1.70	(122)	掘斗	-	人為		SD367, 378	
51	M3a1	N-31'-E	楕円形	1.72 × 1.52	130	掘斗・掘	平坦	人為	築造器・土師瓦土器・釘刀		
52	M317	-	[円形]	(1.63) × (1.39)	(172)	掘斗・掘	-	人為		本跡→SD367	

(5) 土坑

今回の調査で、中世・近世とみられる土坑19基が確認されている。これらの土坑は、主として調査区中央部から南部及び北西部の2か所に集中している。形状も前者は円形・楕円形のものが主体で、後者は方形・長方形のものが大半を占めている。以下、それらの土坑のうち遺物が出土しているものについて解説し、それ以外の土坑については一覧表と実測図を掲載する。

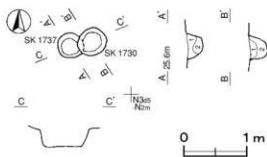
**第1730号土坑 (第31図)**

**位置** 調査区南部のN3c4区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1737号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径0.49m、短径0.41mの楕円形で、長径方向はN-62°-Eである。深さは27cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。



第31図 第1730・1737号土坑実測図

**土層解説**

- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |

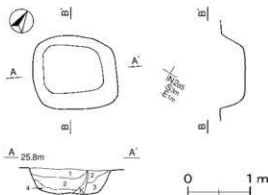
**遺物出土状況** 土師質土器皿片1点が、覆土中から出土している。土師質土器片は、土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中世と考えられるが、性格は不明である。

**第1734号土坑 (第32図)**

**位置** 調査区南部のN 2d4区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.33m、短軸1.16mの隅丸長方形で、長軸方向はN-57°-Eである。深さは40cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。



第32図 第1734号土坑実測図

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |   |     |                |
|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 | 灰褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   |

**遺物出土状況** 陶器鉢片1点が、覆土中から出土している。陶器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中世と考えられるが、性格は不明である。

**第1747号土坑 (第33図)**

**位置** 調査区南部のN 3c4区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.40m、短軸1.05mの長方形で、長軸方向はN-38°-Wである。深さは29cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

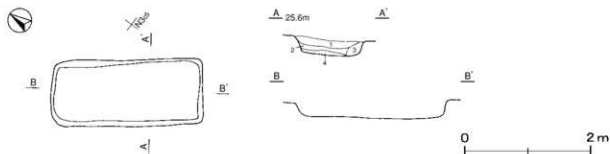
**覆土** 4層に分層できる。水平な堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |   |     |                     |   |       |                |
|---|-----|---------------------|---|-------|----------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 | 暗褐色   | ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 2 | 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量        | 4 | にぶい褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器甕片2点、須恵器甕片1点、土師質土器片4点(小皿1・鍋1・不明2)、鉄滓1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中世と考えられるが、性格は不明である。



第33図 第1747号土坑実測図

### 第1754号土坑 (第34図)

**位置** 調査区南部のN 2b7区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 南西壁部を第1751号土坑に掘り込まれている。第1号掘跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 一辺1.03mの隅丸方形である。深さは40cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

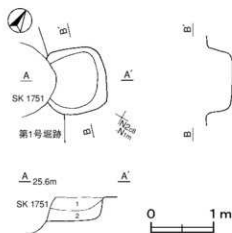
**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

**遺物出土状況** 土師質土器鍋片1点が、覆土中から出土している。土師質土器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土が埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第34図 第1754号土坑実測図

### 第1755号土坑 (第35図)

**位置** 調査区中央部のM 3j1区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.96m、短径0.73mの楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。深さは44cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

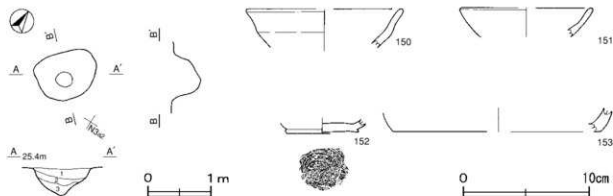
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

#### 土層解説

- |        |                          |      |                |
|--------|--------------------------|------|----------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量 | 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量  |
|        |                          | 3 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器甕片・須恵器坏片・黒色土器鉢片各1点、土師質土器片10点(小皿6・鍋4)が、覆土中から出土している。いずれも土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中世と考えられるが、性格は不明である。



第35図 第1755号土坑・出土遺物実測図

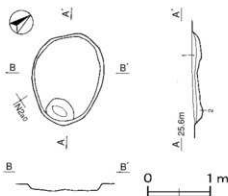
第1755号土坑出土遺物観察表 (第35図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
150	土師質土器	小皿	[12.4]	(3.1)	-	細砂・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
151	土師質土器	小皿	[10.4]	(2.3)	-	細砂・雲母	橙	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
152	土師質土器	小皿	-	(1.2)	5.8	細砂・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	10%
153	黒色土器	鉢	-	(2.0)	[16.4]	細砂	黒	普通	体面へう磨き 内面ロクロナデ	覆土中	5%

#### 第1756号土坑 (第36図)

**位置** 調査区中央部のM2j0区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.49m、短径1.14mの楕円形で、長径方向はN-46°-Wである。深さは9cmで、底面は若干凹凸である。壁は外傾して立ち上がっている。



第36図 第1756号土坑実測図

**覆土** 2層に分層できる。堆積状況から、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器鍋片1点が、覆土中から出土している。土師質土器片は、土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

**所見** 時期は、出土土器から中世と考えられるが、性格は不明である。

#### 第1787号土坑 (第37図)

**位置** 調査区西部のM1h0区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.79m、短径0.62mの楕円形で、長径方向はN-34°-Wである。深さは14cmで、底面は東側へ傾斜している。壁は緩やかに立ち上がっている。

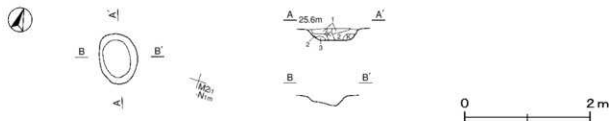
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |        |                       |        |              |
|--------|-----------------------|--------|--------------|
| 1 灰 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |        |              |

**遺物出土状況** 土師質土器皿片1点が、覆土中から出土している。土師質土器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土が埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第37図 第1787号土坑実測図

### 第1791号土坑 (第38図)

**位置** 調査区北部のL3J3区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.21m、短軸1.15mの方形である。深さは44cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

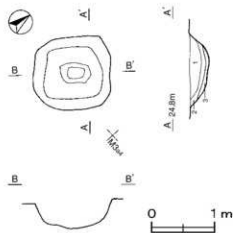
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量    |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量    |

**遺物出土状況** 土師器甕片・土師質土器皿片各1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土が埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第38図 第1791号土坑実測図

### 第1804号土坑 (第39図)

**位置** 調査区北西部のM2b1区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.02m、短径0.96mの円形である。深さは62cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

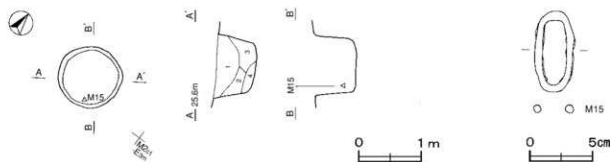
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |        |                  |        |                  |
|--------|------------------|--------|------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量        | 4 暗 褐色 | ロームブロック微量        |

**遺物出土状況** 須器器坯片1点、土師質土器鍋片3点、環状鉄製品1点が、覆土中から出土している。M15は覆土下層から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第39図 第1804号土坑・出土遺物実測図

第1804号土坑出土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M15	環状品	6.4	3.2	0.6	169	鉄	完形	覆土下層	PL10

#### 第1806号土坑 (第40図)

**位置** 調査区北西部のM2b1区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.31m、短軸0.95mの長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。深さは49cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

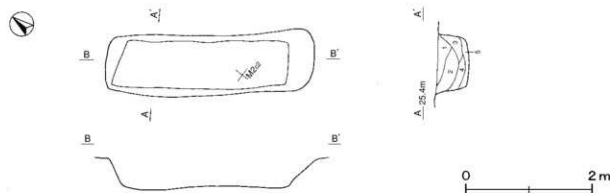
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

##### 土層解説

- |   |     |                  |  |   |     |                  |
|---|-----|------------------|--|---|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量        |  | 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |  | 5 | 暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック多量        |  |   |     |                  |

**遺物出土状況** 須恵器片・土師質土器鍋片・陶器欠片・不明土製品各1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第40図 第1806号土坑実測図

#### 第1807号土坑 (第41図)

**位置** 調査区北西部のM2b2区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1814号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長軸5.45m、短軸1.08mの長方形で、長軸方向はN-35°-Wである。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

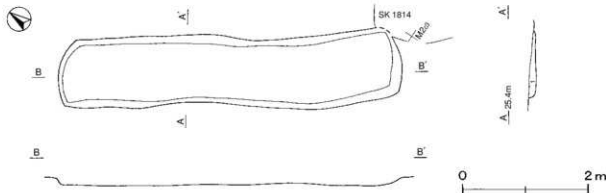
**覆土** 単一層である。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器甕片1点、須恵器片4点(坏1・甕2・瓶1)、土師質土器片2点(皿・鍋)、陶器碗片1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第41図 第1807号土坑実測図

**第1814号土坑 (第42図)**

**位置** 調査区北西部のM2c3区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 南東部を第17号方形竪穴遺構に掘り込まれている。第1807・1850号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 確認できた長軸1.55m、短軸1.24mの長方形で、長軸方向はN-39°-Wである。深さは24cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

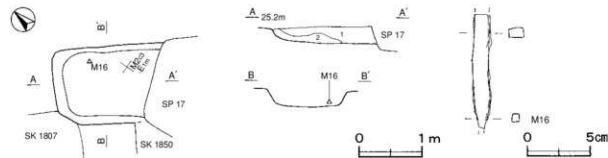
**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物微量

**遺物出土状況** 土師器甕片1点、土師質土器鍋片3点、磁器碗片1点、鉄製品1点(鬚状品)が、覆土中から出土している。M16は覆土下層から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



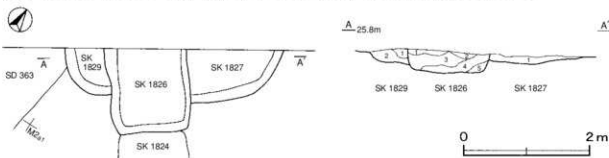
第42図 第1814号土坑・出土遺物実測図





**遺物出土状況** 須恵器甕片2点、土師質土器片5点（小皿1・鍋3・焙烙1）、陶器碗片4点、磁器碗片・瓦片各1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土が埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から近世と考えられる。



第44図 第1826・1827・1829号土坑実測図

#### 第1844号土坑 (第45図)

**位置** 調査区北西部のM1a0区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第363号溝跡を掘り込んでいる。第1848号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 確認できた長軸1.50m、短軸0.80mの長方形で、長軸方向はN-57°-Eである。深さは36cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

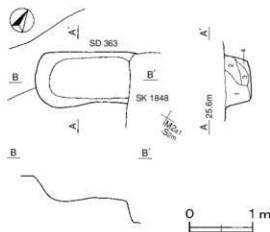
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量（締まり強い）
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量（締まり弱い）

**遺物出土状況** 土師質土器鍋片2点、陶器鉢片1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土が埋め戻されているが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第45図 第1844号土坑実測図

#### 第1846号土坑 (第46図)

**位置** 調査区中央部のM2d7区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第369号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認できた長軸1.60m、短軸0.80mの隅丸長方形で、長軸方向はN-29°-Wである。深さは25cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

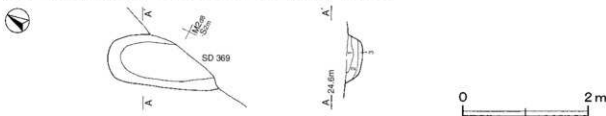
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

##### 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器断片1点が、覆土中から出土している。土師質土器片は、土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

所見 時期は、出土土器から中世と考えられるが、性格は不明である。



第46図 第1846号土坑実測図

第1737号土坑土層解説 (第31図)

1 褐灰色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

第1827号土坑土層解説 (第44図)

1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第1829号土坑土層解説 (第44図)

1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

表7 中世土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新31関係 (内→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1730	N 3c4	楕円形	N-62°-E	0.49×0.41	27	外傾	凹状	自然	土師質土器	SK1737→本跡
1734	N 2d4	隅丸長方形	N-57°-E	1.33×1.16	40	外傾	平坦	人為	陶器	
1737	N 3c4	円形	-	0.41×0.41	27	外傾	凹状	人為		本跡→SK1730
1747	N 3c4	長方形	N-38°-W	2.40×1.05	29	外傾	平坦	人為	土師・瓦器・土師土器・土師	
1754	N 2b7	隅丸方形	-	1.03×1.03	40	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK1751, 第1号集積
1755	M 3j1	楕円形	N-40°-E	0.96×0.73	44	外傾	凹状	自然	土師・瓦器・土師土器・土師	
1756	M 2j0	楕円形	N-46°-W	1.49×1.14	9	外傾	凹凸	自然	土師質土器	
1787	M 1h0	楕円形	N-34°-W	0.79×0.62	14	縦斜	傾斜	人為	土師質土器	
1791	L 3j3	方形	-	1.21×1.15	44	外傾	凹状	人為	土師器・土師質土器	
1804	M 2b1	円形	-	1.02×0.96	62	直立	平坦	人為	須恵器・土師質土器・土師土器	
1806	M 2b1	長方形	N-40°-W	3.31×0.95	49	直立	平坦	人為	須恵器・土師質土器・陶器	
1807	M 2b2	長方形	N-35°-W	5.45×1.08	12	縦斜	平坦	人為	土師・瓦器・陶器・土師土器	SK1804
1814	M 2c3	[長方形]	N-29°-W	(1.25)×1.24	24	外傾	平坦	人為	土師・土師土器・土師・土師	本跡→SP17, SK1807・1850
1822	L 2j2	方形	-	0.88×0.78	7-19	縦斜	凹凸	人為	古銭	本跡→SK1849
1826	L 2j1	[長方形]	N-40°-W	(1.25)×1.25	27	外傾	平坦	人為	須恵器・土師土器・土師・土師	SK1827・1829→本跡
1827	L 2j1	-	-	(1.48)×(0.85)	14	縦斜	平坦	人為		本跡→SK1826
1829	L 2j1	-	-	(0.65)×(0.60)	22	縦斜	傾斜	人為		本跡→SK1826
1844	M 1a0	[長方形]	N-57°-E	(1.50)×0.80	36	縦斜	平坦	人為	土師質土器・陶器	SD303→本跡, SK1848
1846	M 2d7	[隅丸長方形]	N-29°-W	(1.60)×0.80	25	縦斜	凹状	自然	土師質土器	本跡→SD309

(6) 堀跡

今回の調査で、2・5区にまたがっている中世とみられる堀跡1条が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。なお、平面図については遺構全体図(第4・86図)で掲載するにとどめる。

第1号堀跡(SD364)(第4・47・48・86図)

位置 調査2区西部のM1c7~N3h2区。調査5区南部のL1j4~M1a4区で、標高25.5~26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第158号住居跡、第363号溝跡、第1号不明遺構を掘り込み、第18号地下式坑、第48号井戸、第1751・1752・1754・1779・1882号土坑に掘り込まれている。また、第366・369・370号溝跡、第1785号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 2区は、調査区域外にかかるN3h2区から北西方向(N-43°-W)へ直線的に伸び、M1c7区で調査区域外に至っている。確認できた長さは830mで、上幅2.48~3.96m、下幅2.16~2.86mで、深さは47~78cmである。断面形は逆台形状で、底面の標高は南東端が最も高く、北西部へ行くに従って低くなっている。南端部との比高は44cmである。なお、南東部底面の北東壁寄りに、幅1m内外で、長さ12.5mにわたって浅い溝状の落ち込みが確認されている。その底面は踏み固められた状態で、道路として使用されていたと看取できる。

5区は、調査区域外にかかるM1a4区から北西方向(N-48°-W)へ直線的に伸び、L1j4区で調査区域外に至っている。確認できた長さは400mで、上幅3.97m、下幅3.05mで、深さは84cmである。断面形は逆台形状で、2区と同様に底面に道路として使用されていたと考えられる硬化面が確認されている。

覆土 A-A'は11層、B-B'は18層、C-C'、D-D'は8層に分層できる。B-B'の中層から下層にかけての7・8・11・18層は、ロームブロックを含み堆積状況から埋められているが、他の層は自然堆積である。C-C'、D-D'は各層にロームブロックを含み、水平な堆積状況から埋められている。

土層解説(A-A')

- |       |                                    |        |                     |
|-------|------------------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量         | 5 黒褐色  | 炭化粒子・砂粒少量、ロームブロック微量 |
| 2 灰褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量              | 6 黒褐色  | 炭化粒子少量、ロームブロック・砂粒微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・砂粒少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 7 褐色   | ローム粒子中量、炭化物微量       |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・砂粒少量、焼土粒子微量           | 8 褐色   | 炭化粒子少量、ロームブロック微量    |
|       |                                    | 9 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子微量      |
|       |                                    | 10 褐色  | ロームブロック中量           |
|       |                                    | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量      |

土層解説(B-B')

- |       |                     |        |                  |
|-------|---------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量      | 10 黒褐色 | ローム粒子微量          |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量        | 11 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   | 12 黒褐色 | ロームブロック微量        |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量             | 13 褐色  | ローム粒子少量          |
| 5 暗褐色 | ローム粒子微量             | 14 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量         | 15 黒褐色 | ロームブロック少量        |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量   |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量    | 17 灰褐色 | 砂粒・ロームブロック少量     |
| 9 暗褐色 | ロームブロック微量           | 18 褐色  | ロームブロック少量        |

土層解説(C-C'、D-D')

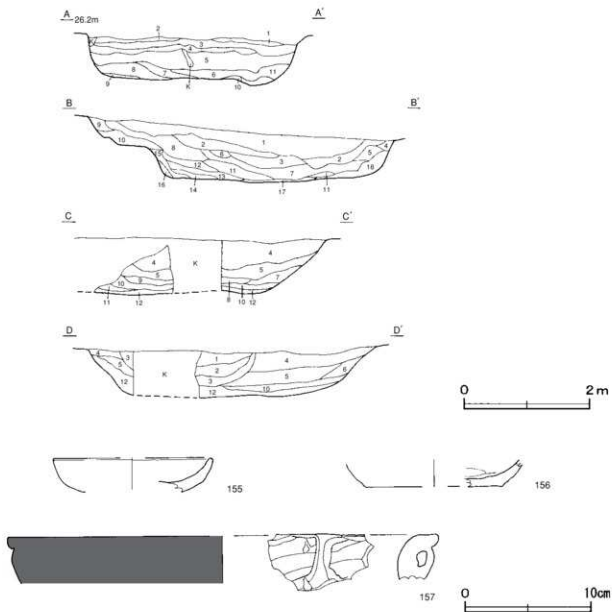
- |       |                       |         |            |
|-------|-----------------------|---------|------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量      | 7 黒褐色   | ローム粒子・砂粒少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色   | ローム粒子微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          | 9 黄褐色   | ロームブロック多量  |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          | 10 黒褐色  | ローム粒子微量    |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量       | 11 灰黄褐色 | ロームブロック中量  |
| 6 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量        | 12 黒褐色  | ロームブロック中量  |

遺物出土状況 2区では、縄文土器片7点、土師器片117点(坏7・甕110)、須恵器片109点(坏29・高台付坏4・甕75・鉢1)、土師質土器片19点(皿14・鍋5)、陶器片8点(碗1・甕7)、鉄製品3点が、覆土中から出土している。いずれも土砂の流入や埋められた際の混入とみられる。155は南部の覆土中層、TP449は北

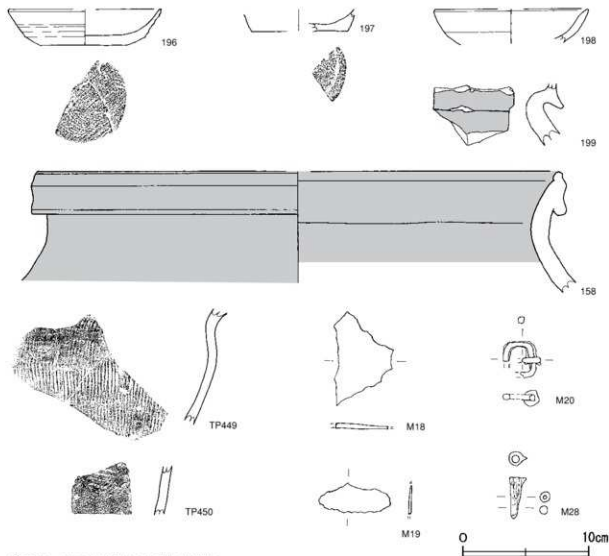
部の覆土中層、TP450は北部の覆土下層、158・M18は北部の底面から出土している。

5区では、縄文土器片3点(深鉢)、土師器片14点(甕類)、土師質土器片4点(皿)、陶器片4点(甕)、不明鉄製品1点が出土している。いずれも土砂の流入や埋め戻された際の混入とみられる。196~199・M28は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 両端が調査区域外へ延びており、全体が確認できないが、上幅が3m内外と幅広であることから、堀の可能性が高い。堀と仮定すると、北西側が壱支谷の谷頭であることから、堀の北東側を区画していた可能性がある。時期は、底面付近から9世紀代の土師器・須恵器が比較的多量に出土しているが、常滑焼破片も底面付近から出土しており、掘削された上限は9世紀代で、埋没したのは15世紀前半と考えられる。



第47図 第1号堀跡・出土遺物実測図



第48図 第1号堀跡出土遺物実測図

2区 第1号堀跡出土遺物観察表 (第47・48図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
155	土師器	皿	[12.4]	(2.7)	-	細砂	褐	普通	口縁部ロクロナデ 内底面仕上げナデ	覆土中層	10%
156	土師器	皿	-	(2.1)	[10.8]	細砂	橙	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	10%
157	土師器	内耳鍋	[33.8]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	耳貼り付け部周辺ナデ	覆土中	破片
158	陶器	甕	[41.4]	(9.6)	-	長石・石英	にぶい靑	普通	口縁部削り返し ロクロナデ	底面	破片 常滑らb
TP449	須恵器	甕	-	(9.3)	-	細砂・雲母	灰黄靑	普通	外面腹位の平行印き 内面無文の当て具跡	覆土中層	破片
TP450	須恵器	甕	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	外面胴位の平行印き 下層腹位のへう削り	覆土下層	破片

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	板状品	(7.5)	(4.8)	0.4	(26.3)	鉄	外周部を欠損している 鋼の気の可能性有り	底面	
M19	火打金	2.3	5.7	0.2	(11.4)	鉄	下層に向かってやや厚みを増す	覆土中	PL10
M20	鉄具	2.9	2.9	0.5	(5.5)	鉄	利金は外縁金具に巻き付けてある	覆土中	

5区 第1号堀跡出土遺物観察表 (第48図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
196	土師器	杯	[12.0]	2.9	6.8	石英・細砂	橙	普通	ロクロ成形 底部回転糸切り 内面へラナデ	覆土中	40% PL14

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
197	土器土器	皿	-	(18)	[7.6]	細砂・雲母	橙	普通	底部回転糸切り 内面仕上げナデ	覆土中	5% PL15
198	土器土器	皿	[12.0]	(27)	-	細砂	橙	普通	口縁部ロクロナデ 内面仕上げナデ	覆土中	破片 PL15
199	陶器	甕	-	(48)	-	長石・石英・黒色粒子	暗灰黄	普通	口縁部押し返し ロクロナデ	覆土中	新 384) PL5

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M28	銅環	3.4	1.4	0.6	4.9	鉄	中空 基部に突起を有す	覆土中	PL15

## (7) 溝跡

今回の調査で、中世とみられる溝跡9条が確認されている。これらの溝跡は、南東部から北西方向へ延びているものと、南西部から北東方向へ延びている2者に大別できる。以下、それらの溝跡について解説する。なお、平面図については遺構全体図(第4図)で掲載するにとどめる。

### 第363号溝跡(第4・49図)

**位置** 調査区北西部のL1j0-N2d8区で、標高25.5~26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第16号地下式坑、第1803・1829・1844・1845・1848号土坑、第1号堀、第369・370号溝に掘り込まれている。また、第76号掘立柱建物跡、第1号不明遺構、第76号ピット群とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** N2d8区付近から北西方向(N-35°-W)へ蛇行しながら延びて、L1j0区で調査区域外に至っている。確認された長さは73.2mで、上幅0.64~1.40m、下幅0.30~0.52mで、深さは12~20cmである。断面形は浅いU字状で、底面の標高は南端部が最も高く、北西部へ行くに従って低くなっている。南端部との比高は25cmである。

**覆土** A-A'は3層、B-B'は4層に分層できる。A-A'は自然堆積であるが、B-B'は堆積状況から一部埋められている。

#### 土層解説(A-A')

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量

2 暗褐色 ロームブロック少量、砂粒微量

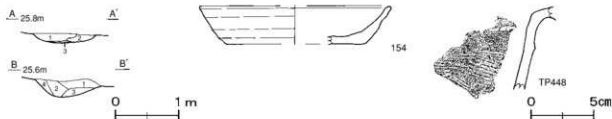
#### 土層解説(B-B')

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 3 灰褐色 炭化物・ローム粒子微量

2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 4 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片3点、土師器甕片9点、須恵器片26点(坏12・高台付坏1・鉢1・甕12)、土師質土器片5点(皿3・鍋1・搾鉢1)、陶器片5点(鉢1・甕4)が、覆土中から出土している。いずれも土砂の流入や埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 上幅は1m内外であるが、深さは20cm以下と浅く、かつ蛇行しながら標高の低い方へ向かっていることから、自然の流路の可能性がある。時期は、重複しているほとんどの遺構より古いことと出土土器から、古代末から中世前葉の間と考えられる。



第49図 第363号溝跡・出土遺物実測図

第363号溝跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
154	土師土器	皿	[182]	30	[110]	細砂・スコリア	橙	普通	体部ロクロナテ 底部希切り後ナテ	覆土中	10%
TP48	須恵器	鉢	-	(73)	-	長石・石英・雲母	にふい黄緑	普通	胴部ロクロナテ 体部横位の平行叩き	覆土中層	5%

## 第366号溝跡 (第4・50図)

**位置** 調査区南部のN 2d9～N 3g3区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号堀跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 調査区域外にかかるN 3g3区から北西方向(N-40°-W)へ直線的に18.5m延び、N 2d9区でN 2d9から北東方向(N-43°-E)へ9.0m延びている溝のほぼ中央部に直交するように結合しているT字形の溝である。N 3g3区の南側は調査区域外で、北東方向に走行している南西端は第1号堀に掘り込まれ、北東端は攪乱によって不明である。上幅は0.53～1.68m、下幅は0.28～1.10mで、深さは20～38cmである。断面形はU字状で、底面の標高は南東端が最も高く、北西部へ行くに従って若干低くなっている。南端部との比高は13cmである。

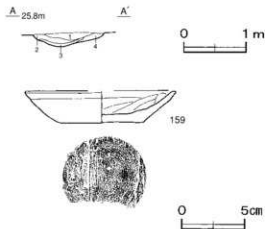
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいる層もあるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

## 土層解説 (A-A')

- 1 暗褐色 色 ロームブロック中量、焼土粒子・砂粒微量
- 2 暗褐色 色 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒微量
- 3 暗褐色 色 砂粒少量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器甕片3点、須恵器片5点(坏1・甕4)、土師質土器片6点(皿5・鍋1)が、覆土中から出土している。いずれも土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

**所見** 南端が調査区域外へ延びており、全容が明らかでないことから、性格は不明である。掘割された時期は明らかでないが、出土土器から14世紀中葉には機能が失われ埋没したと考えられる。



第50図 第366号溝跡・出土遺物実測図

第366号溝跡出土遺物観察表 (第50図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
159	土師土器	皿	[118]	25	6.8	細砂・スコリア	橙	普通	体部ロクロナテ 内底面仕上げナテ	覆土中	50% PL9

## 第367号溝跡 (第4・51・52図)

**位置** 調査区北東部のL 2e0～N 4a1区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第378・379号溝跡、第52号井戸跡を掘り込み、第370号溝に掘り込まれている。第50号井戸跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 調査区域外にかかるN 4a1区から北西方向(N-38°-W)へ緩やかに蛇行しながら延びて、L 2e0区で調査区域外に至っている。確認できた長さは80.0mで、上幅2.08～3.92m、下幅0.44～0.80mで、深さ



は42～79cmである。断面形は逆台形状の部分とU字状の部分があり、底面も平坦な部分とレンズ状の部分がある。底面の標高は北西端が最も高く、南東部へ行くに従って若干低くなっている。北西端部との比高は35cmである。

**覆土** A-A' は17層、B-B' は9層に分層できる。A-A' は全体的に粘土ブロックを含んでおり、中層が南西側から、上層は両側から埋められている。B-B' も全体的に粘土ブロックやロームブロックを含んでおり、南西側から埋められている。

**土層解説 (A-A')**

- 1 灰 褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 灰 褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 灰 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 灰 褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗 褐色 粘土ブロック・炭化物、ローム粒子・焼土粒子微量
- 6 灰 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 7 暗 褐色 焼土粒子・粘土粒子微量
- 8 暗 褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 9 暗 褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

- 10 暗 褐色 焼土粒子少量、粘土粒子微量
- 11 暗 褐色 粘土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 12 暗 褐色 粘土ブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 13 暗 褐色 粘土ブロック微量
- 14 暗 褐色 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
- 15 暗 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・砂粒微量
- 16 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 17 灰 褐色 砂粒少量、焼土粒子・粘土粒子微量

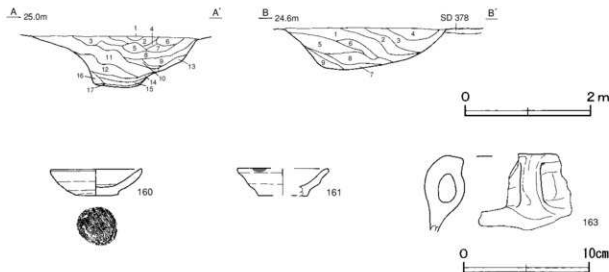
**土層解説 (B-B')**

- 1 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 灰 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 灰色 ロームブロック・粘土ブロック中量、砂粒少量、炭化粒子微量
- 5 灰 褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量、焼土粒子微量

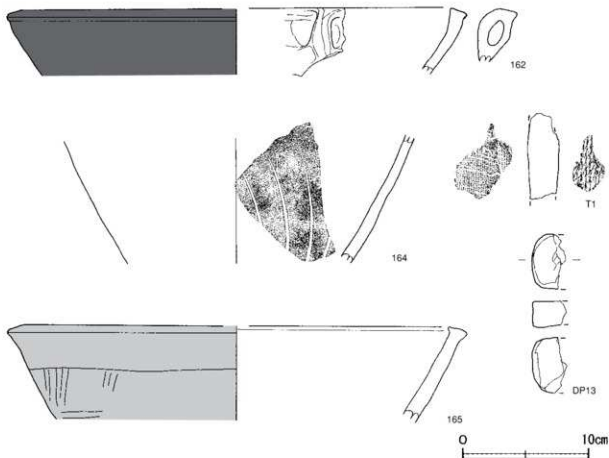
- 6 灰 褐色 砂粒中量、粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 黒 褐色 砂粒中量、粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 8 灰 褐色 砂粒中量、ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 9 にぶい褐色 粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器坏片1点、須恵器甕片4点、土師質土器片29点(小皿10・鍋8・擂鉢1)、陶器片・土製紡錘車片・瓦片各1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 緩やかに蛇行しているものの、何らかの目的で掘削され、その後不要になったことから埋め戻されたものとみられる。しかし、両端が調査区域外に延びており、全容は明らかでないことから性格は不明である。掘削された時期は明らかでないが、第52号井戸跡を掘り込んでいることと、出土土器から16世紀後葉には機能が失われ埋没したと考えられる。



第51図 第367号溝跡・出土遺物実測図



第52図 第367号溝跡出土遺物実測図  
第367号溝跡出土遺物観察表(第51・52図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
160	土質土器	小皿	7.2	2.0	3.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部ロクロナデ 内底面仕上げナデ	覆土中	90% PL9
161	土質土器	小皿	(7.2)	2.2	(3.8)	細砂・スコリア	橙	普通	体部ロクロナデ 口縁部油懸付着	覆土中	15%
162	土質土器	内耳皿	(34.2)	(5.3)	-	長石・石英・雲母	に白い赤陶	普通	耳接合部付近ナデ	覆土中	破片
163	土質土器	内耳皿	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	耳接合部付近ナデ	覆土中	破片
164	土質土器	細鉢	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母	に白い赤陶	普通	外・内面ナデ 器目は下方から	覆土中	破片
165	陶器	鉢	(33.6)	(7.5)	-	長石・石英	に白い赤陶	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中	破片

番号	種類	器種	長さ	幅	厚さ	色調	焼成	胎土	手法の特徴	出土位置	備考
T1	瓦	平瓦	(5.8)	(4.7)	2.4	黒	普通	長石・石英・雲母	1枚作り 凹面傘目状 凸面長柄叩き	覆土中	5% PL10

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP13	結線串	4.2	2.1	-	(26.7)	土(石英・細砂)	器面ナデ	覆土中	45% PL10

#### 第368号溝跡(第4・53図)

位置 調査区西部のM2g5～M2h5区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 M2h5区から北西方向(N-32°-W)へほぼ直線的に延びている。全長4.96mで、上幅0.42～0.72m、下幅0.24～0.40mで、深さは7～15cmである。断面形は逆台形状で、底面は平坦である。底面のレベルは、ほぼ水平である。

覆土 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。



土層解説 (A-A')

- |   |     |                     |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量   |

第53図 第368号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器甕片・土師質土器小皿片各1点が、覆土中から出土している。いずれも土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

所見 他の溝跡と同じ方向へ延びているが、長さも短く、幅も狭いことから、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。

### 第371号溝跡 (第4・54図)

位置 調査区西部のM2e4-N2a7区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第372・375号溝跡を掘り込み、第369・370号溝に掘り込まれている。

規模と形状 N2a7区から北西方向(N-47°-W)へ直線的に27.3m延び、M2f3区で北東方向へ直角に折れ、8m延びて調査区域外へ至っている。なお、4mの間隔を置いた北側も調査区域であるが、北側においては確認することができなかった。上幅0.60~1.08m、下幅0.36~0.80mで、深さは14~30cmである。断面形は浅いU字状で、底面の標高は南端部が最も高く、北西へ行くに従って低くなっている。南端部との比高は、80cmである。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋められている。

土層解説 (A-A')

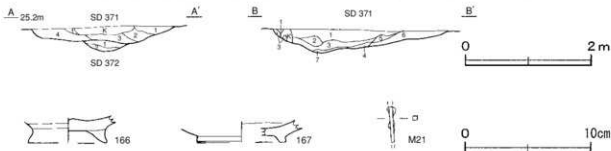
- |   |     |                |   |     |                |
|---|-----|----------------|---|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 | 暗褐色 | 砂粒少量、ロームブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量、砂粒微量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子・砂粒微量     |

土層解説 (B-B')

- |   |     |           |   |     |                  |
|---|-----|-----------|---|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 | 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 6 | 褐色  | ロームブロック中量        |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 | 暗褐色 | 砂粒少量、ローム粒子微量     |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子微量   |   |     |                  |

遺物出土状況 土師器片37点(坏6・高台付坏3・甕28)、須恵器片24点(坏9・高台付坏1・甕14)、土師質土器片9点(皿8・鍋1)、鉄製品1点(釘)が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

所見 南東部では第372号溝跡と平行しているが、北半部では第372号溝跡を掘り込んでいる。L字状に設けられていることから区画溝の可能性があるが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第54図 第371・372号溝跡、第371号溝跡出土遺物実測図

第371号溝跡出土遺物観察表 (第54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	土師器	高台付椀	-	(22)	[6.2]	細砂・雲母	にぶい黄褐色	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%
167	土師器	高台付椀	-	(18)	[7.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M21	釘	(27)	0.4	0.3	(0.8)	鉄	両端部欠損	覆土中	PL30

## 第372号溝跡 (第4・54・55図)

位置 調査区西部のM2f2-N2a7f区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第369-371号溝に掘り込まれている。

規模と形状 N2a7f区から北西方向(N-47°-W)へ直線的に27.3m伸びているが、第371号溝跡と同様にM2f3f区で北東方向へ屈曲しているものかは不明である。規模は、第371号溝跡と平行している部分で、上幅0.60-0.90m、下幅0.29-0.48mで、深さ13-39cmである。断面形は浅いU字状で、底面の標高は南端部が最も高く、第371号溝跡と同様に北西へ行くに従って低くなっている。南端部との比高は30cmである。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋められている。

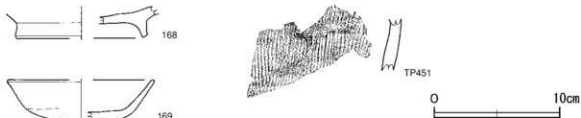
## 土層解説 (A-A')

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

2 黒暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片16点(坏8・甕8)、須恵器片18点(坏1・高台付坏4・甕13)、土師質土器片3点(皿2・鍋1)、砥石1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

所見 南東部では第371号溝跡と平行しているが、北半部では第371号溝に掘り込まれている。性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。



第55図 第372号溝跡出土遺物実測図

第372号溝跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
168	須恵器	高台付椀	-	(26)	[10.2]	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ磨き	覆土中	20%
169	土師器	皿	[11.6]	[3.1]	[5.6]	細砂	橙	普通	体部ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	5%
TP451	須恵器	甕	-	(42)	-	砂粒・雲母・スコリア	暗灰黄	普通	外面縦位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	破片

第374号溝跡 (第4・56・57図)

位置 調査区東部のM3a7～M4i3i区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

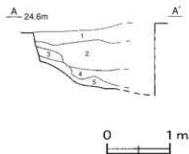
重複関係 第370号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外にかかるM4i3i区から北西方向(N-36°-W)へ直線的に延び、M3a7区で調査区域外へ至っている。確認できた長さは、41.2mである。なお、北東側も調査区域外で、上幅は1.84mしか確認できない。深さは60～96cmであるが、さらに深くなる可能性がある。断面形は逆台形状とみられ、確認された底面の標高は南端部が最も高く、北西へ行くに従って若干低くなっている。南端部との比高は18cmである。

覆土 5層に分層できる。粘土ブロックを含み、堆積状況から埋められている。

土層解説 (A-A')

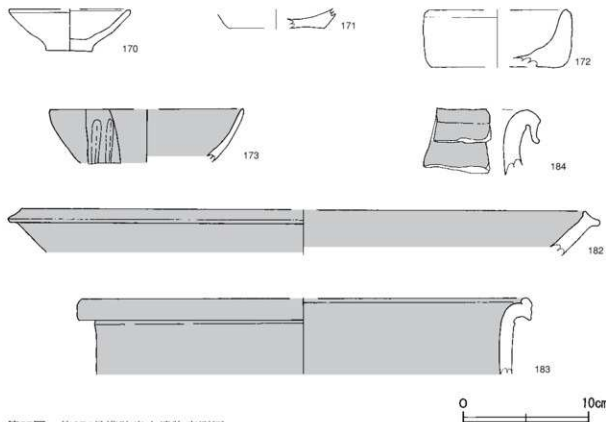
- |                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| 1 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗 褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量       | 5 黒 褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量        |  |



第56図 第374号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片2点(坏・高坏)、須恵器甕片3点、土師質土器片17点(皿10・椀1・鉢6)、陶器片5点(鉢1・甕4)、青磁碗片1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

所見 両端が調査区域外に至っており、全容が明らかでないことから、何らかの区画溝の可能性はあるが、性格は不明である。掘削された時期は明らかでないが、出土土器から16世紀後半には機能を失い埋没したと考えられる。



第57図 第374号溝跡出土遺物実測図

第374号溝跡出土遺物観察表 (第57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
170	土質土器	小皿	[96]	3.3	3.6	細砂・スコリア	にぶい橙	やや不貞	器面摩滅により整形痕不明	覆土中	40% PL9
171	土質土器	皿	-	(1.5)	[76]	細砂・スコリア	浅黄橙	やや不貞	底部回転糸切り	覆土中	10%
172	土質土器	椀	[108]	4.6	[10.4]	石英・スコリア	橙	普通	内面ナデ	覆土中	20%
173	青磁	碗	[152]	(4.2)	-	緻密	緑灰	良好	外面磨弁文	覆土中	5%
182	陶器	鉢	[44.6]	(3.5)	-	長石・石英	褐	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	破片
183	陶器	壺	[35.4]	(6.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	破片
184	陶器	壺	-	(5.2)	-	長石・石英	灰褐	普通	外・内面ロクロナデ	覆土中	破片

### 第378号溝跡 (第4・58図)

**位置** 調査区東部のM3c6～M3f8区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第1838号土坑、第377号溝跡を掘り込み、第50号井戸及び第367号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** M3f8区から北東方向(N-46°-E)へ6.0m延び、M3e9区で屈曲して北西方向(N-48°-W)へ直線的に12.0m延び、M3c6区で第367号溝に切断されている。確認できた長さは18.0mで、上幅0.26～2.64m、下幅0.10～2.30mで、深さは19～40cmである。断面形は、南部の幅広部は逆台形状で、北部は浅いU字状である。底面は北部が高く、南端部との比高は60cmである。

**覆土** A-A' は5層、B-B' は4層に分別できる。両者ともにレンズ状の堆積状況から自然堆積である。

#### 土層解説 (A-A')

- |   |     |                     |   |     |                       |
|---|-----|---------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 4 | 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 5 | 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量   |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量      |   |     |                       |

#### 土層解説 (B-B')

- |   |     |                             |   |     |                             |
|---|-----|-----------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量                | 3 | 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量         |

**遺物出土状況** 土師器片3点(坏2・甕1)、須恵器高台付坏片1点、土師質土器片5点(皿2・鍋3)、鉄製品2点(鏃)が、覆土中から出土している。174は覆土中からの出土で、第377号溝跡から出土している破片と接合している。

**所見** L字状の溝であるが、性格は不明である。時期は、出土土器から中世と考えられる。なお、幅に差があるが、方向的に第379号溝跡と同一の可能性はある。



第58図 第378号溝跡・出土遺物実測図

第378号溝跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
174	須恵器	高台付鉢	-	(18)	[80]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部ロクロナテ 底部回転ヘラ掘り	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M22	皿	(83)	0.9	0.6	(7.1)	鉄	隅部が鋭角化した長頭皿	覆土中	PL10
M23	皿	(43)	0.7	0.6	(4.1)	鉄	身部欠損	覆土中	PL10

第379号溝跡（第4・59図）

**位置** 調査区東部のL2e0～M3a5f区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第367号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** M3a5f区から北東方向（N-42°-W）へ緩やかに蛇行しながら延び、L2e0f区で調査区域外へ至っている。南端部は第367号溝に切断されている。確認できた長さは37.8mで、上幅1.16～1.84m、下幅0.16～0.80mで、深さは18～40cmである。断面形は、U字状である。底面は北部が高く、南東へ行くに従って若干低くなっている。北端部との比高は49cmである。

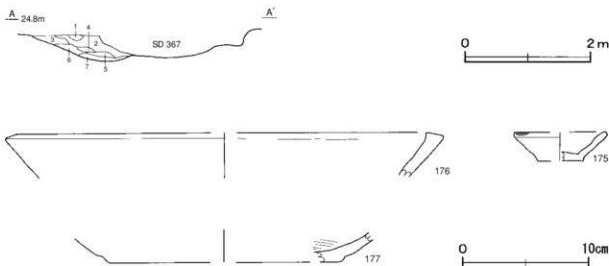
**覆土** 7層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋められている。

土層解説（A-A'）

1	暗褐色	粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
2	灰黄褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量	5	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
			7	暗褐色	粘土粒子・砂粒微量

**遺物出土状況** 土師器甕片5点、須恵器坏片1点、土師質土器片3点（小皿1・鍋2）、瓦片1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 全容が明らかでないことから、性格は不明である。掘削された時期は明らかでないが、出土土器から15世紀後葉には機能を失い埋没したと考えられる。



第59図 第379号溝跡・出土遺物実測図

第379号溝跡出土遺物観察表 (第59図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
175	土師器土	小皿	[72]	2.3	[36]	細砂・雲母	橙	普通	基部ロクロナデ 底面回転成形り 口縁に油繕	覆土中	40% PL9
176	土師器土	鍋	[346]	[36]	-	長石・石英・雲母	に白い赤黒	普通	外・内面横位のナデ 177と同一個体か	覆土中	破片
177	土師器土	鍋	-	[24]	[180]	長石・石英・雲母	に白い赤黒	普通	内面粗いハケナデ 176と同一個体か	覆土中	破片

表8 中世溝跡一覧表

番号	位置	方向	規模 (m, 深さはcm)				断面形	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (古→新)
			長さ	上幅	下幅	深さ					
363	L 1 j0-N 2 d8	N-35°-W	(73.2)	0.64-1.40	0.30-0.52	12-20	U字状	平坦	白・人	土師器・須恵器・土師質土器・陶器	本跡→TP16・SK180・1829・1841・1845・1848・第1号墓・SD309・370, SE06・SX1・PG76
366	N 2 d9-N 3 a3	N-40°-W N-43°-E	(27.5)	0.53-1.68	0.28-1.10	20-38	U字状	平坦	自然	土師器・須恵器・土師質土器	第1号墓跡
367	L 2 e0-N 4 a1	N-38°-W	(80.0)	2.08-2.92	0.44-0.80	42-79	逆台形	平坦	人為	須恵器・土師器・土師質土器・鉄製品	SD328・29・SE2-48跡→SD70, SE30
368	M 2 e5-M 2 b5	N-32°-W	4.96	0.42-0.72	0.24-0.40	7-15	逆台形	平坦	自然	土師器・土師質土器	
371	M 2 e4-N 2 a7	N-47°-W	(35.3)	0.60-1.08	0.36-0.80	14-30	U字状	平坦	人為	土師器・須恵器・土師質土器	SD372・375→本跡→SD309・370
372	M 2 f2-N 2 a7	N-47°-W	(27.3)	0.60-0.90	0.29-0.48	13-39	U字状	平坦	人為	土師器・須恵器・土師質土器	本跡→SD369-371
374	M 3 a7-M 4 i3	N-36°-W	(41.2)	(1.84)	-	60-95	逆台形	平坦	人為	土師器・須恵器・土師質土器	本跡→SD370
378	M 3 c6-M 3 f8	N-48°-W N-46°-E	(18.0)	0.26-2.64	0.10-2.30	19-40	U字状	平坦	自然	土師器・須恵器・土師質土器・鉄製品	SD377・SK1838→本跡→SE50・SU367
379	L 2 e0-M 3 a5	N-42°-W	(37.8)	(1.16-1.84)	(0.16-0.80)	18-40	U字状	平坦	人為	土師器・須恵器・土師質土器	本跡→SD367

## (8) 不明遺構

遺構の全容が明らかでなく、性格も不明であることから不明遺構とした。以下、遺構について解説する。

## 第1号不明遺構 (第60図)

**位置** 調査区南部のN 2 d8-N 3 h1区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号堀に掘り込まれている。また、第363号溝跡と重複しているが新旧関係は不明である。

**規模と形状** 北東側を第1号堀に掘り込まれ、南東部は調査区域外に延びているため、確認できた長さは19.4m、最大幅3.4mで、深さは62cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋められている。

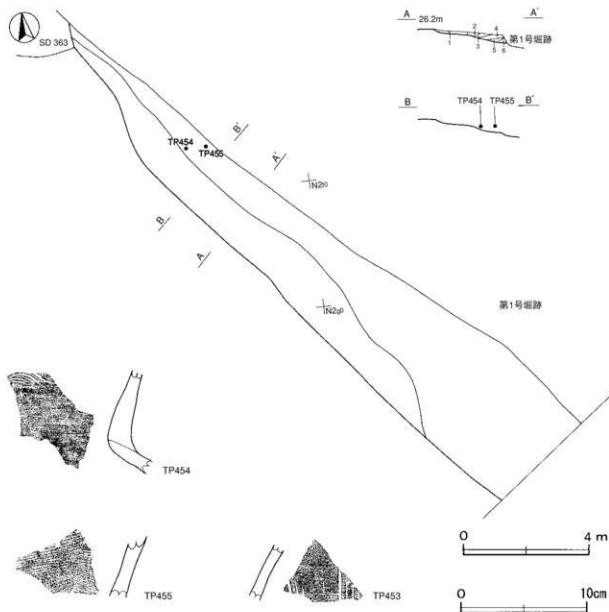
## 土層解説 (A-A')

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・砂粒微量	4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
2	褐色	ロームブロック中量	5	褐色	ロームブロック中量、砂粒微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、砂粒微量	6	黒褐色	ロームブロック・砂粒微量

**遺物出土状況** 須恵器焼片8点、土師質土器片4点(鍋3・播鉢1)が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。TP454は覆土下層、TP455は覆土中層から出土している。

**所見** 全容が明らかでなく、性格も不明であることから不明遺構とした。時期は、第1号堀に掘り込まれていることと出土土器から中世前葉と考えられる。





第60図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP453	土師瓦土器	罐鉢	-	(41)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	摺り目は4本単位で下方から	覆土中	破片
TP454	須恵器	甕	-	(8.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	外・内面ロクロナテ 頭部輪縁状文	覆土下層	破片
TP455	須恵器	甕	-	(5.0)	-	長石・石英	灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面無文の当て具痕	覆土中層	破片

### 3 その他の遺構と遺物

遺構に伴う遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、土坑100基、溝跡6条が確認されている。そのうち、遺物が出土している遺構については文章で解説し、その他の遺構については、実測図(第72～77図)と一覧表を掲載する。

(1) 土坑

第1725号土坑 (第61図)

位置 調査区西部のM2d51区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.13m、短軸1.03mの隅丸方形で、長軸方向はN-28°-Wである。深さは27cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

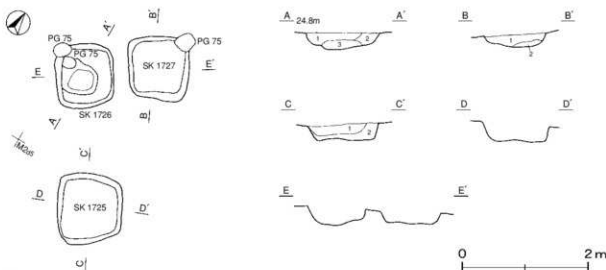
土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 須恵器片1点が、覆土中から出土している。須恵器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

所見 覆土が埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから、時期・性格ともに不明である。



第61図 第1725～1727号土坑実測図

第1726号土坑 (第61図)

位置 調査区西部のM2c51区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.03m、短軸0.90mの隅丸長方形で、長軸方向はN-31°-Wである。深さは27cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロック・粘土ブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化物微量

3 暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 粘土ブロック少量

所見 覆土が埋め戻されているが、出土遺物が無いことから時期・性格ともに不明である。

第1727号土坑 (第61図)

位置 調査区西部のM2c51区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第75号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.03m、短軸0.95mの隅丸方形で、長軸方向はN-32°-Wである。深さは17cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。粘土ブロックを含み、不自然な堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 極暗褐色 粘土ブロック少量 | 2 暗褐色 粘土粒子微量 |
|-----------------|--------------|

**所見** 覆土が埋め戻されているが、出土遺物が無いことから時期・性格ともに不明である。

**第1751号土坑 (第62図)**

**位置** 調査区南部のN 2b7区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1号堀跡、第1754号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 一辺1.15mの隅丸方形である。深さは58cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

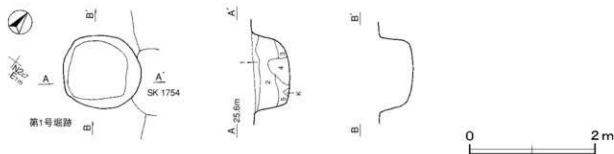
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量   |
| 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  | 5 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量   |                        |

**遺物出土状況** 須恵器坏片1点が、覆土中から出土している。須恵器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



**第62図** 第1751号土坑実測図

**第1782号土坑 (第63図)**

**位置** 調査区中央部のM 2 i6区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 上部を第369号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径1.77m、短径1.13mの楕円形で、長径方向はN-45°-Wである。深さは45cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

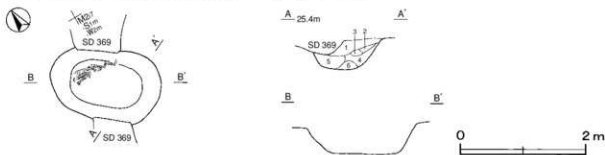
**覆土** 6層に分層できる。下層にはロームブロックが含まれており、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |                                |                                 |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子少量、焼土粒子微量 | 4 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・黒色粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量             | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、黒色粒子微量     |
| 3 黒色 ローム粒子微量                   | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量            |

**遺物出土状況** 馬骨の頭部と脚部が、北部のはほぼ底面から出土している。

**所見** 馬骨は部分骨しか存在しないが、覆土が埋め戻されていることから、何らかの理由によって埋められたものと考えられる。時期は、出土土器が無いことから不明である。



第63図 第1782号土坑実測図

#### 第1784号土坑 (第64図)

**位置** 調査区中央部のM2j7区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸2.46m、短軸0.85mの長方形で、長軸方向はN-49°-Eである。深さは17cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

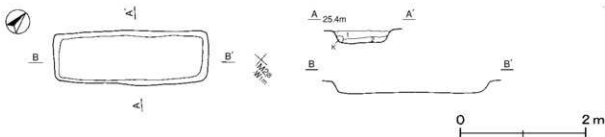
**覆土** 2層に分層できる。水平に堆積していることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量      2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 瓦片1点が、覆土中から出土している。瓦片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



第64図 第1784号土坑実測図

#### 第1792号土坑 (第65図)

**位置** 調査区北部のL3j2区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.28m、短軸1.05mの隅丸長方形で、長軸方向はN-49°-Wである。深さは53cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

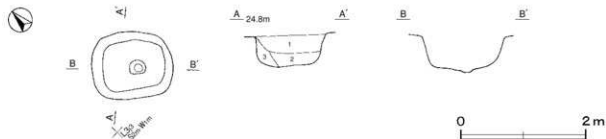
**覆土** 3層に分層できる。粘土ブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |         |                              |         |                          |
|---------|------------------------------|---------|--------------------------|
| 1 にぶい褐色 | 粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 3 にぶい褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 2 明褐色   | 粘土ブロック中量、砂粒少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |         |                          |

**遺物出土状況** 須臾器破片・剥片各1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



第65図 第1792号土坑実測図

**第1796号土坑 (第66図)**

**位置** 調査区北西部のM3a2区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.14m、短軸0.89mの隅丸長方形で、長軸方向はN-51°-Wである。深さは35cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

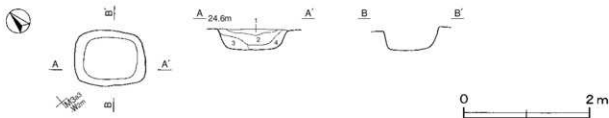
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- |         |                                |         |                           |
|---------|--------------------------------|---------|---------------------------|
| 1 にぶい褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、粘土粒子微量   | 3 褐色    | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量     |
| 2 灰褐色   | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量 | 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器破片1点が、覆土中から出土している。土師器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



第66図 第1796号土坑実測図

**第1803号土坑 (第67図)**

**位置** 調査区北西部のM1a0区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第363号溝跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.11m、短径1.01mの円形である。深さは70cmで、底面は皿状である。壁は直立している。

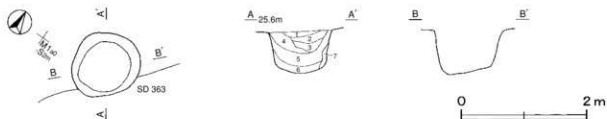
**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック微量 (締まり強い) | 5 褐色  | ロームブロック中量         |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量           | 6 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 3 褐色  | ロームブロック少量 (締まり弱い) | 7 褐色  | ロームブロック微量 (締まり弱い) |
| 4 褐色  | ロームブロック少量 (締まり強い) |       |                   |

遺物出土状況 土師器残片・須恵器残片各1点が、覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

所見 覆土は埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



第67図 第1803号土坑実測図

第1805号土坑 (第68図)

位置 調査区北西部のM2b1区で、標高25mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.22m、短軸0.74mの長方形で、長軸方向はN-44°-Eである。深さは32cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

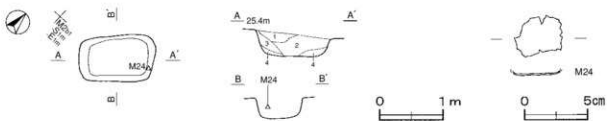
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量        | 4 暗褐色 | ローム粒子微量   |

遺物出土状況 板状鉄製品1点が、覆土中層から出土している。

所見 覆土は埋め戻されているが、時期を決定できる土器が出土していないことから時期・性格ともに不明である。



第68図 第1805号土坑・出土遺物実測図

第1805号土坑出土遺物観察表 (第68図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M24	板状品	(38)	(30)	0.1	(2.68)	鉄	残存している両端部が若干反っている	覆土中層	

第1817号土坑 (第69図)

位置 調査区北西部のM2b5区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第75号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.32m、短軸1.23mの隅丸方形で、長軸方向はN-78°-Eである。深さは15cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

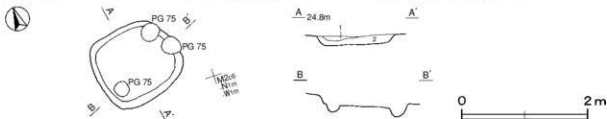
**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

**遺物出土状況** 土師器破片1点が、覆土中から出土している。土師器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



第69図 第1817号土坑実測図

**第1824号土坑 (第70図)**

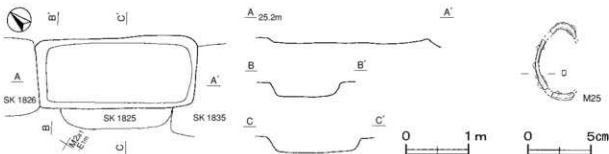
**位置** 調査区北西部のM2a1区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第1825・1835号土坑を掘り込んでいる。また、第1826号土坑と接している。

**規模と形状** 長軸2.51m、短軸1.10mの長方形で、長軸方向はN-33°-Wである。深さは21cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**遺物出土状況** 環状鉄製品1点が、覆土中から出土している。

**所見** 時期を決定する土器が出土していないことから、時期・性格ともに不明である。



第70図 第1824号土坑・出土遺物実測図

**第1824号土坑出土遺物観察表 (第70図)**

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M25	環状品	(6.1)	(3.3)	0.4	(4.0)	鉄	本来は楕円形状	覆土中	

**第1840号土坑 (第71図)**

**位置** 調査区中央部のM2c7区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.15m、短径1.05mの円形である。深さは28cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

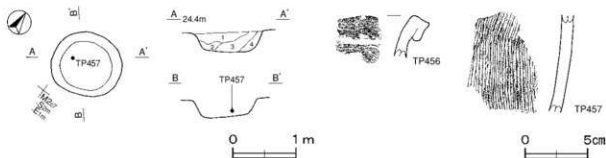
**土層解説**

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土 | 3 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック        | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量        |

**遺物出土状況** 須恵器破片2点が、覆土中から出土している。須恵器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

TP457は、覆土下層から出土している。

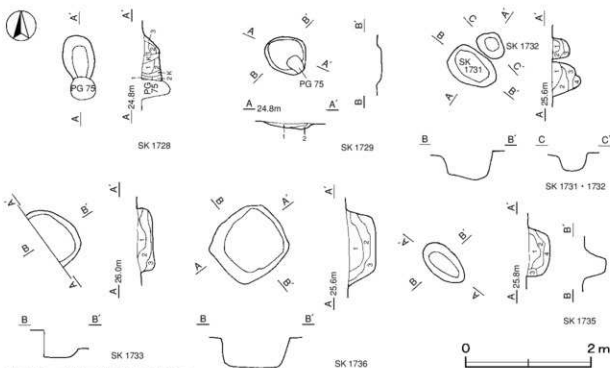
**所見** 覆土が埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



第71図 第184号土坑・出土遺物実測図

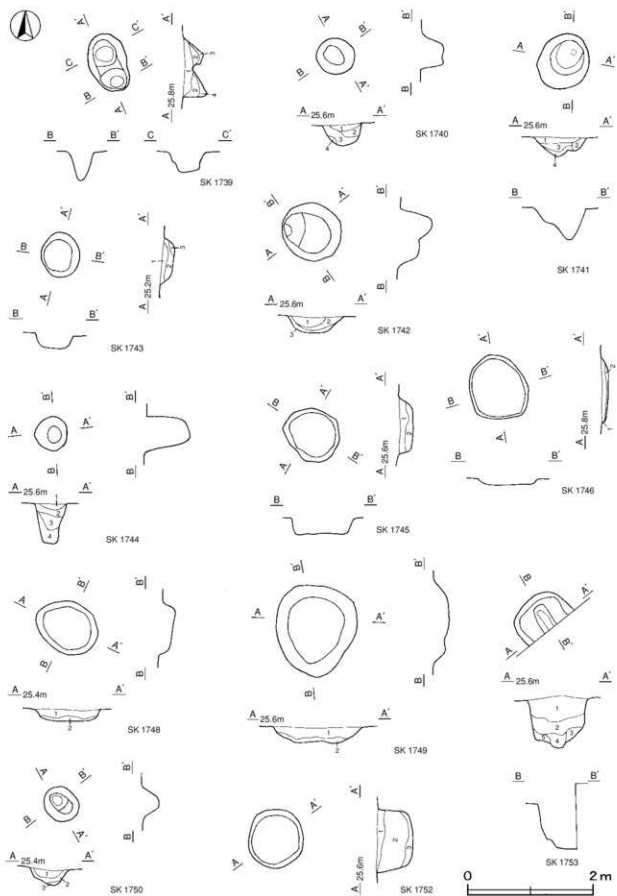
第184号土坑出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP456	須恵器	葉	-	(3.3)	-	長石・石英	黄灰	普通	口縁部折り返し 6本以上の歯状工具による波状文	覆土中	破片
TP457	須恵器	葉	-	(7.7)	-	長石・石英・雲母	濃い黄粉	普通	外面縦位の平行明き 内面無文の当て具底	覆土下層	破片

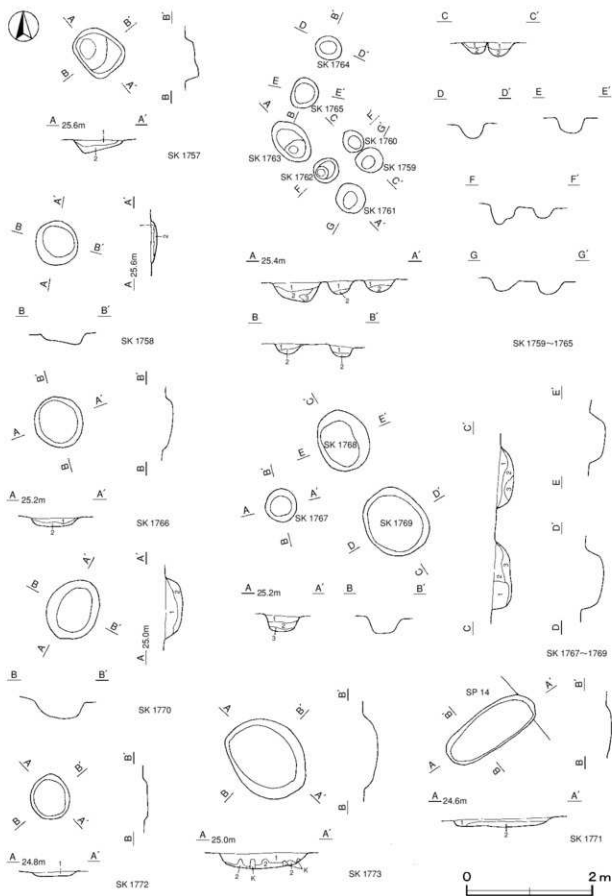


第72図 時期不明土坑実測図(1)

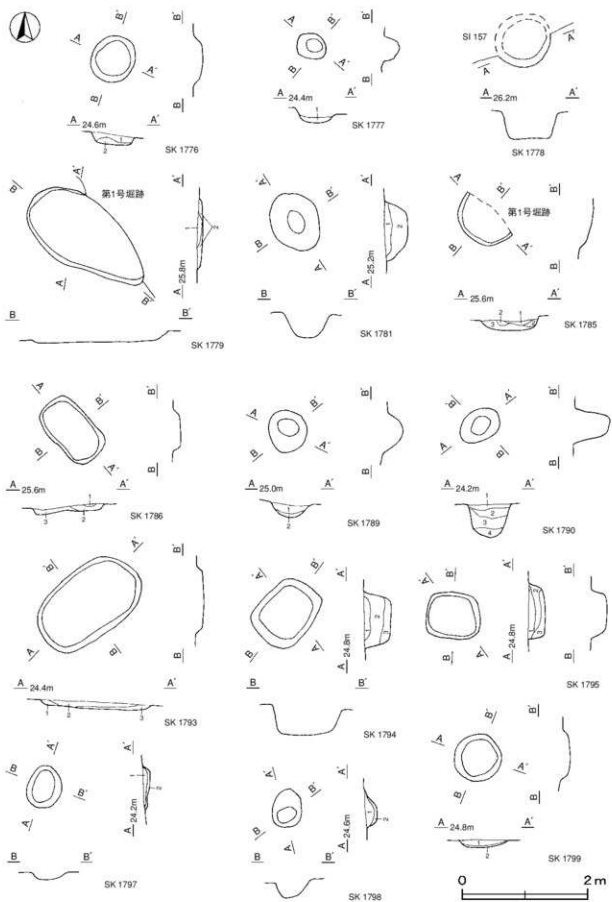




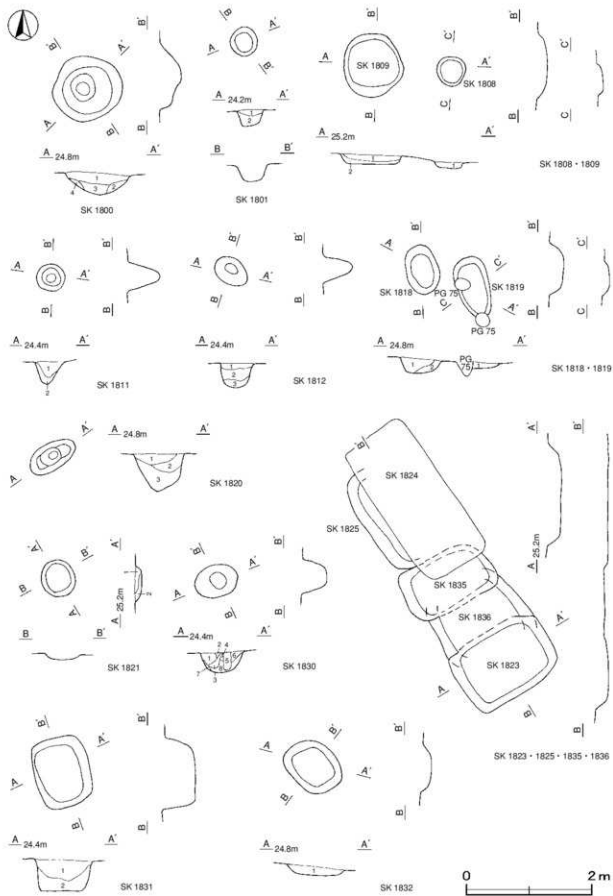
第73図 時期不明土坑実測図(2)



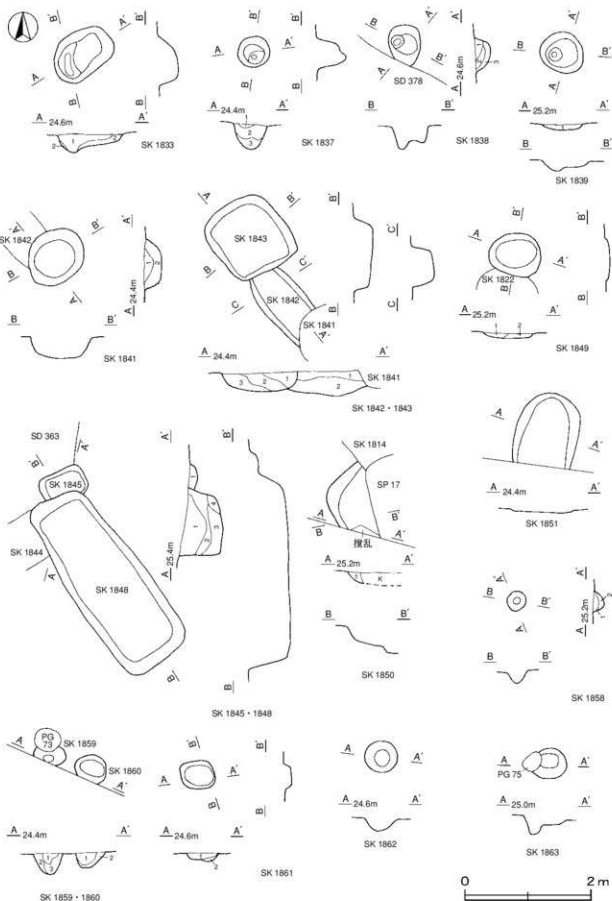
第74图 时期不明土坑实测图(3)



第75図 時期不明土坑実測図(4)



第76図 時期不明土坑実測図(5)



第77图 时期不明土坑实测图(6)

<b>第1728号土坑土層解説</b>	
1 極暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量	3 褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
2 褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量	
<b>第1729号土坑土層解説</b>	
1 暗褐色 粘土粒子微量	2 明褐色 ロームブロック微量
<b>第1731号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	3 灰褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色 ローム粒子微量
<b>第1732号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	3 灰褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子少量	
<b>第1733号土坑土層解説</b>	
1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	3 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子微量	
<b>第1735号土坑土層解説</b>	
1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	3 灰褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 極暗褐色 ローム粒子少量
<b>第1736号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	
<b>第1739号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
<b>第1740号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	3 灰褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	4 褐色 ローム粒子少量
<b>第1741号土坑土層解説</b>	
1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 褐色 ローム粒子中量
<b>第1742号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	3 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・黒色粒子少量	
<b>第1743号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	3 にぶい褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	
<b>第1744号土坑土層解説</b>	
1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	3 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量	4 灰褐色 ローム粒子少量
<b>第1745号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量	2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
<b>第1746号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ロームブロック微量	2 褐色 ローム粒子微量
<b>第1748号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	2 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
<b>第1749号土坑土層解説</b>	
1 灰褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量	2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
<b>第1750号土坑土層解説</b>	
1 褐灰色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	3 褐色 ローム粒子中量
2 暗褐色 ローム粒子少量	
<b>第1752号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	3 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	
<b>第1753号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量	4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	
<b>第1757号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子少量	2 褐色 ロームブロック少量
<b>第1758号土坑土層解説</b>	
1 黒褐色 ローム粒子微量	2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

- 第1759・1760号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 2 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 第1761・1762・1763号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量（粘性弱い）  
 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量（粘性強い）
- 第1764・1765号土坑土層解説**  
 1 黒 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒 褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 第1766号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 第1767号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 3 暗 褐色 ローム粒子中量
- 第1768号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量  
 2 暗 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量  
 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 第1769号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 灰 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 3 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 第1770号土坑土層解説**  
 1 灰 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
 2 にぶい褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 第1771号土坑土層解説**  
 1 黒 色 粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量  
 2 黒 色 粘土ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 第1772号土坑土層解説**  
 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 第1773号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 第1776号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量  
 2 暗 褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 第1777号土坑土層解説**  
 1 黒 色 粘土ブロック少量
- 第1779号土坑土層解説**  
 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物・砂粒微量  
 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 第1781号土坑土層解説**  
 1 灰 褐色 砂粒中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量  
 2 黒 褐色 炭化粒子・砂粒少量、ロームブロック微量
- 第1785号土坑土層解説**  
 1 黒 褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック微量  
 2 暗 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量  
 3 黒 褐色 炭化粒子中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量
- 第1786号土坑土層解説**  
 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量  
 3 灰 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 第1789号土坑土層解説**  
 1 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子微量
- 第1790号土坑土層解説**  
 1 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 3 灰 褐色 ローム粒子微量  
 4 灰 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 第1793号土坑土層解説**  
 1 灰 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量  
 3 黒 褐色 ローム粒子微量
- 第1794号土坑土層解説**  
 1 暗 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量  
 3 にぶい褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量
- 第1795号土坑土層解説**  
 1 にぶい褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量  
 2 にぶい褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量  
 3 にぶい褐色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量

<b>第1797号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量	2 極 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
<b>第1798号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	2 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
<b>第1799号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	2 褐 灰 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
<b>第1800号土坑土層解説</b>	
1 灰 褐 色 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量	3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 にぶい褐色 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量	4 灰 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
<b>第1801号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
<b>第1808号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 ローム粒子少量	
<b>第1809号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 ローム粒子少量	2 褐 色 ロームブロック微量
<b>第1811号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	2 黒 褐 色 ローム粒子・粘土粒子微量
<b>第1812号土坑土層解説</b>	
1 黒 色 ローム粒子微量	
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量	3 黒 褐 色 ローム粒子微量
<b>第1818号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 粘土ブロック微量	2 暗 褐 色 粘土ブロック中量
<b>第1819号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 粘土ブロック微量	
<b>第1820号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量	
2 極 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	3 極 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子微量
<b>第1821号土坑土層解説</b>	
1 褐 色 ロームブロック少量	2 暗 褐 色 ロームブロック微量
<b>第1830号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	6 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量
3 黒 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	7 黒 褐 色 ロームブロック・砂粒少量、炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	8 褐 灰 色 ローム粒子微量
<b>第1831号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	2 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量
<b>第1832号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 粘土ブロック・焼土粒子微量	
<b>第1833号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 ロームブロック微量	2 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
<b>第1837号土坑土層解説</b>	
1 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	
2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
<b>第1838号土坑土層解説</b>	
1 黒 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 灰 褐 色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐 灰 色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	
<b>第1839号土坑土層解説</b>	
1 褐 色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	
<b>第1841号土坑土層解説</b>	
1 極 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量	2 極 暗 褐 色 ロームブロック微量
<b>第1842号土坑土層解説</b>	
1 極 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
<b>第1843号土坑土層解説</b>	
1 極 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量	
2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量	3 暗 褐 色 ロームブロック少量



第1845号土坑土層解説

1 褐 色 ロームブロック中量

第1848号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック中量  
2 暗 褐 色 ロームブロック微量

3 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子微量  
4 暗 褐 色 ローム粒子微量

第1849号土坑土層解説

1 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量

2 灰 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量

第1850号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック微量

第1858号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 極 暗 褐 色 ローム粒子中量

第1859号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量  
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 黒 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第1860号土坑土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量

2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第1861号土坑土層解説

1 黒 褐 色 粘土ブロック少量

2 極 暗 褐 色 粘土ブロック微量

表9 時期不明土坑一覧表

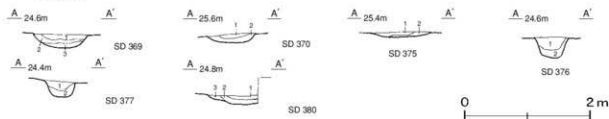
番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m、深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 調査関係 (内→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1725	M2d5	隅丸方形	N-28°-W	1.13×1.03	27	外傾	平坦	人為	須恵器	
1726	M2c5	隅丸長方形	N-31°-W	1.03×0.90	27	外傾	凹状	人為		本跡→PG75
1727	M2c5	隅丸方形	N-32°-W	1.03×0.95	17	外傾	平坦	人為		本跡→PG75
1728	M2c5	楕円形	N-7°-W	0.67×0.52	30	縦斜	平坦	人為	土師器・須恵器	本跡→PG75
1729	M2c5	楕円形	N-49°-W	0.70×0.60	8	縦斜	平坦	人為		
1731	N2b4	楕円形	N-54°-W	0.82×0.53	44	外傾	平坦	人為		
1732	N2b5	楕円形	N-53°-W	0.66×0.35	28	外傾	凹状	人為		
1733	N2e4	[楕円形]	N-36°-W	1.03(0.50)	14	外傾	平坦	人為		
1735	N2d5	楕円形	N-52°-W	0.80×0.46	33	外傾	凹状	人為		
1736	N2b7	隅丸方形	N-48°-E	1.15×1.06	48	直立	凹状	人為		
1739	N3d2	楕円形	N-21°-W	0.95×0.63	13-46	外傾	凹凸	人為		
1740	N2a9	円形	-	0.60×0.57	34	外傾	凹状	人為		
1741	N2a9	楕円形	N-32°-E	0.92×0.80	52	外傾	凹状	自然		
1742	N3b2	円形	-	0.98×0.91	31-51	外傾	有段	人為		
1743	M3j2	楕円形	N-4°-E	0.72×0.62	21	外傾	平坦	人為		
1744	N2a0	円形	-	0.53×0.52	68	直立	凹状	人為		
1745	N2a0	楕円形	N-50°-W	0.90×0.78	23	外傾	平坦	人為		
1746	N3e4	楕円形	N-13°-W	1.02×0.90	10	直立	平坦	人為		
1748	N3b4	楕円形	N-60°-W	1.02×0.80	23	外傾	平坦	人為		
1749	M3j1	不整楕円形	N-15°-W	1.47×1.35	24	縦斜	凹状	人為		
1750	M2j0	楕円形	N-45°-W	0.58×0.50	28	縦斜	凹状	人為		
1751	N2b7	隅丸方形	-	1.15×1.15	58	外傾	平坦	人為	須恵器	第1号堀跡・SK1754→本跡
1752	N2b7	円形	-	0.93×0.93	64	直立	凹状	人為		第1号堀跡→本跡
1753	N3d7	[隅丸方形]	-	0.92(0.56)	33-84	外傾	有段	人為		
1757	M2j9	不整楕円形	N-45°-W	0.80×0.68	13-19	外傾	有段	人為		
1758	M2j9	楕円形	N-30°-W	0.72×0.65	18	縦斜	傾斜	人為	須恵器	
1759	M2b8	円形	-	0.44×0.42	20	外傾	凹状	人為		
1760	M2b8	楕円形	N-35°-W	0.37×0.33	17	外傾	凹状	人為		

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m、深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新出関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1761	M2b8	円形	-	0.50×0.46	16	外楕	平坦	人瓦		
1762	M2b8	楕円形	N-49-E	0.43×0.39	21-32	直立	有段	人瓦		
1763	M2b8	楕円形	N-44-W	0.75×0.52	30-34	外楕	皿状	人瓦		
1764	M2b8	楕円形	N-74-W	0.42×0.38	22	外楕	皿状	人瓦	縄文土器	
1765	M2b8	楕円形	N-27-E	0.50×0.41	24	直立	平坦	人瓦		
1766	M3i1	円形	-	0.83×0.78	12	縦斜	皿状	人瓦		
1767	M3i1	円形	-	0.52×0.50	25	外楕	平坦	人瓦		
1768	M3b2	楕円形	N-29-W	0.97×0.78	23	外楕	平坦	人瓦		
1769	M3i2	楕円形	N-42-W	1.09×0.96	30	外楕	平坦	人瓦		
1770	M3i3	楕円形	N-34-E	1.02×0.80	27	外楕	皿状	人瓦		
1771	M3j7	楕丸長方形	N-54-E	1.60×0.62	10	外楕	平坦	人瓦		SP14→本跡
1772	N3b9	楕円形	N-67-W	0.72×0.63	5	縦斜	平坦	自然		
1773	N3a9	楕円形	N-46-W	1.40×1.16	21	縦斜	皿状	人瓦		
1776	M3i4	楕円形	N-22-E	0.77×0.68	13	外楕	平坦	人瓦		
1777	M3j6	楕円形	N-53-W	0.45×0.40	27	外楕	皿状	人瓦		
1778	N2g8	-	-	0.90×(0.35)	42	外楕	平坦	人瓦		SI157→本跡
1779	N2c6	[楕円形]	N-66-W	(1.45)×1.15	13	縦斜	平坦	人瓦		本跡→第1号瀬跡・SB76
1781	M2g5	楕円形	N-34-W	0.98×0.79	37	外楕	平坦	人瓦		
1782	M2i6	楕円形	N-45-W	1.77×1.13	45	外楕	平坦	人瓦	馬骨	本跡→SD369
1784	M2j7	長方形	N-49-E	2.46×0.85	17	外楕	平坦	人瓦	瓦	
1785	N2e9	[円形]	-	0.92×(0.60)	19	外楕	傾斜	人瓦		第1号瀬跡→本跡
1786	M3j9	長方形	N-41-W	1.14×0.68	10	外楕	平坦	人瓦		
1789	M2e4	楕円形	N-13-E	0.66×0.59	27	縦斜	皿状	人瓦		
1790	M3d4	楕円形	N-51-E	0.69×0.49	56	縦斜	皿状	人瓦		
1792	L3j2	楕丸長方形	N-49-W	1.28×1.05	53	外楕	皿状	人瓦	須恵器	
1793	M2e0	楕丸長方形	N-50-E	1.80×1.08	12	外楕	平坦	人瓦		
1794	L3i2	楕丸長方形	N-41-E	1.12×0.86	45	外楕	平坦	人瓦		
1795	L3b2	楕丸長方形	N-83-W	0.85×0.73	25	直立	平坦	人瓦		
1796	M3a2	楕丸長方形	N-51-W	1.14×0.89	35	直立	平坦	人瓦	土師器	
1797	M3b2	楕円形	N-16-E	0.69×0.52	11	縦斜	皿状	人瓦		
1798	M3c5	楕円形	N-27-E	0.61×0.46	25	外楕	皿状	人瓦		
1799	M4i1	円形	-	0.77×0.75	12	外楕	皿状	人瓦		
1800	M4i2	円形	-	1.08×1.05	35	外楕	皿状	人瓦		
1801	M3c3	円形	-	0.48×0.44	25	外楕	平坦	人瓦		
1803	M1a0	円形	-	1.11×1.01	70	直立	皿状	人瓦	土師器・須恵器	SD363→本跡
1805	M2b1	長方形	N-44-E	1.22×0.74	32	直立	平坦	人瓦	鉄製品	
1808	M2e4	円形	-	0.47×0.47	8	縦斜	皿状	人瓦		
1809	M2c4	楕円形	N-14-W	1.02×0.92	14	縦斜	皿状	人瓦		
1811	M3g7	円形	-	0.45×0.42	54	外楕	皿状	人瓦	須恵器	
1812	M3g6	楕円形	N-63-W	0.57×0.39	47	外楕	皿状	人瓦		
1817	M2b5	楕丸長方形	N-78-E	1.32×1.23	15	外楕	平坦	人瓦	土師器	本跡→PG75
1818	M2a4	楕円形	N-16-W	0.78×0.52	23	外楕	平坦	人瓦		
1819	M2a5	楕円形	N-23-W	1.00×0.52	10	縦斜	平坦	人瓦		本跡→PG75
1820	M2a5	楕円形	N-56-E	0.80×0.42	45-62	外楕	有段	人瓦		
1821	M2a2	楕円形	N-26-W	0.60×0.52	9	縦斜	皿状	人瓦		
1823	M2a1	[長方形]	N-56-E	1.60×[1.14]	20	縦斜	平坦	人瓦		SK1806

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m、深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1824	M2a1	長方形	N-33°-W	2.51×1.10	21	外傾	平坦	-	鉄製品	SK1825・1825→本跡
1825	M2a1	[長方形]	N-34°-W	1.76×0.32	25	外傾	平坦	人為		本跡→SK1824
1830	M2b7	楕円形	N-62°-E	0.70×0.50	40	外傾	皿状	人為	土師器・須恵器	
1831	M2b7	楕丸長方形	N-15°-W	1.12×0.91	51	直立	平坦	人為		
1832	M2a5	楕丸長方形	N-43°-W	0.90×0.71	15	緩斜	平坦	人為		
1833	L2f0	楕円形	N-53°-E	1.03×0.71	16-32	外傾	有段	人為		
1835	M2a1	[長方形]	N-62°-E	1.46×0.87	17	緩斜	平坦	人為		SK1836→本跡→SK1824
1836	M2a1	[長方形]	-	1.45×0.56	15	緩斜	平坦	人為		本跡→SK1835, SK1823
1837	M2b6	円形	-	0.52×0.48	35-45	外傾	有段	人為	土師器・須恵器	
1838	M3d8	楕円形	N-18°-W	0.66×0.51	26-37	直立	有段	人為		本跡→SD378
1839	M2a2	楕円形	N-55°-W	0.71×0.63	9-15	緩斜	有段	人為		
1840	M2c7	円形	-	1.15×1.05	28	外傾	平坦	人為	須恵器	
1841	M2c7	楕円形	N-46°-E	1.03×0.85	33	外傾	皿状	人為	土師器	SK1842→本跡
1842	M2c7	[不整形長方形]	N-28°-W	(1.00)×0.65	35	外傾	平坦	人為		本跡→SK1841・1843
1843	M2b7	長方形	N-36°-W	1.28×1.18	29	外傾	平坦	人為		SK1842→本跡
1845	M1a0	長方形	N-62°-E	0.75×0.49	15	外傾	平坦	人為		本跡→SK1848
1848	M2a1	長方形	N-35°-W	3.18×1.25	65	直立	平坦	人為		SK1844・1845→本跡
1849	L2j2	楕円形	N-75°-W	0.83×0.72	9	緩斜	平坦	人為		SK1822→本跡
1850	M2c3	-	-	(1.05)×0.80	30	外傾	緩斜	人為		SP17, SK1814
1851	M2c2	[楕円形]	N-14°-E	(1.20)×1.00	5	緩斜	平坦	人為		
1858	M2b8	円形	-	0.31×0.30	23	緩斜	皿状	人為	土師質土器	
1859	M3a6	楕円形	N-79°-W	0.50×0.23	35	緩斜	皿状	人為		本跡→PG73
1860	M3a6	円形	-	0.50×0.47	18	緩斜	皿状	人為		
1861	M3b8	楕丸長方形	N-85°-E	0.58×0.43	11	外傾	平坦	人為		
1862	M2a6	円形	-	0.50×0.50	18	緩斜	皿状	人為		
1863	M2a4	円形	-	0.54×0.50	10	緩斜	平坦	人為		本跡→PG75

## (2) 溝跡

今回の調査で、時期不明の溝跡6条が確認されている。いずれも伴う遺物の出土がなく、性格も不明である。以下、それらの溝について解説する。なお、平面図については遺構全体図(第4図)に掲載するにとどめる。



第78図 時期不明溝跡実測図

### 第369号溝跡(第4・78図)

位置 調査区北東部のL2j9-N2b3区で、標高25~26mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1782・1846号土坑、第363・371・372号溝跡を掘り込んでいる。また、第1号堀跡と重複しているが、

新旧関係は不明である。

**規模と形状** N 2b3区から台地の傾斜に沿って北東方向(N-27°-E)へ、やや蛇行しながら延びている。全長55.6mで、上幅0.66~0.96m、下幅0.22~0.56mで、深さは7~32cmである。断面形は浅いU字状で、底面の標高は南端部が最も高く、北東へ行くに従って低くなっている。南端部との比高は1.7mである。

**覆土** 3層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

1 黒褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 砂粒微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器甕片7点、須恵器片2点(長頸瓶・甕)が、覆土中から出土している。いずれも、土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

**所見** 溝跡として取り扱ったが、緩斜面部を蛇行しながら延びており、掘削されたものか、自然の流路であるのかの判断に苦しむ遺構である。時期も不明である。

#### 第370号溝跡 (第4・78図)

**位置** 調査区北東部のM2b0~M3b7区で、標高25~26mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第363・367・371・372・374号溝跡を掘り込んでいる。また、第1号堀跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** M2b0区から台地の傾斜に沿って北東方向(N-54°-E)へ、やや蛇行しながら延び、M3b7区で調査区域外へ至っている。途中、2か所途切れており、調査段階では第373号溝跡、第381号溝跡と呼称していたが、形状と方向が同じであることから同一溝跡と判断した。確認できた長さは65.5mで、上幅0.36~1.05m、下幅0.16~0.82mで、深さは5~40cmである。断面形は浅いU字状で、底面の標高は南端部が最も高く、北東へ行くに従って低くなっている。南端部との比高は1.54mである。

**覆土** 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片11点(坏1・甕10)、土師質土器鍋片1点が、覆土中から出土している。いずれも、土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

**所見** 溝跡として取り扱ったが、緩斜面部を蛇行しながら延びており、掘削されたものか、自然の流路であるのかの判断に苦しむ遺構である。時期も不明である。

#### 第375号溝跡 (第4・78図)

**位置** 調査区西部のM2d2~M2f2区で、標高25.5mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第371号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** M2f2区から北西方向(N-7°-E)へ蛇行しながら延びて、M2d2区で調査区域外に至っている。南部は第371号溝に掘り込まれ、確認できた長さは7.60mで、上幅0.60~1.20m、下幅0.20~0.82mで、深さは5~10cmである。断面形はレンズ状で、底面はほぼ水平である。

**覆土** 2層に分層できる。粘土ブロックを含み、堆積状況から埋められている。

**土層解説 (A-A')**

1 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 にぶい褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

**所見** 上幅は一定せず、深さも浅く、かつ蛇行していることから、自然の流路の可能性がある。時期は、出土遺物が無いため不明である。

**第376号溝跡 (第4・78図)**

**位置** 調査区東部のM3g9-M4i1i区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

**規模と形状** 調査区域外にかかるM4i1i区から北東方向(N-22'-E)へ250m延び、緩やかに屈曲して北西方向(N-49'-W)へ向きを変えて、M3g9区まで130m延びている。確認できた長さは15.50mで、上幅0.20-0.60m、下幅0.16-0.40mで、深さは10-30cmである。断面形は逆台形状で、底面は、北西へ行くに従って低くなり、南端部との比高は45cmである。

**覆土** 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

**土層解説 (A-A')**

1 黒 褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

2 灰 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器残片4点が、覆土中から出土している。いずれも、土砂の流入に伴って流れ込んだものとみられる。

**所見** 幅は狭く、全容も明らかでなく、伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。

**第377号溝跡 (第4・78図)**

**位置** 調査区東部のM3e8-M3i0i区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第378号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 調査区域外にかかるM3i0i区から北西方向(N-35'-W)へ直線的に延びている。確認できた長さは19.0mで、上幅0.42-0.64m、下幅0.18-0.38mで、深さは25cmである。断面形は逆台形状で、底面は、北西へ行くに従って低くなり、南端部との比高は35cmである。

**覆土** 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

**土層解説 (A-A')**

1 暗 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

2 暗 褐色 炭化粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 須恵器高台付坏片1点が出土している。須恵器片は、第378号溝跡から出土している174と接合している。

**所見** 中世と思われる第378号溝に掘り込まれているが、幅は狭く、全容も明らかでなく、伴う遺物がないことから、時期・性格ともに不明である。

**第380号溝跡 (第4・78図)**

**位置** 調査区北部のL3f1-L3g2i区で、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** ビット184・211に掘り込まれている。

**規模と形状** 調査区域外にかかるL3g2i区から北西方向(N-47'-W)へ直線的に延びて、L3f1i区で調査

区域外へ至っている。北東側の立ち上がりも調査区域外で、確認できた長さは8.40mで、上幅は0.85m以上、下幅は0.65m以上、深さも10cm以上である。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

**土層解説 (A-A')**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量  
2 灰褐色 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒微量

**所見** 全容が明らかでなく、出土遺物も無いことから、時期・性格ともに不明である。

表10 時期不明溝跡一覧表

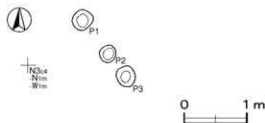
番号	位置	方向	規模 (m, 深さはcm)				断面形	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係 (古→新)
			長さ	上幅	下幅	深さ					
369	L 2 j9-N 2 b3	N-27°-E	(55.6)	0.66-0.96	0.22-0.56	7-32	U字状	平坦	自然 土師器・須恵器	SK1782・1846・SD363・371・372→本跡、第1号堀跡	
370	M 2 b0-M 3 b7	N-54°-E	(65.5)	0.36-1.05	0.16-0.82	5-40	U字状	平坦	自然 土師器・土師質土器	SD363・367・371・372・374→本跡、第1号堀跡	
375	M 2 d2-M 2 f2	N-7°-E	(7.6)	0.60-1.20	0.20-0.82	5-10	レンズ状	平坦	人為	本跡→SI371	
376	M 3 g9-M 4 i1	N-22°-E 34-49°-W	(15.5)	0.20-0.60	0.16-0.40	10-30	迷台形	平坦	自然 土師器		
377	M 3 e8-M 3 i0	N-35°-W	(19.0)	0.42-0.64	0.18-0.38	25	迷台形	平坦	自然 須恵器	本跡→SI378	
380	L 3 f1-L 3 g2	N-47°-W	(8.4)	(0.85)	(0.65)	10	-	-	自然	本跡→P184・211	

(3) ビット群

今回の調査で、6か所でビット群が確認された。いずれも建物跡などを想定できるような配置ではなく、時期も不明である。また、ビット群とはできない単独のビットも10基確認されている。ここでは、ビット群の概要について記し、個々のビットについては一覧表と平面図を掲載する。

**第71号ビット群 (第79図)**

調査区南部のN 3 b3~N 3 b4区にかけての東西1m、南北1mの範囲から、柱穴状のビット3か所がN-38°-W方向に並んで確認された。平面形は径26~32cmの円形で、深さは15~21cmである。分布状況から建物跡などは想定できない。出土遺物は無く、時期・性格ともに不明である。



第79図 第71号ビット群実測図

ビット計測表

ビット計測表										単位はcm	
番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	32	32	18	2	36	26	15	3	31	28	21

**第72号ビット群 (第80図)**

調査区東部のM 4 h1~M 4 i1にかけての東西2.3m、南北2.7mの範囲から、柱穴状のビット4か所が確認された。平面形は長径27~35cmの円形あるいは楕円形で、深さは9~15cmである。分布状況から建物跡などは想定できない。出土遺物は無く、時期・性格ともに不明である。



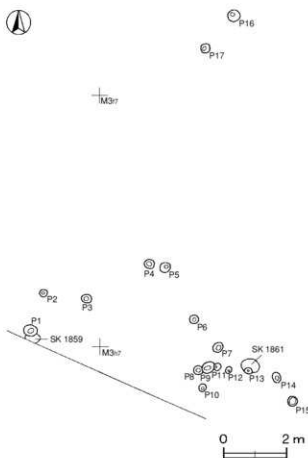
第80図 第72号ピット群実測図

ピット計測表			単位はcm
番号	長径	短径	深さ
1	28	28	11
2	27	25	9
3	29	29	10
4	35	30	15

### 第73号ピット群 (第81図)

調査区東部のM3c7～M3h8区にかけての東西9.7m、南北12.7mの範囲から、柱穴状のピット17か所が確認

された。平面形は長径20～43cmの円形あるいは楕円形で、深さは13～66cmである。分布状況から建物跡などは想定できない。出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

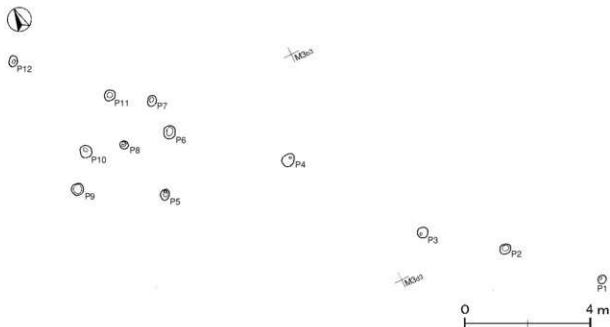


第81図 第73号ピット群実測図

ピット計測表			単位はcm
番号	長径	短径	深さ
1	42	37	24
2	25	24	30
3	30	28	23
4	29	27	28
5	31	31	40
6	27	25	24
7	32	28	15
8	32	26	18
9	43	32	26
10	23	21	18
11	24	22	45
12	30	18	17
13	25	19	30
14	32	23	14
15	31	25	13
16	37	35	66
17	29	29	31

### 第74号ピット群 (第82図)

調査区北部のM3a1～M3d4区にかけての東西14m、南北14mの範囲から、柱穴状のピット12か所が確認された。平面形は長径25～43cmの円形あるいは楕円形で、深さは10～39cmである。分布状況から建物跡などは想定できない。出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。



第82図 第74号ビット群実測図

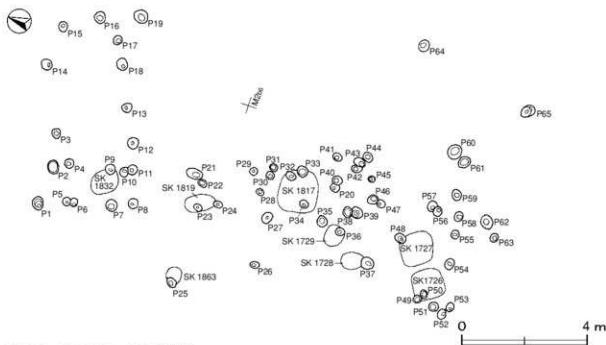
ビット計測表

単位はcm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	30	25	37	5	35	26	19	9	40	37	10
2	33	33	15	6	41	35	13	10	39	31	21
3	30	30	39	7	33	25	15	11	35	31	11
4	43	37	30	8	25	24	21	12	36	26	10

### 第75号ビット群 (第83図)

調査区北部のL2j4-M2d6区にかけての東西7.6m、南北15.4mの範囲から、柱穴状のビット65か所が確認



第83図 第75号ビット群実測図



された。平面形は長径22～52cmの円形あるいは楕円形で、深さは10～68cmである。分布状況から建物跡などは想定できない。遺物は、P2から須恵器鉢片1点、P11から須恵器甕片1点、P13から縄文土器深鉢片1点、P18から土師器坏片1点、P37から須恵器甕片1点、P44から土師器高台付坏片1点、須恵器片2点(坏・甕)、P46から須恵器坏片1点、P48から須恵器坏片1点、P56から須恵器片2点(坏・甕)が出土している。いずれも覆土中からの出土で、時期・性格ともに不明である。

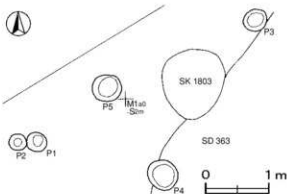
ピット計測表

単位はcm

番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ	番号	長径	短径	深さ
1	38	35	31	23	25	23	15	45	24	22	15
2	42	37	63	24	26	22	18	46	35	25	41
3	31	25	24	25	35	25	30	47	25	22	30
4	29	26	41	26	25	19	24	48	34	28	35
5	25	25	30	27	38	26	36	49	23	18	19
6	26	24	40	28	25	24	10	50	22	20	45
7	31	31	34	29	22	21	17	51	29	28	25
8	30	28	41	30	39	22	37	52	30	26	42
9	30	30	50	31	23	23	18	53	29	25	47
10	28	28	50	32	28	28	41	54	33	31	25
11	30	28	51	33	30	30	14	55	26	24	24
12	32	28	60	34	22	22	12	56	29	29	37
13	32	29	31	35	33	31	42	57	(30)	28	33
14	33	31	42	36	29	21	40	58	28	27	31
15	30	30	35	37	40	39	40	59	33	26	37
16	38	38	50	38	34	26	40	60	45	42	15
17	30	28	34	39	(36)	35	48	61	40	33	31
18	40	33	40	40	52	31	24	62	45	36	22
19	44	39	58	41	26	25	17	63	26	26	21
20	28	(18)	20	42	30	30	45	64	31	28	23
21	50	33	68	43	40	24	60	65	47	35	35
22	26	25	44	44	35	30	62				

#### 第76号ピット群 (第84図)

調査区西部のM1a9～M1a0区にかけての東西4.2m、南北2.5mの範囲から、柱穴状のピット5か所が確認された。平面形は長径26～50cmの円形あるいは楕円形で、深さは14～44cmである。周辺に掘立柱建物跡が存在しているが、調査区域境付近に位置しており、分布状況から建物跡などは想定できない。出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。



第84図 第76号ピット群実測図

ピット計測表

単位はcm

番号	長径	短径	深さ
1	33	31	17
2	26	25	14
3	37	35	20
4	50	45	20
5	45	42	44

単独ピット計測表

単位はcm

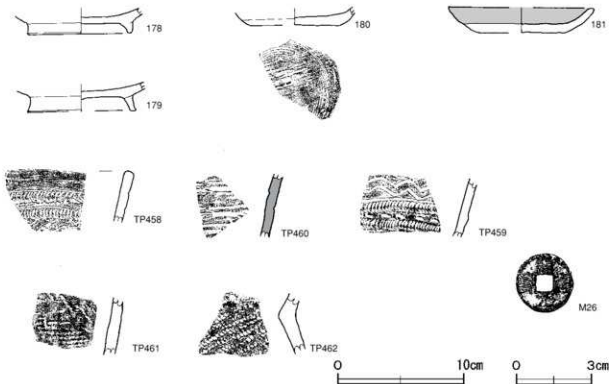
番号	位置	長径	短径	深さ	番号	位置	長径	短径	深さ	番号	位置	長径	短径	深さ
107	N 2 c9	25	20	23	193	L 2 b4	34	32	27	214	L 2 g7	19	18	12
110	N 2 g8	28	28	25	194	L 2 g7	24	23	20	218	N 2 c7	25	25	31
184	L 3 f1	39	28	24	195	L 2 g7	19	19	15					
191	L 2 j9	30	25	37	211	L 3 f1	26	26	13					

表11 時期不明ピット群一覧表

番号	位置	柱穴(長さの単位はcm)					主な出土遺物	備考
		柱穴数	平面形	長径	短径	深さ		
71	N 3 h3~N 3 b4	3	円形	26~32	26~32	15~21		
72	M 4 h1~M 4 i1	4	円形・楕円形	27~35	25~30	9~15		
73	M 3 e7~M 3 h8	17	円形・楕円形	20~43	18~37	13~66		
74	M 3 a1~M 3 d4	12	円形・楕円形	25~43	24~37	10~39		
75	L 2 j4~M 2 h6	65	円形・楕円形	22~52	18~39	10~68	縄文土器・土師器・須恵器	
76	M 1 a9~M 1 a0	5	円形・楕円形	26~50	25~45	14~44		

## (4) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した須恵器・土師質土器・陶器・古銭などの遺構に伴わない遺物について、実測図(第85図)と観察表で紹介する。



第85図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
178	須恵器	高台付罎	-	(20)	8.0	長石・石英・雲母	靑灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	表土	20%
179	須恵器	高台付罎	-	(22)	[8.4]	長石・石英・雲母	灰黄靑	普通	体部口クロナデ 底部回転ヘラ削り	表土	20%
180	土師器土器	皿	-	(15)	[7.2]	細砂・雲母	にぶい橙	普通	底部内面仕上げナデ 底部回転糸切り	表土	10%
181	陶器	皿	[11.6]	2.0	[6.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下半回転ヘラ削り 灰白色釉	表土	10%
TP458	陶文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	縁部裏面と縁部等には灰黄色の斑に黒色顔料	表土	破片 PL10
TP459	陶文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	連続瓦形文と半截竹管による波状文	表土	破片 PL10
TP460	陶文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・雲母・繊維	にぶい橙	普通	棒状工具による横位の沈線文 縦線土器	表土	破片 PL10
TP461	陶文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	結節された無節縄文	表土	破片 PL10
TP462	陶文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤靑	普通	単純縄文	表土	破片 PL10

番号	種別	銭名	径	孔幅	重量	材質	初周年	特 徴	出土位置	備考
M26	古銭	開元通寶	2.35	0.65	2.74	銅	621年	磨銭 無背	表土	PL10



## 第4節 4・5区の遺構と遺物

### 1 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡2軒が確認されている。以下、それらの遺構と遺物について記述する。

#### 竪穴住居跡

##### 第162号住居跡（第87・88図）

**位置** 調査区南東部のL115区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第22号道路に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が調査区域外であるため、南北軸は4.10mで、東西軸は3.60mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-25°-Wの方形と推測できる。壁高は27~31cmで、やや外傾して立ち上がっている。

**床** 中央部がやや高いほぼ平坦な貼床で、竈前面に硬化面が認められる。貼床はロームブロックを含む暗褐色土を13cmほど埋めて構築されている。確認された範囲では壁溝を確認している。

**竈** 北壁に付設されている。焚口部から煙出部まで88cm、燃焼部幅46cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土ブロックを含む暗褐色・にぶい黄褐色土を積み上げて構築されている。第9~11層は袖部の構築土である。煙道部は、壁外へ逆U字状に奥行き28cm、幅47cm掘り込んで構築されている。火床部は床面を若干掘り込み、火床面は火を受けて赤変硬化している。

#### 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子少量	6 暗褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土ブロック微量
2 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8 にぶい赤褐色	砂質粘土ブロック中量
4 褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック多量
5 暗褐色	焼土粒子中量、砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
		11 暗褐色	ロームブロック少量

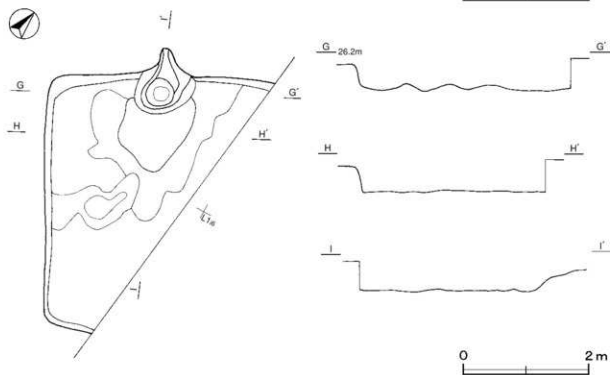
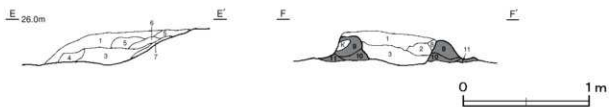
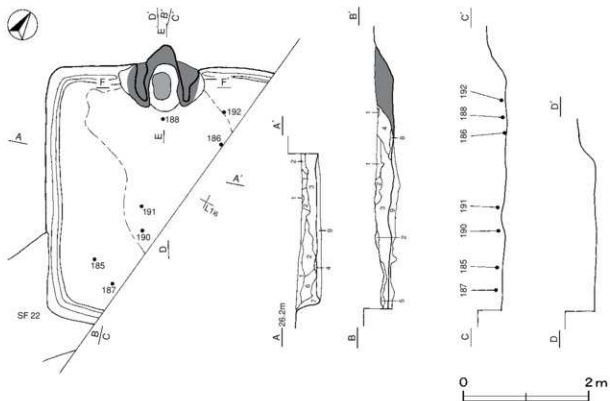
**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

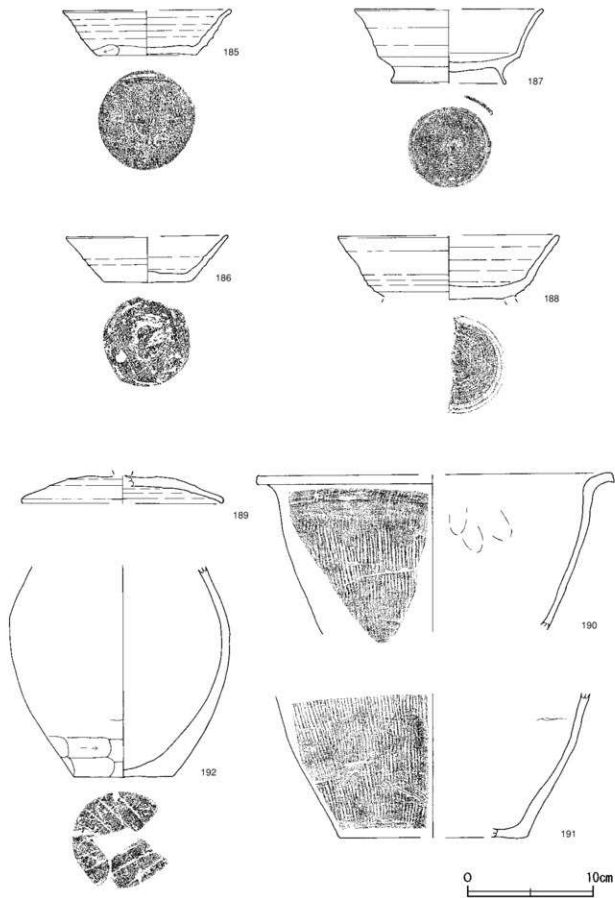
1 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック多量
		9 暗褐色	ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器甕1点、須恵器坏2点・高台付坏2点・蓋1点・鉢2点のほか、土師器片106点（坏類3・甕類103）、須恵器片89点（坏類41・蓋2・甕類46）、不明銅製品1点、鉄滓20点が散在した状態で出土している。そのほか、混入した磁器片1点（碗）も出土している。188は北部の覆土下層、185は南西部、190・191は中央部の覆土中層、189は竈の覆土中からそれぞれ出土している。186は北東部の覆土下層から床面に掛けて出土した破片、187は南部の覆土中層から床面に掛けて出土した破片、192は北東部の覆土中層から床面に掛けて出土した破片がそれぞれ接合したものである。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前半に比定できる。



第87图 第162号住居跡实测图



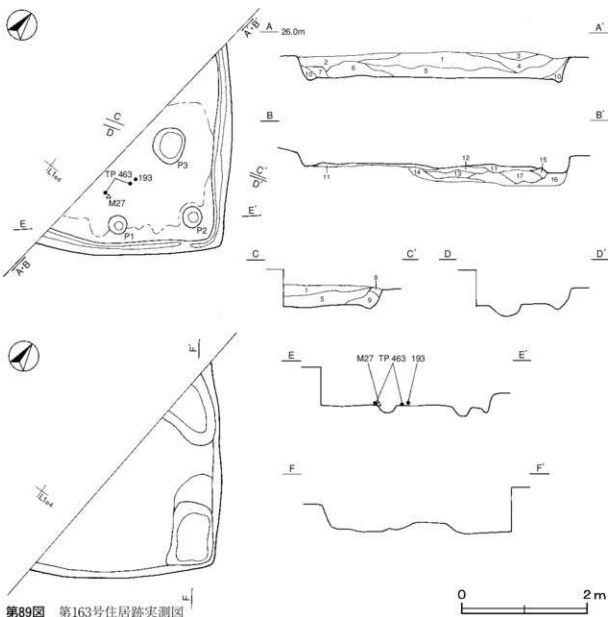
第88图 第162号住居跡出土遺物実測図

第162号住居跡出土遺物観察表 (第88図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
185	須恵器	坏	[132]	3.6	7.9	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部下縁手持ちヘラ盛り 底部一方のヘラ盛り	山西部中層	60% PL14
186	須恵器	坏	[128]	3.7	7.0	長石・石英	褐灰	普通	回転ヘラ盛り残す底部一方のヘラ盛り	北東部7層-8層	50% PL14
187	須恵器	高台付坏	[150]	5.9	[90]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後、高台盛り付け	南部中層-末層	40% PL14
188	須恵器	高台付坏	[17.4]	(5.1)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ盛り 北側面ヘラ盛り 高台盛り付け	北部下層	30% PL14
189	須恵器	蓋	[15.9]	(2.2)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ盛り	掘覆土中	15% PL14
190	須恵器	鉢	[28.0]	(12.4)	-	長石・雲母	黄褐	普通	体部縦位の平行印き 内面磨面	中央部中層	5% PL14
191	須恵器	鉢	-	(11.4)	[15.0]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部縦位の平行印き 内面ナデ 輪積痕	中央部中層	30% PL14
192	土師器	甕	-	(16.7)	8.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨り	北東部中層-末層	60% PL14

第163号住居跡 (第89・90図)

位置 調査区北西部のL1d4区で、標高26mの台地平坦部に位置している。



第89図 第163号住居跡実測図



**規模と形状** 西側の大半が調査区域外であるため、北西・南東軸3.20m、北東・南西軸2.85mだけ確認できた。形状から主軸方向がN-42°-Wの方形もしくは長方形と推測できる。壁高は20~26cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦な貼床で、壁際を除いて硬化面が認められる。貼床はロームブロックを含む暗褐色土を8cmほど埋めて構築されている。確認された範囲では壁溝を確認している。

**ピット** 3カ所。P1は深さ13cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3は深さ15cm・16cmで、性格は不明である。

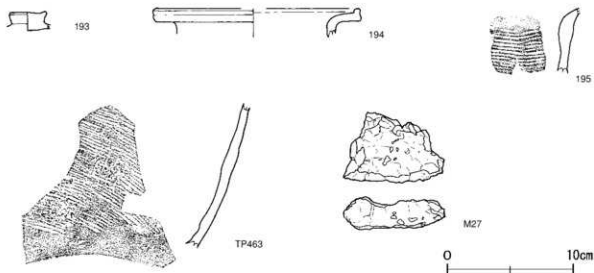
**覆土** 10層に分層できる。ロームブロックを多く含み、不規則な堆積状況から埋め戻されている。第11層は貼床の構築土である。第12~17層は掘方への埋土である。

**土層解説**

1	黒褐色	ロームブロック少量	9	黒褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック多量	10	黒褐色	ローム粒子微量(締まり弱い)
3	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック多量
4	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	12	暗褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量
6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14	ぶい、黄褐色	ロームブロック中量
7	暗褐色	ロームブロック中量	15	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック中量	16	黒褐色	ローム粒子微量
			17	黒褐色	ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器壺1点、須忠器蓋1点、瓶2点、椀状滓1点のほか、土師器片44点(坏類7・堯類37)、須忠器片19点(坏類5・堯類14)、鉄滓1点が出土している。193・TP463・M27は中央部の覆土下層、194・195は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第90図 第163号住居跡出土遺物実測図

第163号住居跡出土遺物観察表(第90図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
193	須忠器	蓋	-	(1.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	つまみ貼り付け	中央部下層	5%
194	土師器	堯	[15.4]	(2.2)	-	長石・石英・雲母	ぶい赤褐	普通	内面ナデ	覆土中	破片
195	須忠器	瓶	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母	ぶい黄	普通	体部微位の平行叩き	覆土中	破片 PL15
TP463	須忠器	瓶	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面輪積痕	中央部下層	5% PL15

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	椀状滓	5.9	8.2	2.6	126.8	鉄	風状を呈す ガラス質の光沢有り 着磁性微弱	中央部下層	PL15

表12 平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 (m) (長軸×短軸)	標高 (m)	床面	階高	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考 新旧関係 (古→新)
								土灶穴	出入口	ピット	竈				
162	L 115	[方形]	N-25°-W	4.10×(3.60)	27~31	平照	[全照]	-	-	-	1	人為	土師器・須恵器	9世紀前半	本跡→SF22
163	L 144	[長方形]	N-42°-W	(3.20)×(2.85)	20~26	平照	[全照]	-	1	2	-	人為	土師器・須恵器	9世紀前半	

## 2 その他の遺構と遺物

遺構に伴う遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、道路跡2条、土坑20基が確認されている。そのうち、遺物が出土している遺構については文章で解説し、その他の遺構については、実測図(第97・98図)と一覧表を掲載する。

### (1) 道路跡

#### 第21号道路跡 (第86・91図)

**位置** 調査区北部のL 1 b4~L 1 c4区で、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 調査区域外にかかるL 1 b4区から南方向に長さ4.58mにわたって、直線的に硬化面が確認された。硬化面の幅は0.15~0.70mである。



**覆土** 単一層で、硬化面の層である。

**土層解説**  
1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

#### 第91図 第21号道路跡実測図

**遺物出土状況** 土師器焼片3点が、覆土中から出土している。細片のため図示できない。

**所見** L 1 c4区で硬化面が確認できなくなっており、本来の長さや性格は不明である。時期は、出土遺物での判断が難しいため不明である。

#### 第22号道路跡 (第86・92図)

**位置** 調査区南東部のL 1 h5~L 1 j5区で、標高26.0mの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第162号住居跡を掘り込んでいる。

**規模と構造** 調査区域外にかかるL 1 h5区から南方向に長さ9.50mにわたって、直線的に硬化面が確認された。硬化面の幅は0.40~1.80mである。



**覆土** 単一層で、硬化面の層である。

**土層解説**  
1 褐色 ロームブロック多量

#### 第92図 第22号道路跡実測図

**遺物出土状況** 土師器焼片3点、須恵器焼片3点、磁器焼片1点が、覆土中から出土している。細片のため図示できない。

**所見** L 1 j5区で硬化面が確認できなくなっており、本来の長さや性格は不明である。時期は、出土遺物での判断が難しいため不明である。

表13 時期不明道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模 (m, 深さ42cm)				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長さ	上幅	下幅	深さ					
21	L114-L114	N-0°	直線	(4.58)	0.15-0.70	-	10	外傾	平坦	人為	土師器	
22	L115-L115	N-20°-E	直線	(9.50)	0.40-1.80	-	5-20	縦斜	平坦	人為	土師器・須恵器・磁器	SI162-本跡

(2) 土坑

第1865号土坑 (第93図)

**位置** 調査区北部のL1d5区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.75m、短径0.61mの楕円形で、長径方向はN-13°-Wである。深さは16cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

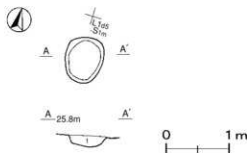
**覆土** 単一層である。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師器甕片1点が覆土中から出土している。細片のため図示できない。土師器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第93図 第1865号土坑実測図

第1866号土坑 (第94図)

**位置** 調査区西部のL1f4区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 西部が調査区域外であるため、東西径は2.02mで、南北径は1.12mだけ確認できた。長径方向がN-4°-Eの楕円形と推測できる。深さは14~28cmで底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

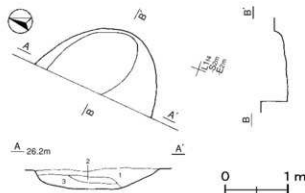
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器甕片3点、須恵器坏片2点が覆土中から出土している。細片のため図示できない。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、出土遺物が混入であることから時期・性格ともに不明である。



第94図 第1866号土坑実測図

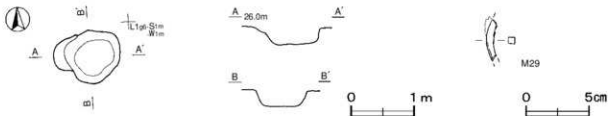
### 第1868号土坑 (第95図)

**位置** 調査区中央部のL1g5区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.05m、短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-90°-Wである。深さは23cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**遺物出土状況** 須恵器鉢片、鉄製品（釘カ）各1点が覆土中から出土している。いずれも埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 時期・性格ともに不明である。



第95図 第1868号土坑・出土遺物実測図

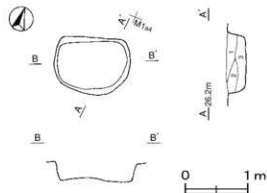
第1868号土坑出土遺物観察表 (第95図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	釘カ	(3.5)	0.5	0.5	(3.3)	鉄	西端部破損	覆土中	PL15

### 第1878号土坑 (第96図)

**位置** 調査区南部のM1a3区で、標高26mの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.24m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-75°-Eである。深さは21cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。



第96図 第1878号土坑実測図

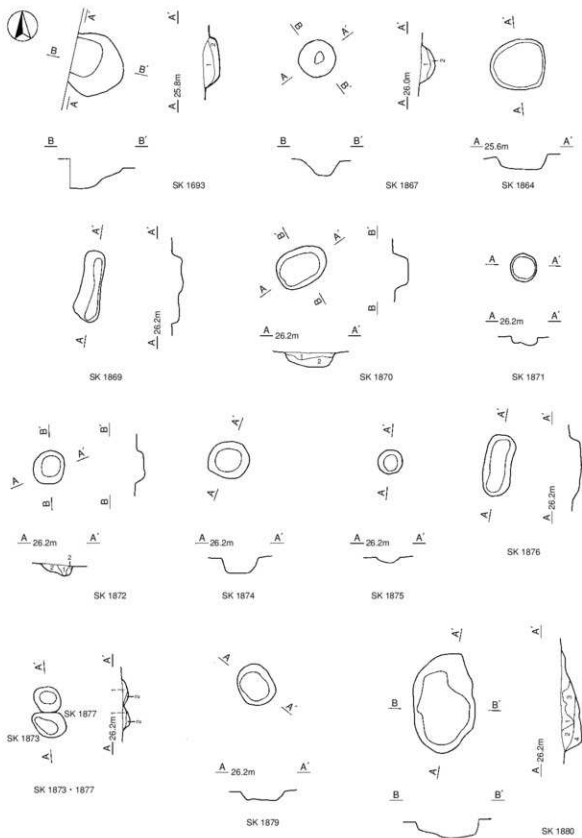
**覆土** 3層に分解できる。ロームブロックを含み、堆積状況から埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量

**遺物出土状況** 土師器鉢片1点が覆土中から出土している。細片のため図示できない。土師器片は、埋め戻された際の混入とみられる。

**所見** 覆土は埋め戻されているが、時期・性格ともに不明である。



第97図 時期不明土坑実測図(1)



第98図 時期不明土坑実測図(2)

第1693号土坑土層解説

1 灰 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗 褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量

第1867号土坑土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック中量

2 暗 褐色 ロームブロック中量

第1870号土坑土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

2 暗 褐色 ロームブロック中量

第1872号土坑土層解説

1 暗 褐色 ローム粒子少量

2 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第1873号土坑土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗 褐色 ロームブロック中量

第1877号土坑土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗 褐色 ロームブロック中量

第1880号土坑土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗 褐色 ロームブロック多量

2 暗 褐色 ロームブロック少量

4 暗 褐色 ロームブロック中量

第1881号土坑土層解説

1 暗 褐色 ロームブロック中量

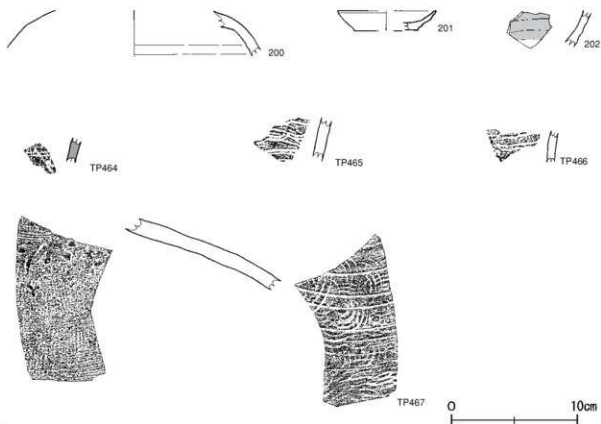
表14 時期不明土坑一覧表

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	縦横 (m、深さ42cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新計関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1693	E 6 i1	[円形]	-	(1.02)×0.82	28	縦斜	皿状	人為		
1864	L 1 e4	円形	-	0.86×0.79	22	外傾	平坦	-		
1865	L 1 d5	楕円形	N-13°-W	0.75×0.61	16	外傾	平坦	人為	土師器	
1866	L 1 f4	[楕円形]	N-4°-E	(2.02)×(1.12)	28	縦斜	平坦	人為	土師器・須恵器	
1867	L 1 f5	円形	-	0.60×0.58	23	外傾	皿状	人為		
1868	L 1 g5	楕円形	N-90°-W	1.05×0.86	23	外傾	平坦	人為	須恵器・鉄製品	
1869	L 1 g5	不定形	N-12°-E	1.13×0.90	17	外傾	有段	-		
1870	L 1 g5	楕円形	N-57°-E	0.83×0.58	17	外傾	平坦	人為		
1871	L 1 g5	円形	-	0.45×0.43	15	有段	皿状	-		
1872	L 1 g5	円形	-	0.55×0.50	18	外傾	平坦	人為		
1873	L 1 i4	不定形	N-74°-W	0.57×0.42	11	縦斜	皿状	人為		
1874	L 1 j5	楕円形	N-18°-E	0.68×0.61	25	外傾	平坦	-		
1875	L 1 j5	円形	-	0.40×0.39	10	縦斜	皿状	-		
1876	L 1 j5	楕円長方形	N-9°-E	0.96×0.43	18	外傾	平坦	-		
1877	L 1 i4	楕円形	N-48°-W	0.48×0.39	8	縦斜	皿状	人為		
1878	M 1 a3	楕円形	N-75°-E	1.24×0.90	21	外傾	皿状	人為	土師器	

番号	位置	平面形	長径(軸)方向	規模 (m. 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 新計開係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1879	L 1 j 5	楕円形	N-45°-W	0.66×0.57	15	縦斜	平坦	-		
1880	L 1 i 4	楕円形	N-10°-E	1.61×0.99	28	外傾	皿状	人為		
1881	L 1 f 4	楕円形	N-40°-E	0.93×0.80	11	縦斜	皿状	人為		
1882	L 1 j 4	楕円形	N-58°-E	1.531×0.58	21	外傾	平坦	-		第1号層跡→本跡

### (3) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物のうち特徴的なものを実測図(第99図)と観察表で記載する。



第99図 遺構外出土遺物実測図

### 遺構外出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備 考
200	須恵器	壺	-	(3.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	外面自然軸付着	表土	5% PL15
201	須恵土器	小皿	(7.7)	1.6	[5.0]	細砂・石英	橙	普通	底部回転糸切り 内面仕上げナデ	表土	15%
202	陶器	平碗	-	(2.8)	-	細砂・黒色粒子	にぶい橙	良好	内・外面灰軸施軸	表土	新計開係 5.5
TP464	須恵土器	深鉢	-	(2.0)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	半載竹管による爪形文	表土	破片 PL15
TP465	須恵土器	深鉢	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	黒糸文施文の上に半載竹管による沈濁文	SI 100	破片 PL15
TP466	須恵土器	壺	-	(2.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	2本施文具の横位の平行線	表土	破片 PL15
TP467	須恵器	壺	-	(5.9)	-	長石・石英	灰	普通	内面同円文の帯で長径 30mm 外面自然軸付着	表土	破片 PL15

## 第5節 ま と め










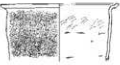


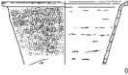
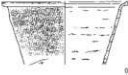
今回の調査で、当上野古屋敷遺跡は平成12・13年度の調査（以下、第1・2次調査と略す）で明らかにされているように旧石器時代から近世までの複合遺跡であり、遺跡がさらに南西部へ広がっていることを確認した。各時代ごとのあり方については、『茨城県教育財団文化財調査報告第285集』<sup>11</sup>（以下、『285集』と略す）において詳細に述べられているので、ここでは今回の調査によって得られた事実関係を記述する。

### 1 平安時代

当時代の遺構は、標高26mの台地平坦部から竪穴住居跡4軒、井戸跡1基が確認されている。住居跡の時期は、出土土器の様相<sup>12</sup>から第162・163号住居跡が9世紀前葉、第157・158号住居跡が9世紀中葉に比定できる。分布状況は、台地の南西部に約11mの間隔をもって南北に2軒（第157・158号住居跡）、その北西80mの位置に、約14mの間隔をもって南北に2軒（第162・163号住居跡）が存在している。第1・2次調査において確認されている同時期の住居跡は9世紀前葉が6軒で、今回の調査区から北東に約240m離れたK7区に3軒、さらに北東に約180m離れたG9・H9区に3軒分布している。9世紀中葉の住居跡は3軒で、今回の調査区から北東に約400m離れたG9・H10区に分布している。当期の住居跡は、今回の調査で台地の南西方にまで広がっていたことが明らかになった。この時期の竈は北壁に付設されることに統一されている。集落構造としては、2・3軒の住居からなる単位集団が、ある程度の間隔をもって存在する散在型の集落であり、核となるような単位集団の存在は認められない。支谷を挟んだ約100m北西の上野陣場遺跡でも、同様の傾向が見られる。<sup>13</sup>

出土遺物を見ると、土師器と須恵器の比率ではやや土師器が多いが、須恵器は坏・高台付坏・蓋・甕・鉢など多様な器種が見られる。9世紀前葉の住居跡から出土した須恵器坏は、口径13～14cm、底径8cmで、口縁部で外反するものが多く、底部・体部下端の調整は手持ちヘラ削りが主体である。須恵器甕・鉢・飯は、

上野古屋敷遺跡出土遺物・類似事例

9世紀前葉					
					
	第162号住居跡	第76号住居跡	東岡中原遺跡		
9世紀中葉					
					
	第157号住居跡			東岡中原遺跡	



体部の叩きが縦位のものが見られる。9世紀中葉の住居跡から出土した土師器環は、口径13cm、底径7cmで、内面はヘラ磨き・黒色処理が施されている。須恵器環は口径13cm、底径8cmで、9世紀前葉より器高が低くなっている。須恵器甕・鉢・甌は、体部の叩きが格子目叩きのものが見られる。

井戸跡(第48号)は、2つの住居跡グループのはほぼ中間に存在している。時期は、出土土器の様相や重複関係から9世紀前葉に比定できる。第1・2次調査において当時代の井戸跡は確認されていない。井戸跡は、北西約40mに存在する第162・163号住居跡と同時期にあたり、生活用水の確保や排水機能を果たしていたと想定される。

## 2 中世

当時代の遺構は、標高25～26mの台地平坦部から掘立柱建物跡3棟、方形竪穴遺構7基、地下式坑3基、井戸跡4基、堀跡1条、溝跡9条、土坑19基、不明遺構1か所が確認されている。第1・2次調査において当時代の遺構は多数確認されており、15世紀後半から16世紀後半にかけて集落が営まれていたと報告されている。<sup>4)</sup> 今回の調査では、時期・性格ともに明らかな遺構は少ない。特に15世紀から16世紀代の遺構は明確でなく、中世において今回の調査区は集落の外周部にあたっていたとみられる。

掘立柱建物跡は、調査区西部から2棟(第77・78号)、南部から1棟(第76号)が確認されている。第1・2次調査では、44棟確認されており、居宅として機能していた建物(16棟)、納屋などの倉庫的な機能をもっていた建物(28棟)として報告されている。<sup>5)</sup> 今回の調査で確認された3棟は、いずれも桁行3間(12～13.5尺)、梁行1間(8～9尺)の掘立柱建物で、桁行方向(N-34°-W)をほぼ同じにしている。第1・2次調査において同様の規模・構造の建物は1棟(第70号)しか確認されておらず、関連性はうかがえない。西部の2棟は方形竪穴遺構や地下式坑群と隣接しており、規模や形状から居宅としての機能が想定される。

方形竪穴遺構は、調査区南東部から4基(第13～16号)、北西部から3基(第17～19号)が確認されている。第1・2次調査では、12基確認されており、墓地に伴う施設として報告されている。<sup>6)</sup> 南東部の4基のうち、調査区域外にまたがる第16号を除く3基の方形竪穴遺構からは、南東側に入り口が確認されている。また、第14・15号には、中央部に柱穴と思われるピットがあり、上屋構造を伴う居住施設の可能性も考えられるが、床面から焼土や炭化物、灰などが検出されていないことや、硬化面が確認されていないことなどから、納屋や作業小屋的な機能であったものと想定される。北西部の3基は、南東部のものより小形で、掘立柱建物跡や地下式坑、土坑群と隣接している。第18・19号はピットが確認されておらず、周辺に火葬土坑や墓坑がないことなどから、倉庫的な機能であったものと想定される。

地下式坑は、調査区北西部から2基(第16・17号)、西部から1基(第18号)が確認されている。3基ともに主室の長軸(径)、短軸(径)が2m前後、深さが1～1.5mで、主軸方向をほぼ同じにしている。第1・2次調査では15基の地下式坑が確認されており、主室の平面形が隅丸長方形・隅丸方形・方形・楕円形・不定形と多様性が見られ、墓地に伴う施設として報告されている。<sup>7)</sup> 北西部の2基は、掘立柱建物跡や方形竪穴遺構、土坑群と隣接しており、覆土から骨粉や灰などが確認されていないことなどから、倉庫的な機能をもっていたと想定される。

井戸跡は、調査区東部から3基(第49・50・52号)、北部から1基(第51号)が確認されている。形状から4基とも素掘りの井戸で、平坦な台地上に立地している。第1・2次調査では、47基確認されており、散村的な小集落の中で、生活用水の確保や排水機能を果たしていたと報告されている。<sup>8)</sup> 東部の3基は、方形竪穴遺構と隣接しており、これらと同時期に機能し、生活用水確保のための役割を果たしていたと想定され

る。北部の1基は、周辺に建物跡等の遺構が確認されていない。北西約40mに位置する第77・78号掘立柱建物跡を中心とする遺構群との関連性が想定される。

堀跡は1条確認されている。調査区域外の南東部から北西方向へ約83m直線的に伸びており、当遺構の中では、最も長いものである。全体が確認できないことから性格は明らかではないが、遺跡の北西側が支谷の谷頭であることから、堀の北東側を区画したものと想定される。堀跡が確認されたことで、当集落の性格は「285集」で報告されている「国人層よりやや身分が下で、小田城主と関係する武力を有した半武士・半農民の土豪層を中心とした集落跡」の可能性が高まったと言える。また、第1・2次調査において威信財と考えられる遺物が出土していること、何条もの区画溝が確認されていることから、「館」の可能性も考えられる。

溝跡は、9条確認されており、南東部から北西方向へ伸びているものと、南西部から北東方向に伸びている二者に大別できる。第371号溝跡は前者にあたり、第1号堀跡と平行しながら伸び、第77・78号掘立柱建物跡を中心とする遺構群の手前で直角に折れている。前記の遺構群と南側を区画していた区画溝の可能性が高い。

以上、述べてきたように、今回の調査区（2・4・5区）は平安時代には散在型の集落があり、中世以降にあっては、集落の外周部にあたっていたことが判明した。

当遺跡の調査は、さらに継続して行われる予定であり、新たな事実が明らかになる可能性もあるが、各時代ともに現在までの明らかになった様相が大きく変化することはないと思われる。

#### 註

- 1) 三谷正・大塚雅昭・桑村裕「上野古屋敷遺跡-中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月
- 2) 白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
- 3) 大塚雅昭・川上直登・長谷川聡「上野陣場遺跡-中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- 4) 註1)に同じ
- 5) 註1)に同じ
- 6) 註1)に同じ
- 7) 註1)に同じ
- 8) 註1)に同じ

#### 参考文献

- ・東国中世考古学研究会研究集会「関東の地下式坑を考える」東国中世考古学研究会 2006年11月
- ・松本直人「鳥名館の山道跡-鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第236集 2005年3月
- ・中・近世研究班「中世の壑穴状遺構について」『研究ノート』財団法人茨城県教育財団 1992年3月
- ・川井正一「上野古屋敷遺跡2-中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第307集 2008年3月



写 真 图 版



遺跡遠景 (南方上空から)



調査2区全景



第157号住居跡  
完掘状況



第157号住居跡  
遺物出土状況



第77号掘立柱建物跡  
完掘状況

第13号方形竖穴遺構  
完掘状況



第14号方形竖穴遺構  
第1771号土坑  
完掘状況



第15号方形竖穴遺構  
第1777号土坑  
完掘状況





第18号方形竖穴遺構  
完掘状況



第19号方形竖穴遺構  
完掘状況



第18号地下式坑  
完掘状況



第49号井戸跡  
完掘状況



第51号井戸跡  
完掘状況



第52号井戸跡  
完掘状況





第1734号土坑  
完掘状况



第1804号土坑  
遺物出土状况



第1806号土坑  
完掘状况



第78号掘立柱建物跡 完掘状況



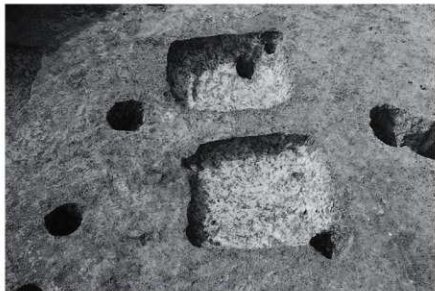
第1号堀跡 完掘状況1/3



第367号溝跡 完掘状況



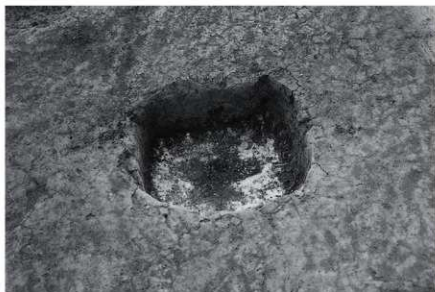
第379号溝跡 完掘状況



第1726·1727号土坑  
完掘状况

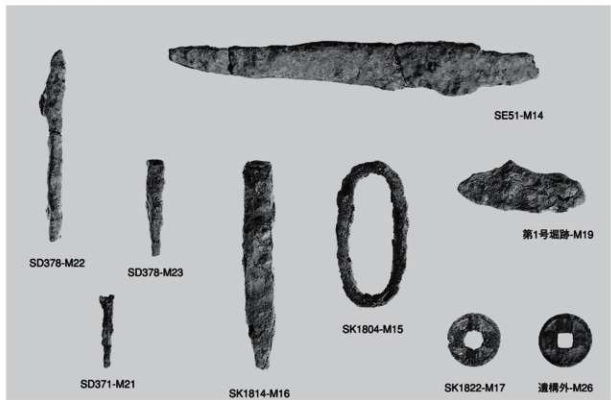
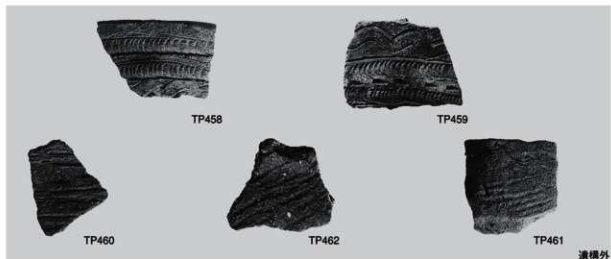


第1791·1796号土坑  
完掘状况



第1792号土坑  
完掘状况





第157号住居跡,第51号井戸跡,第1号堀跡,第367・371・378号溝跡,第1804・1814・1822号土坑,遺構外出土遺物

第162号住居跡  
完掘狀況



第162号住居跡  
遺物出土狀況



第162号住居跡  
竈完掘狀況





第163号住居跡  
完掘状況



第1号掘跡  
完掘状況



第1号掘跡  
掘方完掘状況



第21号道路跡  
土層断面



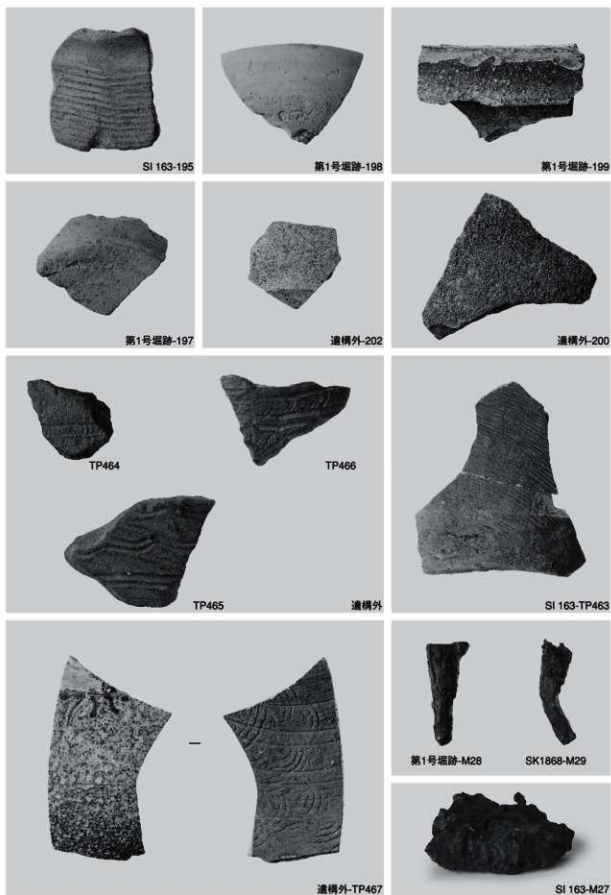
第1878号土坑  
完掘状況



第1868~1872号土坑  
完掘状況







第163号住居跡,第1号堀跡,第1868号土坑,遺構外出土遺物

## 抄 録

ふりがな	うえのふるやしきいせき							
書名	上野古屋敷遺跡3							
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次	Ⅻ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第324集							
編著者名	齋藤和浩 川井正一							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行年月日	2009(平成21)年3月23日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
上野古屋敷遺跡 <small>うのふるやしきいせき</small>	茨城県つくば市 大字上野字西久保 449番地ほか <small>茨城県つくば市 大字上野字西久保 449番地ほか</small>	08220   510	36度 6分 48秒 36度 7分 00秒	140度 7分 33秒 140度 7分 21秒	25 ~ 28m	20060901 ~ 20070331 20070901 ~ 20071231	6.495㎡  367㎡	中根・金田台特定土地区画整理事業に伴う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上野古屋敷遺跡	集落跡	平安	竪穴住居跡	4軒	土師器(坏、甕)、須惠器(坏、高台付坏、蓋、盤、鉢、甕、瓶)、土製品(紡錘車)			
		中世・近世	掘立柱建物跡	3棟	土師質土器(小皿、碗、内耳鍋、搦鉢)、黑色土器(鉢)、陶器(小皿、甕)、磁器(碗、皿、瓶)、石器(砥石)、金属製品(短刀、釘、環状品、火打金、古銭)、瓦			
	その他		時期不明	溝跡	6条			
			道路跡	2条				
			土坑	120基				
			ピット群	6か所				
要約	当遺跡名が示すように、当域は現在の上野地区の故地と言われ、調査区には古屋敷の字名が残っている。調査の結果、縄文時代早・前・中期、弥生時代後期、古墳時代前・中期、奈良・平安時代、中世後半と断続的に集落が営まれた旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡であることが判明した。今回報告するのは、第307集で報告した調査区の北側(4区)と第285集で報告した調査区の南西側(2・5区)の部分である。							

茨城県教育財団文化財調査報告第324集

上野古屋敷遺跡 3

中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅻ

平成21（2009）年3月18日 印刷  
平成21（2009）年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社高野高速印刷  
〒310-0853 茨城県水戸市平須町1822-122  
T E L 029-305-5588